

網走川水系河川整備基本方針

流域及び河川の概要(案)

令和 年 月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

1. 流域の概要	1
1-1 河川・流域の概要	1
1-2 地形	4
1-3 地質	5
1-4 気候・気象	7
1-5 網走湖	10
1-6 オホーツク海の流氷	12
2. 流域及び河川の自然環境	13
2-1 流域の自然環境	13
2-2 河川及びその周辺の自然環境	20
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	29
2-4 自然公園の指定状況	34
3. 流域の社会状況	37
3-1 土地利用	37
3-2 人口	39
3-3 産業・経済	42
3-4 交通	44
3-5 関係ある法令の指定状況	46
4. 水害と治水事業の沿革	49
4-1 既往洪水の概要	49
4-2 治水事業の沿革	50
4-3 流域治水対策の取組	53
5. 水利用の現状	57
5-1 水利用の現状	57
5-2 渇水被害及び渇水調整	57
6. 河川流況及び水質	59
6-1 河川流況	59
6-2 河川水質	61
7. 河川空間の利用状況	65
7-1 河川敷等の利用状況	65
7-2 高水敷の利用状況	66
7-3 河川の利用状況	67
7-4 内水面漁業	68
8. 河道特性	70
8-1 河道の特性	70
8-2 河床変動の経年変化	71
9. 河川管理の現状	73
9-1 河川管理区間	73
9-2 河川管理施設	74

9-3 許可工作物.....	74
9-4 水防体制.....	75
9-5 危機管理の取組.....	77
10. 地域との連携.....	79
10-1 地域住民、河川協力団体、市民団体等との協働.....	79
10-2 関係自治体との連携・調整.....	79

1. 流域の概要

1-1 河川・流域の概要

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳（標高 978m）に発し、山間部を流下し、津別町市街部で津別川を合わせ、平野部を流れながら美幌町市街部において美幌川と合流する。美幌町を貫流し大空町において網走湖に至り、トマップ川及び女満別川を湖内に集め、湖から流れ出て網走市街地を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長 115km、流域面積 1,380km² の一級河川である。

その流域は、北海道オホーツク海側南部に位置し、関係市町は網走市、津別町、美幌町、大空町の 1 市 3 町からなり、流域内の人口は、昭和 43 年（1968 年）と平成 27 年（2015 年）を比較すると約 6 万 7 千人から約 4 万 8 千人へと減少する一方、高齢化率は約 5%から約 34%に大きく増加している。

流域内の土地利用は、森林・河川等が約 77%、農地が約 22%、宅地等の市街地が約 1%となっている。流域内は森林資源等に恵まれ、下流では農地として明治初期からひらけ、畑作等が営まれ、甜菜やタマネギの全国有数の産地となっている。また、流域内には女満別空港や重要港湾に指定されている網走港が整備されており、陸路では JR石北本線、国道 39 号、240 号、243 号等の基幹交通施設があり、交通の要衝となっている。

網走という地名は昔から諸説あるが、「北海道の地名」によれば、アイヌ語の「ア・パ・シリ」（我らが・見つけた・土地）や「アパ・シリ」（人口の・地）に由来しているなどの説がある。

また、網走川河口付近の小高い丘には「モヨロ（最寄）貝塚」と呼ばれる史跡があり、3～13 世紀にかけてオホーツク海沿岸を中心に栄えた海洋狩猟民族の集落遺跡で、「オホーツク文化」の存在が日本で初めて明らかになった遺跡である。

さらに、網走川はワカサギ、サケ、カラフトマス等が遡上する他、網走湖にはシジミが生息するなど、魚類等の重要な生息地で豊かな自然環境に恵まれており、網走湖を中心にワカサギやシジミ、スジエビ等を対象とした漁業が行われている。

また、河川空間を利用した人と川との触れ合いの場として、様々な利用が四季を通じて行われているほか、地域住民に憩いと安らぎを与える場となっている。

表 1.1 網走川流域の概要

項 目	諸 元	備 考
流路延長	115km	全国 49 位/109 水系
流域面積	1,380km ²	全国 49 位/109 水系
流域市町	1 市 3 町	網走市、大空町、美幌町、津別町
流域内関連市町人口	約 4.8 万人	
想定氾濫区域面積	約 50km ²	
想定氾濫区域内人口	約 1.0 万人	
河川数	25	

※出典：第 10 回河川現況調査（H27）、北海道統計書（R5）、国勢調査（R2）



網走湖下流部



湖沼部（網走湖）



下流部



中流部



美幌川

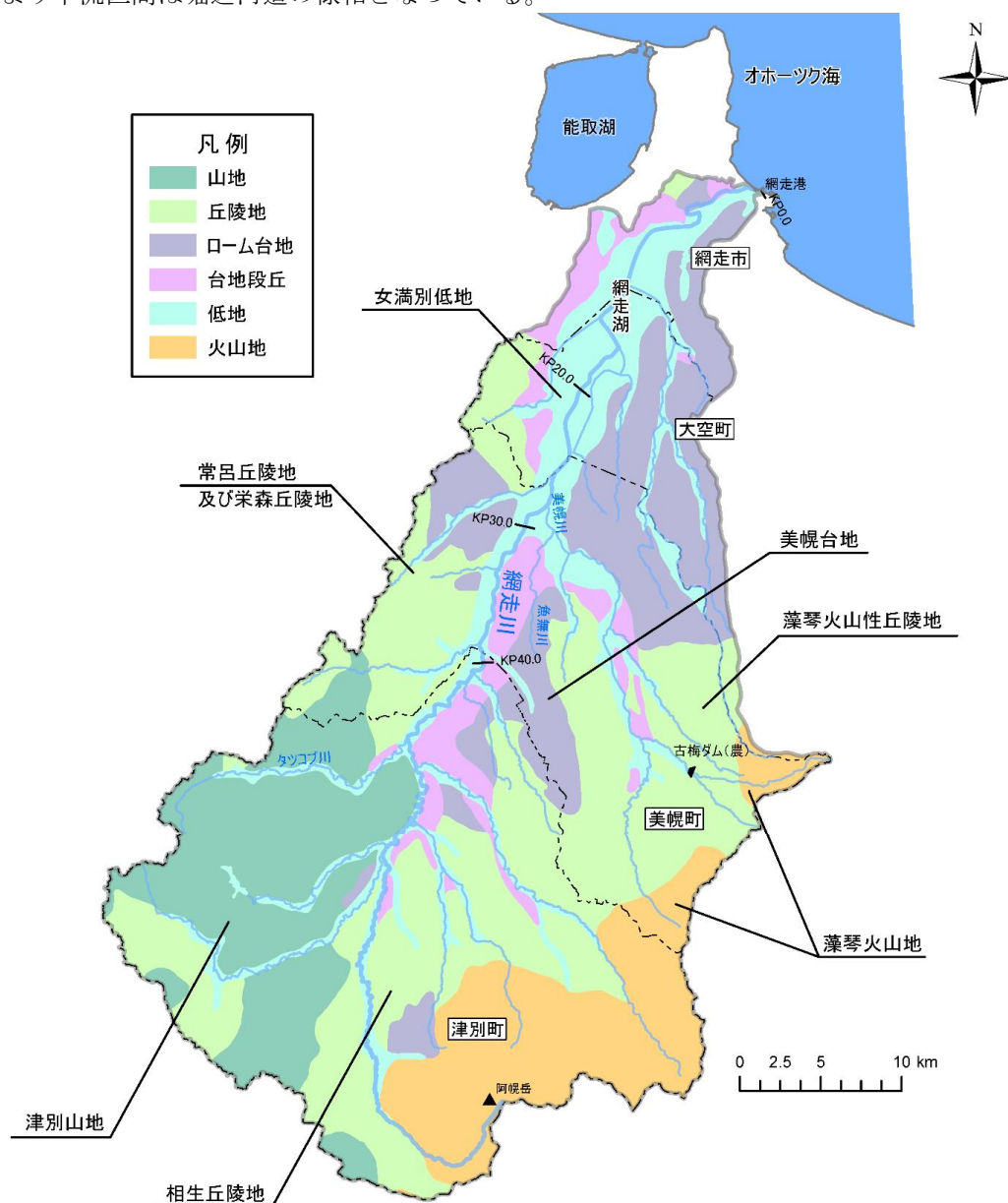
写真 1.1 網走川流域

1-2 地形

流域の地形は、大きく山地・火山地、丘陵地、台地、河川沿いの低地に分類され、山地・火山地は、南部の流域上流部に分布し、網走川本川の西側の津別山地は小起伏山地で、網走川本川の東側分水嶺付近の藻琴火山地は藻琴山等の中起伏火山地と周囲の火山麓地を含んでいる。

丘陵地は、網走川本川の中・下流の西側に分布する常呂丘陵地及び栄森丘陵地、南部上流部の網走川本川と支流の津別川に挟まれた地域に分布する相生丘陵地、流域東部に広く分布する藻琴火山性丘陵地がある。また、網走川本川と支流の美幌川の中流部には河岸段丘が発達し、美幌台地を形成している。

低地は、網走湖と美幌台地の間の網走川本川沿いに女満別低地が分布し、汽水湖である網走湖より下流区間は堀込河道の様相となっている。



※出典：「国土交通省国土調査（土地分類調査・水調査）」を加工して作成

<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download.html>

図 1.2 地形分類図

1-3 地質

流域の地質は、西部の山地や丘陵地は白亜紀の緑色岩石及び非火山性の新第三紀層であり、東部に広がる丘陵地や台地には第四紀層の火山噴出物が広く分布している。

西端部のチミケツ湖から訓津峠^{くんしん}にかけての山地には、先白亜系仁頃層群が分布している。仁頃層群^{にころ}は玄武岩質凝灰岩、角礫岩を主体とし、レンズ状に石灰岩やチャート等の小岩体を伴う。これらの岩石は、一般に緑色を呈することから緑色岩類と総称される。また、分水嶺付近には、先白亜系の基盤を覆って、新第三系の火山岩類や第四系の火砕流堆積物が小規模に分布している。

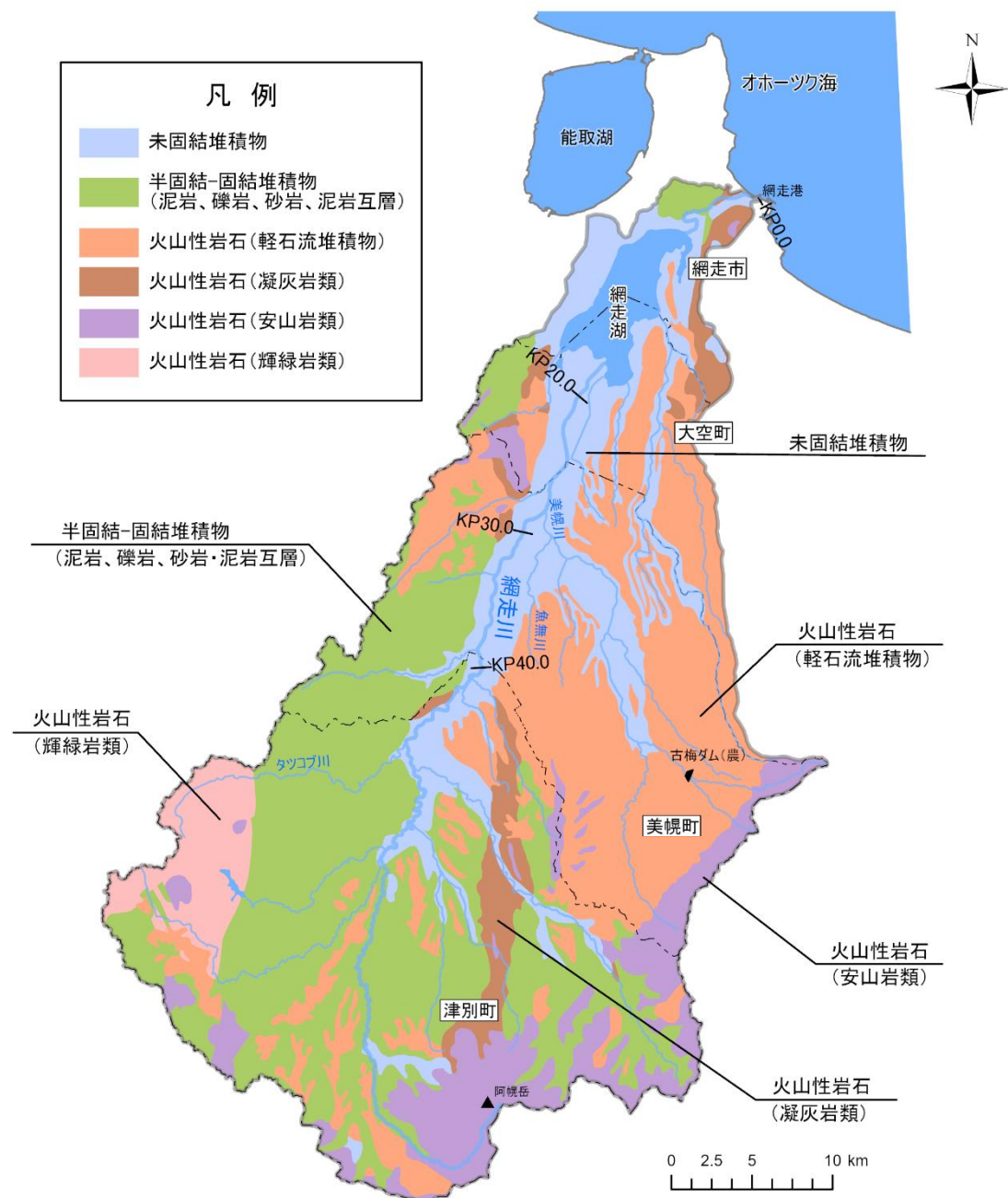
西端部を除く本流西側の津別山地や津別川南側の相生丘陵地には、新第三系の堆積岩層が分布する。東部には凝灰岩主体の里美層、中西部にはシルト岩や硬質頁岩等からなる津別層^{たつこび}や達媚層が分布している。

流域南部から南東端部の阿寒及び屈斜路^{くつしゃろ}との分水嶺付近には、火山カルデラの外輪山を形成する安山岩及び玄武岩溶岩が分布する。

網走川中・下流の東側に広がる台地や丘陵地には、屈斜路火山を噴出源とする火砕流堆積物が分布している。これらは軽石を含む火山灰を主体としており、小河川沿いには部分的に溶結した部分も認められる。

網走川東側の台地には、非火山性堆積岩類からなる新第三系、中新統網走層が分布し、その上位には段丘堆積物も認められる。

美幌から津別にかけての網走川本流右岸部及び美幌川流域には河岸段丘が発達し、砂礫を主体とする第四紀更新統の段丘が広く分布している。また、網走川下流の女満別低地には、泥炭を含む軟弱土の分布が認められる。



※出典：「国土交通省国土調査（土地分類調査・水調査）」を加工して作成

<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download.html>

図 1.3 地層地質分布図

1-4 気候・気象

北海道の気候は、太平洋側西部気候区・太平洋側東部気候区・日本海側気候区・オホーツク海側気候区の4つの気候区に区分されている。その特徴としては、梅雨期がないこと、春季の気温上昇と降雨により融雪洪水が起こりやすいこと、大雨は夏季末期から秋季の台風と前線の影響によってもたらされることが挙げられる。

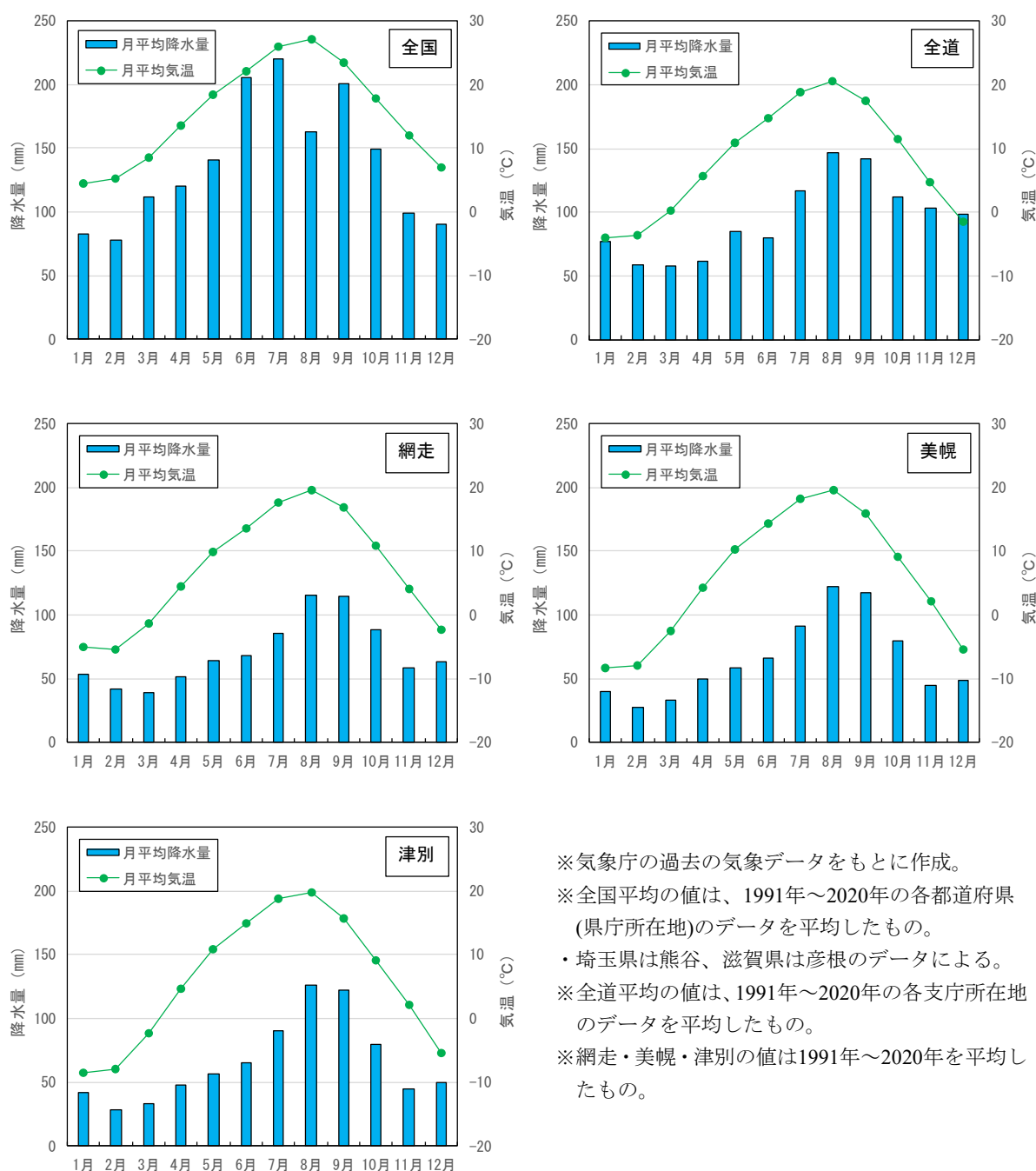
流域の気候は、オホーツク海側気候区に属し、平均気温は全道平均に比べて若干低く、5月から9月まではオホーツク海高気圧による低温を除いては比較的温和であるが、夏季にはフェーン現象が起こりやすく猛暑に見舞われることがある。秋冬にかけては雨量も少なく、晴天乾燥の日が多く続く。冬季は、北西の季節風と流氷の影響を受け、氷点下20℃を下回る日もある。

年平均気温は網走で6.9℃であるが、内陸に入るに従い標高が高くなるため低下し、津別では6.0℃である。下流に位置する網走は海岸性で比較的気温差が少なく、8月の日最高気温平均は23.3℃、1月の日最低気温平均は-8.9℃であるが、上流に位置する津別は内陸的で8月の日最高気温平均は25.4℃、1月の日最低気温平均は-15.3℃と寒暖差が大きい。

年平均降水量は、網走川流域では約850mmであり、全国の年平均降水量である約1,700mmや全道の年平均降水量である約1,100mmと比較すると非常に少ない。網走地方の降雨型は、移動性低気圧による前線性の降雨が多く8～9月に100mm/月を超えるが、11～3月は50mm/月を下回る月もある。

表 1.3 各気象観測値（1991 年(H3)～2020 年(R2)）

項目	網走	美幌	津別	全道平均	全国平均
平均気温（℃）	6.9	5.8	6.0	7.9	15.5
最高気温（℃）	33.2	33.7	34.1	30.8	36.3
最低気温（℃）	-16.5	-24.0	-24.0	-15.3	-3.7
平均風速（m/s）	3.3	1.8	2.0	4.0	2.9
最大風速（m/s）	16.6	10.5	10.7	18.6	15.9
日照時間（時間）	1,850.0	1,807.8	1,810.9	1,698.8	1,913.4
降水量（mm）	844.2	778.6	787.1	1,136.1	1,676.4



※気象庁の過去の気象データをもとに作成。
 ※全国平均の値は、1991年～2020年の各都道府県（県庁所在地）のデータを平均したもの。
 ・埼玉県は熊谷、滋賀県は彦根のデータによる。
 ※全道平均の値は、1991年～2020年の各支庁所在地のデータを平均したもの。
 ※網走・美幌・津別の値は1991年～2020年を平均したもの。

図 1.5 月別降水量・平均気温

1-5 網走湖

網走湖は、数千年前にできた海跡湖で、その後地表の変動等により、約 1,000 年前に現在の姿になったといわれている。その頃から淡水化が進み、湖盆は半楕円に近く南北に約 12km、幅は 2～5km あり、最大水深 16.10m、湖岸線長 42km、面積 32.3km²、湛水量約 2.3 億 m³ で道内の湖沼中、第 8 位の面積となっている。

(1) 網走湖成因の経緯

網走湖は、約 1 万年前の古アバシリ海峡時代（アサリ時代）には、現在より水位が約 10m 高かったと考えられ、能取湖とオホーツク海に通じた海峡となっていた。約 3,000～7,000 年前の古アバシリ海湾時代（カキ時代）へ移り変わるところになると、水位の下降や地盤隆起等により汽水化され前時代のアサリが消えカキが生息していた。約 1,500～3,000 年前の古アバシリ湖時代（シジミ時代）には、現在より水位が約 3 m 高かったと考えられ、網走湖と能取湖に分離され、より汽水化が進みシジミが生息するようになった。その後、約 1,500 年前から現在の上層淡水、下層塩水という、二層湖になったと考えられている。

(2) 網走湖の自然環境

網走湖は、昭和 33 年（1958 年）に網走国定公園に指定された公園内に位置する。周辺は水辺特有の植物が生息しており、網走湖南東岸には、国の天然記念物に指定されている女満別湿生植物群落があり、ミズバショウの群生地となっている。また湖周辺を縁取るようにヨシが群生しており、ヒロハノエビモ、ホザキノフサモ、マツモ等の沈水植物や浮葉植物のヒシ群落等多様な植物が見られる。

鳥類としては国の天然記念物に指定されているオジロワシ、オオワシ、クマゲラのほか、オオヨシキリ等の草原性鳥類、オオハクチョウ、マガモ、オナガガモ等のガン・カモ類が飛来し、カモメ類やシギ等の水辺の鳥類が多数生息している。また、女満別湖畔の湖畔林は、アオサギの営巣地となっている。

魚類としてはヤチウグイ、フナ属（ヒブナ）、ワカサギ、シラウオ等が生息している。

(3) 網走湖の社会環境

網走湖は、シジミ、ワカサギ、シラウオ、スジエビ等内水面漁業の漁場であり地域経済に大きく貢献している。また、洪水時は自然の遊水池としても網走市街地の洪水防御に役立っている。

網走湖の観光資源としては、春のミズバショウ探勝に始まり、夏のシジミ貝採り、ボート遊びやウィンドサーフィン、カヌー等の利用がなされ、冬には氷上のワカサギ釣り、スノーモービル等を楽しむ人達で賑わっている。キャンプやワカサギ釣りで網走湖を利用する人々は令和元年度（2019 年度）で年間約 10 万人に及ぶ。

また、網走湖は、昭和 62 年（1987 年）全国高校総体、平成元年（1989 年）はまなす国体の漕艇競技場として利用された。



写真 1.2 はまなす国体

(4) 網走湖の問題と対策

網走湖南部の湖岸は、標高 1～2m の網走川が作ったデルタ性低地であり、網走川からの掃流土砂によるデルタの発達とともに陸地化現象がみられ、今後さらに陸地化現象が進み網走湖の洪水調節容量に減少をきたすことと、上流部での水位上昇が懸念されるため、さまざまな調査を実施し、検討を行っている。

また、水質障害として問題となっているのが、青潮とアオコであり、湖面を風速 10m 以上の強風が吹くと風下に淡水層が吹き寄せられ、その反動で風上では下層の無酸素層が上昇し、一時的に無酸素状態になり、魚等が窒息死してしまうほか、窒素、リン等の汚濁物を含む塩水が淡水層に混入し、水質悪化を助長させる。水質が悪化した状態で、水温が上昇すると植物プランクトンが窒素やリン等を栄養にして大量に増殖する「アオコ」が発生する。これらの対処として湖底の浚渫や水草の刈り取り、地域の流入河川の水質浄化のほか、網走湖直下に設置した可動式ゲートによる海水流入の抑制により青潮やアオコの発生抑制を実施している。



青潮の発生により斃死した魚



アオコの発生により緑色に変色した湖



浚渫



水草刈取

写真 1.3 水質障害と水質浄化対策

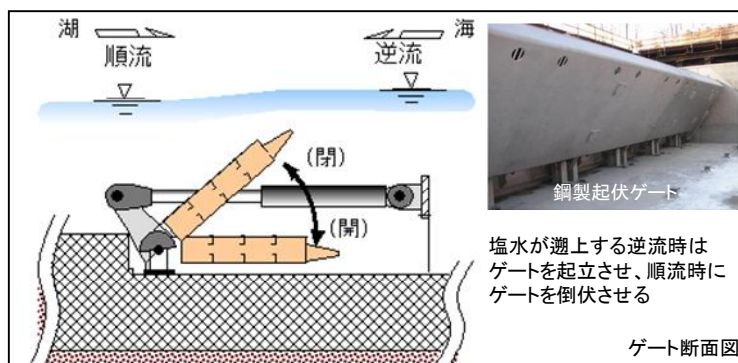


図 1.6 可動式ゲート

1-6 オホーツク海の流氷

オホーツク海は北緯 62 度から 44 度にいたる南北約 2,000km にも及ぶ細長い海である。オホーツク海のほぼ全域は毎冬厚い流氷に覆われる。オホーツク海で最初に凍結するのは北緯 55 度線上の西端にあたるシヤンタル島周辺及びそこから北東に延びる海岸沿いであり、早い場所では 11 月初旬に凍りはじめる。

シヤンタル島付近で始まった結氷域は東に拡大し、12 月初めには樺太沿岸の北端にまで達する。その後、樺太東岸に沿って南に延び、また東の方にも拡大する。北海道沿岸への襲来はほぼ 1 月中旬である。2 月初めには、流氷範囲は千島列島の南端に達し、その一部は太平洋に流出を始める。

3 月の初旬若しくは中旬に流氷域が最大となり、オホーツク海沿岸は毎年厚い流氷で覆われる。

3 月以降、流氷の拡大経路と丁度逆の経路をたどって流氷が後退する。樺太北部沿岸では 5 月初旬でも流氷が見られ、オホーツク海に流氷が完全になくなるのは 6 月に入ってからである。

流氷の厚さは北海道沿岸で 40cm から 50cm、北部では 1m 強である。しかし、互いに積み重なった氷（これを氷丘という）の高さは、北海道沖でも海面上数メートルに達するのが珍しくない。

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

(1) 植物

網走川流域の地形は山地から低湿地に至る高度差も大きく、加えて河川、湖沼、海と非常に変化に富んでいる。このため、低地帯から高山帯までの様々な植生が見られ、源流部の阿寒岳周辺にはハイマツに代表される高山植物群落が見られ、それより標高が下がるに従い、針葉樹林、針広混交林、広葉樹林となっていく。特に津別峠、チミケツ湖周辺等の山岳地帯には、エゾマツ・トドマツの針葉樹林が広く分布している。山麓部では、エゾマツ・トドマツの針葉樹とミズナラ、エゾイタヤ等の広葉樹が混生する針広混交林が代表し、カラマツの人工林も比較的よく見られる。

網走川や網走湖周辺にはヤナギ林やヨシ群落等の水辺特有の植生となっており、網走湖畔には天然記念物に指定されている女満別湿生植物群落等が分布している。



エゾマツ林



女満別湿生植物群落（ミズバショウ）

写真 2.1 植物

(2) 哺乳類

網走川流域は山地や丘陵地を中心に自然林が多く残されており、近くに阿寒摩周国立公園、網走湖、能取湖等の大きな湖沼があることから、哺乳類の生息環境として恵まれた地域である。

上流部の森林地域では、シマリス（エゾシマリス）、キタリスや、大型哺乳類のヒグマ、ニホンジカが広く生育している。平野部や下流部では、農耕地やヤナギを主とする河畔林が見られ、キツネ、ニホンイタチ、イイズナ（キタイイズナ）、キタリス、ハントウアカネズミ（カラフトアカネズミ）等の中・小型の哺乳類が生息している。



キツネ



ニホンジカ

写真 2.2 哺乳類

(3) 鳥類

網走川流域は、自然林が多く残され、また低地帯から高山帯、さらには網走湖やチミケップ湖等の様々な環境に恵まれていることから、全般に鳥類相は豊富で多種の鳥類が見られる。

市街地や集落地の周辺では、ムクドリ、ハシブトガラス、スズメ、トビ等が優占し、平地から林縁地にはシジュウカラ、ホオジロ、モズ等が見られる。

山地部の落葉広葉樹林には、ハシブトガラ、アカゲラ、コゲラ、エナガ、オオルリ、カケス等が生息し、溪流ではカワセミ、ヤマセミ、カワガラス、イカルチドリ、コチドリ等が見られる。また、針葉樹林には、ウソ、アオジ、コサメビタキ、クマゲラ、センダイムシクイ等が生息する。

網走湖の水面には、オオハクチョウをはじめ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ等のガン・カモ類、草地や水生植物帯にはオオヨシキリやカイツブリ等が飛来し、また、ユリカモメ、オオセグロカモメ等のカモメ類やシギ類等の水辺の鳥類が多数生息する。なお、網走湖畔のヤチダモ林一帯は、アオサギの繁殖地として有名である。

貴重種としては、オジロワシ、オオワシ、クマゲラ、オオジシギ、ヤマセミ、ヒシクイ等があげられる。



オオワシ



アオサギの営巣地

写真 2.3 鳥類

(4) 昆虫類

網走川流域は北海道の北東部地域にあつて夏季の冷涼、冬季の酷寒という気象条件下にあるが、自然植生地がまだ比較的広く残されていることから、ヒメウスバシロチョウ、コエゾゼミ等の北海道特産種、準北海道特産種、キタイトトンボ、アカメイトトンボ、リングシジミ等の北海道を分布の南限とする種の多くの昆虫が生息している。



ヒメウスバシロチョウ

写真 2.4 昆虫類

(5) 魚類

網走川の魚類の生息分布はエゾウグイが全域に生息するほか、底質に粘土や砂が多い下流部の緩流域ではドジョウ類、エゾホトケドジョウ、ヤチウグイ、ウキゴリ、カワヤツメ、ジュウサンウグイ、ニホンイトヨ、ジュズカケハゼ等が生息しており、底質が礫や砂で水が澄んだ中流部ではエゾウグイ、フクドジョウが多数生息している。礫底が主体となる上流部ではサクラマス（ヤマメ）、シベリアヤツメ、アメマス、ハナカジカ等の渓流性の魚類が生息する。網走湖にはワカサギ、シラウオ、エゾウグイ、ヤチウグイ、フナ属（ヒブナ）等が生息している。また地域産業に重要なサケ、カラフトマスが遡上している。



アメマス



サクラマス（ヤマメ）

写真 2.5 魚類

(6) 両生類・爬虫類

網走川流域の両生類は、北海道の山林原野に普通に生息しているエゾアカガエルが代表的である。また、「北海道の希少野性生物 北海道レッドデータブック 2001」において留意種に選定されているエゾサンショウウオも網走湖周辺の沢水のたまる場所で確認されている。爬虫類は調査記録が少ないが、アオダイショウ、シマヘビ、ニホンカナヘビ等の生息が確認されている。



エゾサンショウウオ（幼生）

写真 2.6 両生類

(7) 底生動物

網走川流域の底生動物は、汽水域及び下流部の緩流域ではキスイタナイス、スジエビ等が生息しており、中流部の平瀬や早瀬の礫間においては、アカマダラカゲロウ、ミジカオフトバコカゲロウ、ナミコガタシマトビケラ等が生息している。網走湖にはトゲオヨコエビ、クロイサザアミ等が多く生息している。

貴重種としては、カワシンジュガイ、ヤマトシジミ等が確認されている。



カワシンジュガイ



ヤマトシジミ

写真 2.7 底生動物

表 2.1 網走川水系の特定種-1

区分	No.	種 名	指 定 区 分				
			文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
植物	1	ヤチスギナ			VU		Vu
	2	ヒメカイウ			NT		
	3	ミクリ			NT		R
	4	ヒメガマ					R
	5	ジョウロウスゲ			VU		R
	6	イトヒキスゲ			VU		
	7	アカンカサスゲ					R
	8	マツモ（広義）					R
	9	チドリケマン			VU		
	10	キタミフクジュソウ					Vu
	11	クロミサンザシ			EN		Cr
	12	キンロバイ			VU		R
	13	カラフトイバラ					R
	14	ヤエガワカンバ			NT		
	15	ゴキツル					R
	16	オオバタチツボスミレ			NT		
	17	ヤマタニタデ			VU		
	18	ワサビ					R
	19	エゾノミズタデ					Vu
	20	ヤナギヌカボ			VU		R
	21	ノダイオウ			VU		
	22	オオハコベ			VU		
	23	エゾキヌタソウ			VU		
	24	エゾムグラ			VU		R
	25	ヤブヨモギ			VU		
	26	ネムロブシダマ			VU		
両生類	27	エゾサンショウウオ			DD	N	
哺乳類	28	コテングコウモリ				N	
	29	クロテン（エゾクロテン）			NT	Nt	
鳥類	30	ヒシクイ	天		NT(オオヒシクイ) VU(ヒシクイ(亜種))	N(オオヒシクイ、ヒシクイ(亜種))	
	31	マガン	天		NT	N	
	32	オシドリ			DD	Nt	
	33	シノリガモ			LP		
	34	ヒメウ			EN	En	
	35	チュウサギ			NT		
	36	タンチョウ	特	内	VU	Vu	
	37	イカルチドリ				Dd	
	38	オオジシギ			NT	Nt	
	39	タカブシギ			VU	Vu	
	40	ウミネコ				Nt	
	41	オオセグロカモメ			NT	Nt	
	42	ミサゴ			NT	Nt	
	43	オジロワシ	天	内	VU	Vu	
	44	オオワシ	天	内	VU	Vu	
	45	チュウヒ		内	EN	En	
	46	ハイタカ			NT	Nt	
	47	オオタカ			NT	Nt	
	48	ヤマセミ				N	
	49	コアカゲラ				Dd	
	50	オオアカゲラ				Dd	
	51	クマゲラ	天		VU	Vu	
	52	ハヤブサ		内	VU	Vu	
	53	ホオアカ				Nt	

表 2.2 網走川水系の特定種-2

区分	No.	種 名	指 定 区 分				
			文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
魚 類	54	シベリアヤツメ			NT	Nt	
	55	カワヤツメ			VU	Nt	
	56	カワヤツメ属			NT (シベリアヤツメ) VU (カワヤツメ)	Nt (シベリアヤツメ、 カワヤツメ)	
	57	フナ属 (ヒブナ)				Lp	
	58	ヤチウグイ			NT	Nt	
	59	ジュウサンウグイ				N	
	60	エゾウグイ				N	
	61	キタドジョウ			DD		
	62	ドジョウ類			NT (トシジョウ) DD (キタトシジョウ)		
	63	エゾホトケドジョウ			EN	En	
	64	シラウオ				Vu	
	65	サクラマス			NT	N	
	66	サクラマス (ヤマメ)			NT	N	
	67	ニホンイトヨ				N	
	68	ジュズカケハゼ			NT		
陸上昆虫类等	69	ナツアカネ					R
	70	ヒメリスアカネ					R
	71	トビイロズキンヨコバイ					R
	72	オオミズギワカメムシ					R
	73	オオコオイムシ					R
	74	ゴマフトビケラ					R
	75	ギンイチモンジセセリ			NT	Dd	
	76	カバイロシジミ			NT		
	77	ゴマシジミ北海道・東北亜種			NT	N	
	78	ヒメジャノメ				Dd	
	79	キタミモンヤガ				Nt	
	80	キバネクロバエ					R
	81	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		
	82	エゾコガムシ			NT	N	
	83	オビモンマルハナノミ				Nt	
	84	カラフトヨツスジハナカミキリ				Nt	
	85	アオバアシナガハムシ				Nt	
	86	ウスキモモトハバチ					R
	87	ツノアカヤマアリ			DD		
	88	テラニシクサアリ			NT		
	89	ニッポンホオナガスズメバチ			DD		
	90	モンズズメバチ			DD		
	91	チャイロスズメバチ					R
底生動物	92	エゾミズゴマツボ			VU		
	93	コシダカヒメモノアラガイ			DD		
	94	モノアラガイ			NT		
	95	ヒメヒラマキミズマイマイ			EN		
	96	ヒラマキミズマイマイ			DD		
	97	ヒラマキガイモドキ			NT		
	98	カワシンジュガイ		内	EN		
	99	ヤマトシジミ			NT		
	100	Semblis属					R (コマフトビケラ、カラフトマフトビケラ)
	101	エゾコオナガミズマシ			NT	Nt	
	102	クロホシコガシラミズムシ			VU		
	103	チビコガシラミズムシ				Nt	

< 凡例 >

・文化財保護法

「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)

特:特別天然記念物、天:天然記念物

・種の保存法

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」(令和 5 年政令第 29 号)

内:国内希少野生動植物種、特国:特定国内希少野生動植物種、緊:緊急指定種

・環境省レッドリスト 2020

環境省 (2020)「環境省レッドリスト 2020」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧 II 類、
NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

・北海道レッドリスト

北海道 (2015)「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版 (2015 年)」

北海道 (2016)「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版 (2016 年)」

北海道 (2016)「北海道レッドリスト【昆虫>チョウ目編】改訂版(2016)」

北海道 (2017)「北海道レッドリスト【鳥編】改訂版 (2017 年)」

北海道 (2018)「北海道レッドリスト【魚類編(汽水・淡水)】改訂版 (2018 年)」

北海道 (2019)「北海道レッドリスト【昆虫>コウチュウ目編】改訂版 (2019)」

Ex:絶滅、Ew:野生絶滅、Cr:絶滅危惧 IA 類、En:絶滅危惧 IB 類、Vu:絶滅危惧 II 類、
Nt:準絶滅危惧、Dd:情報不足、N:留意、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群

・北海道レッドデータブック 2001

北海道 (2001)「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001」

Ex:絶滅種、Cr:絶滅危機種、En:絶滅危惧種、Vu:絶滅危急種、R:希少種、N:留意種、
Lp:地域個体群

※種まで特定されていない確認種について、候補となる種が全て重要種に該当する場合、それぞれの指定状況を併記した。

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 流域及び河川の自然環境

1) 上流部(源流部～津別川合流点付近)

上流部は、源流部となる阿寒山系の阿幌岳から津別町市街地付近までの急流区間であり、天然林が多く残る。阿寒岳周辺にはハイマツに代表される高山植物群落が見られる。山麓部においてはミズナラ、エゾイタヤ等の広葉樹とトドマツ、エゾマツ等の針葉樹が混在しており、キタミフクジュソウ等の植物が生育している。

鳥類は、カケスやキツツキ類等が確認されている。

魚類は、シベリアヤツメ、アメマス、サクラマス（ヤマメ）等が確認されている。また、サケ、カラフトマス、サクラマスが遡上しており、それらの産卵床が分布している。

2) 中流部(津別川合流点付近～美幌川合流点付近)

中流部は、広い畑地帯に調和した河川景観が形成されている。高水敷は河畔公園、運動公園が整備され、イベントやスポーツ等に利用されている。河岸はエゾノキヌヤナギやオノエヤナギ等を主体とする河畔林、また、山付き部にはヤチダモ、ハルニレ等が分布している。

鳥類は、ヤマセミ、コチドリ、イカルチドリ等が水辺で確認されている。また、オジロワシやオオワシ等の希少猛禽類も確認されている。

魚類は、シベリアヤツメ、サケ、サクラマス（ヤマメ）、ハナカジカ等が確認されている。また、サケ等の産卵床が分布している。



写真 2.8 網走川中流部

3) 下流部(美幌川合流点付近～網走湖)

下流部は、背後地に畑作地帯が広がり、河岸はエゾノキヌヤナギやオノエヤナギ等を主体とする河畔林が連続して分布しているほか、水際にはクサヨシが分布し、また、広い高水敷は採草地等に利用されている。網走湖への流入部付近では、大規模なヨシ群落が分布している。

鳥類は、カワセミ、アオサギ、コチドリ、イカルチドリ等が水辺で確認されているほか、オジロワシやオオワシ等の希少猛禽類やヒシクイが確認されている。また、高水敷ではタンチョウも確認されている。

魚類は、カワヤツメ、ニホンイトヨ、ジュズカケハゼ等が確認されているほか、サケ等の遡上・産卵が確認されており、また、ワカサギの産卵床が連続的に分布している。



写真 2.9 網走川下流部

4) 湖沼部(網走湖)

網走湖及び周辺は国定公園に指定されている。湖畔には天然記念物に指定されている女満別湿生植物群落等が分布している。水際にはヒロハノエビモやホザキノフサモ、マツモ（広義）等の水生植物が生育している

鳥類は、オジロワシやオオワシ等の希少猛禽類やクマガラ、また、アオサギの営巣地等が確認され、網走湖のヨシ群落では、オオヨシキリ、タンチョウ、チュウヒも確認されている。

魚類及び底生動物は、ワカサギ、シラウオ、ニホンイトヨ、ヤチウグイ、フナ属（ヒブナ）、ヤマトシジミ等が確認されている。

網走湖の水質は COD75%値が環境基準を満足しておらず、アオコや青潮等の発生による漁業資源等への悪影響が懸念されている。



写真 2.10 網走湖

5) 網走湖下流部(網走湖～河口)

網走湖下流部は、網走湖の流出口である大曲地区左岸において、ヤチダモやハルニレ等による河畔林が良好な景観を形成している。

鳥類は、ミコアイサ等のカモ類が多く確認されているほか、アオサギ、カワセミ、オオヨシキリ、カイツブリ等が確認されている。また、オジロワシやオオワシ等の希少猛禽類も確認されている。

魚類は、ワカサギ、シラウオ、ジュウサンウグイ、エゾホトケドジョウ、ニホンイトヨ等が確認されているほか、サケやサクラマス（ヤマメ）等が遡上している。また、ヤマトシジミが網走湖から網走湖下流部の汽水区間に生息しているほか、沢水の溜まる箇所にはエゾサンショウウオが生息している。



写真 2.11 網走湖下流部

6) 美幌川

網走川合流点から 3.5k の区間は、左右岸とも堤防が整備されており、河岸はエゾノキヌヤナギやオノエヤナギ等の河畔林が連続的に分布するほか、高水敷にはセリ等が分布している。

鳥類は、希少猛禽類のオジロワシ、オオタカのほか、草原性鳥類のオオジシギ、水辺性鳥類のカモ類等が確認されている。

魚類は、サケやカラフトマス等が遡上するほか、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、アメマス等が確認されている。

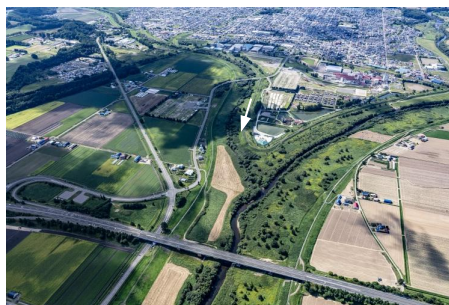


写真 2.12 美幌川

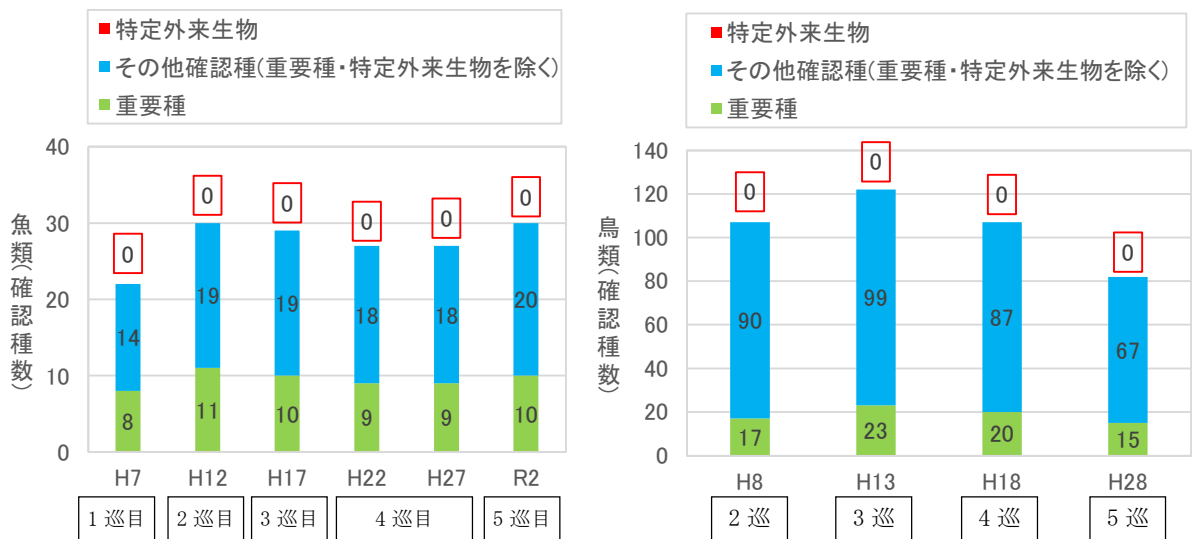
(2) 動植物の生息・生育・繁殖環境等の変遷

1) 動植物の確認種数の変遷(網走川)

魚類は、重要種の確認種数及びその他確認種数に大きな変化は見られなかった。

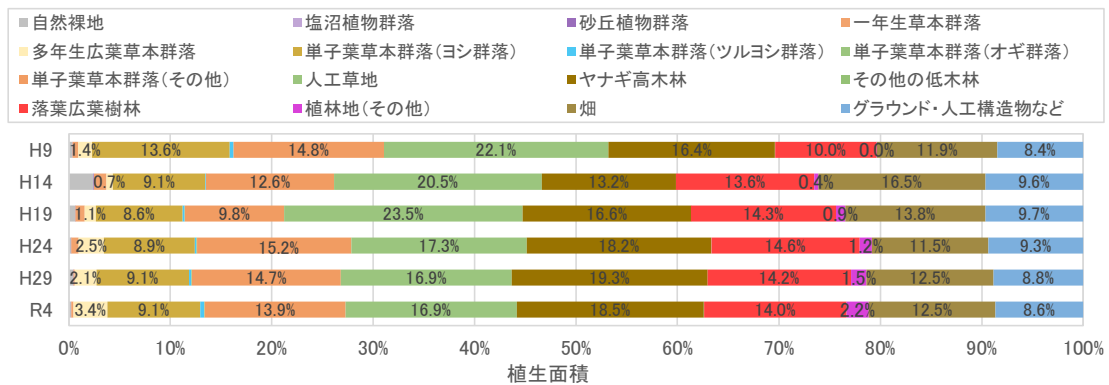
鳥類は、平成8年度(1996年度)から平成13年度(2001年度)まで確認種数が増加した後、平成28年度(2016年度)にかけて減少傾向が見られる。

河道内は、自然裸地や人工草地在減少傾向、多年生広葉草本群落やヤナギ高木林の増加傾向がみられるものの、構成割合に大きな変化はみられない。



※出典：河川水辺の国勢調査

図 2.1 生物相の経年変化(左：魚類、右：鳥類)



※網走湖で確認される沈水植物・浮葉植物群落はグラフから除く

※出典：河川水辺の国勢調査

図 2.2 河道内の植物群落とその内訳の変遷

2) 動植物の確認種数の変遷(美幌川)

魚類は、重要種の確認種数及びその他確認種数に変動はあるものの大きな変化は見られなかった。

鳥類は、重要種数に大きな変化は見られないが、平成8年度(1996年度)以降その他確認種数は減少傾向が見られる。

河道内は、多年生広葉草本群落が増加傾向にあり、人工草地は減少傾向が見られる。

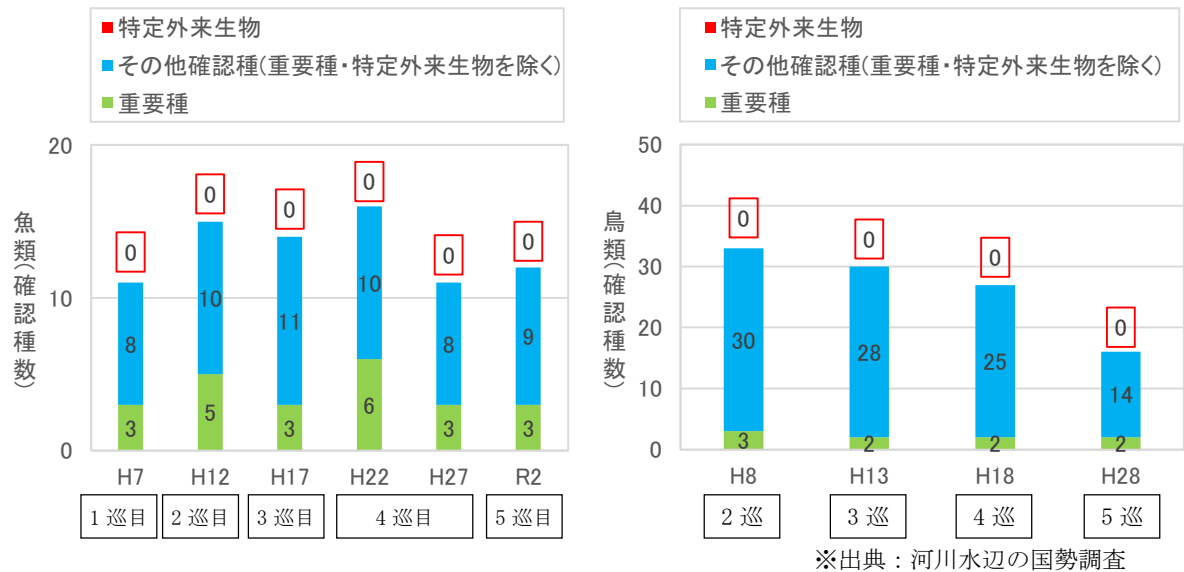


図 2.3 生物相の経年変化(左：魚類、右：鳥類)

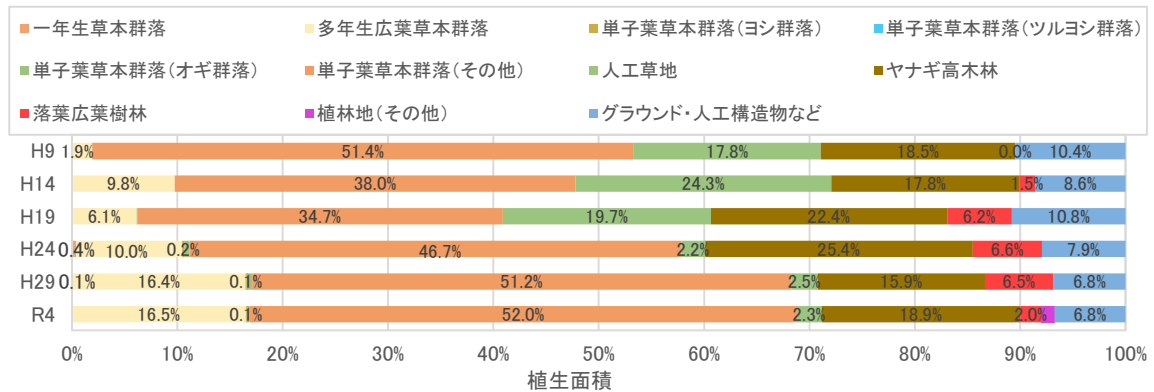


図 2.4 河道内の植物群落とその内訳の変遷

3) 網走川の気温、水温の変化

網走川の代表地点の年平均気温は、46 年間で網走観測所において約 2.5℃、津別観測所において約 2.9℃、それぞれ上昇している。

年平均水温は、48 年間で網走橋観測所において約 2.3℃、治水橋観測所において約 2.2℃、大正橋観測所において約 2.5℃、それぞれ上昇している。

大正橋地点の水温の経月変化をみると、概ね最低となる 1 月は 0～0.2℃で平均 0.0℃、最高となる 8 月は約 16～25℃で平均 20.0℃である。

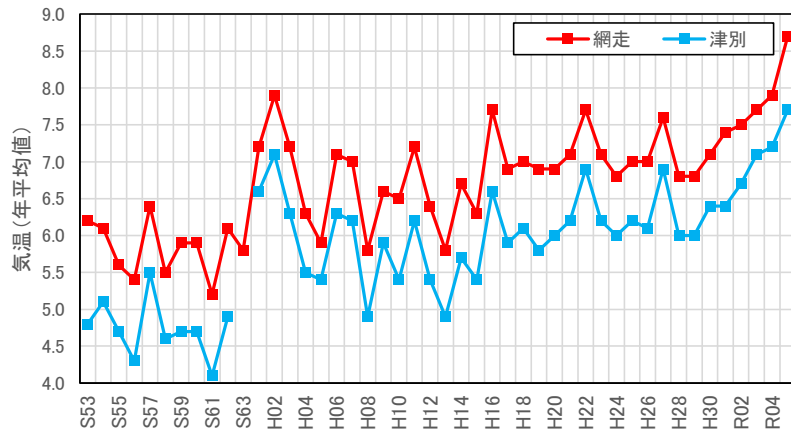


図 2.5 気温（年間平均値）の経年変化

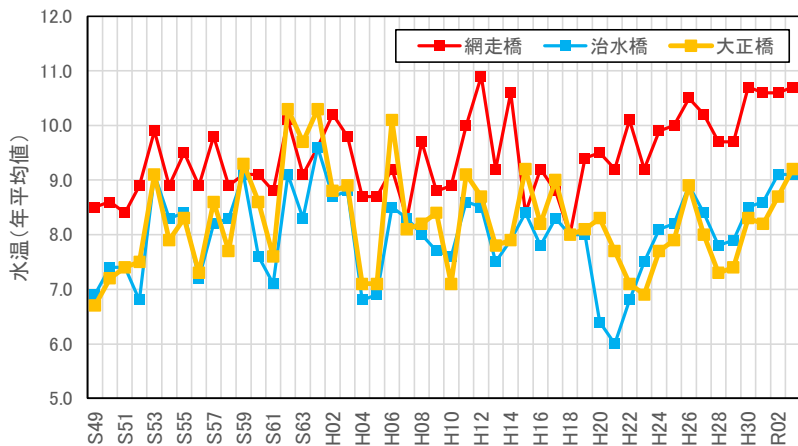


図 2.6 水温（年間平均値）の経年変化

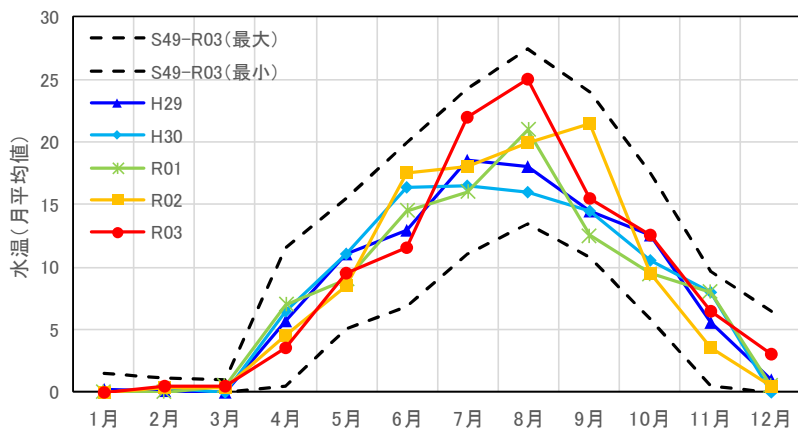


図 2.7 水温（大正橋地点）の経月変化

4) 美幌川の気温、水温の変化

美幌川の代表地点の年平均気温は、美幌観測所において46年間で約2.6℃上昇している。

年平均水温は、年による変動が見られるものの、美幌橋観測所において44年間で大きな変化は見られない。

美幌橋地点の水温の経月変化をみると、概ね最低となる1月は0～0.4℃で平均0.1℃、最高となる8月は約15～20℃で平均16.3℃である。

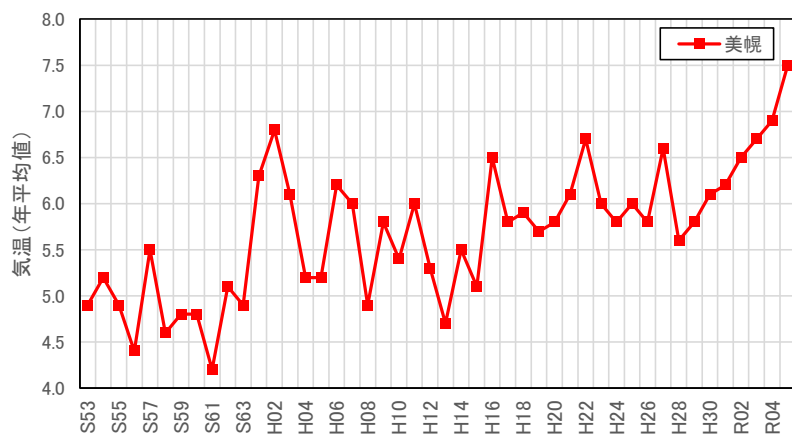


図 2.8 気温(年間平均値)の経年変化

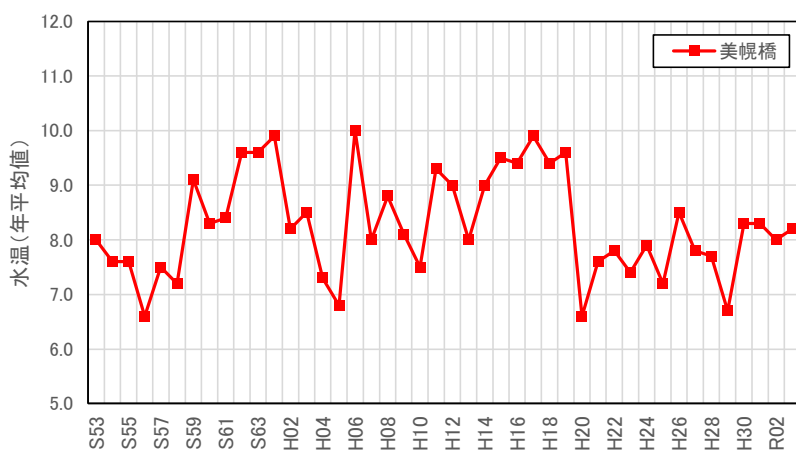


図 2.9 水温(年間平均値)の経年変化

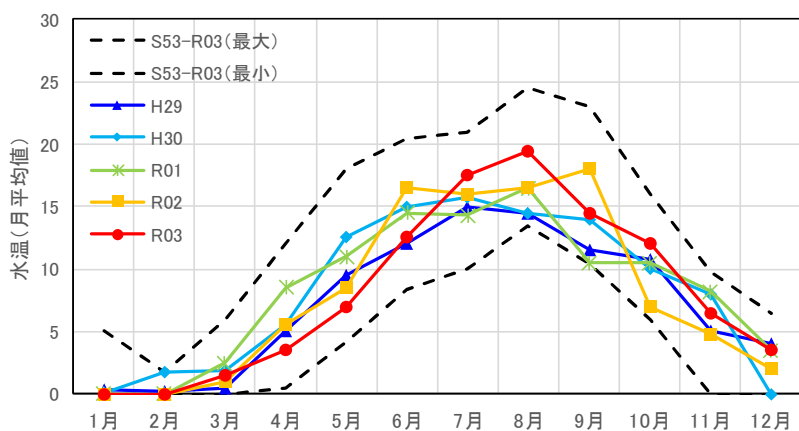
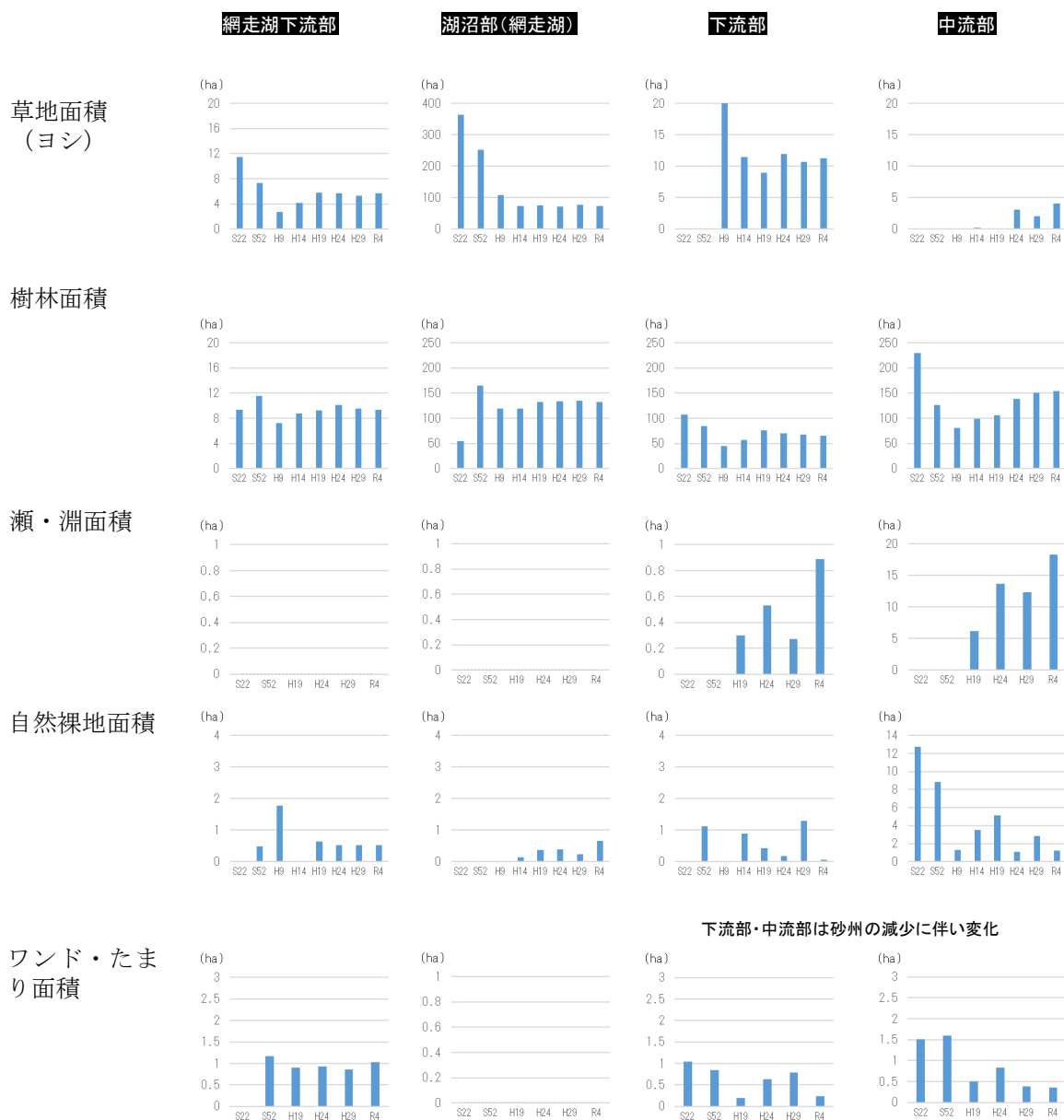


図 2.10 水温(美幌橋地点)の経月変化

(3) 自然環境の現状

1) 主要な自然環境要素の変化(網走川)

網走川における草地(ヨシ)面積は、湖沼部では昭和年代と比較すると減少傾向が見られるが、全区間において近年はおおむね横ばい傾向で推移している。樹林面積は、下流部及び中流部では昭和22年(1947年)と比較すると減少傾向が見られるが、中流部においては増加傾向にあり、それ以外の区間においては、近年おおむね横ばい傾向で推移している。瀬・淵面積は、下流部及び中流部で増加傾向であるが、自然裸地面積や自然裸地により形成されるワンド・たまり(砂州尻ワンド)面積は、下流部、中流部で減少傾向が見られる。



注)データ出典

・S22、S52 : 航空写真判読

・H9～R4 : 河川水辺の国勢調査

図 2.11 物理環境の変遷

2) 主要な自然環境要素の変化(美幌川)

美幌川においては、管理区間延長が 3.5km と短く、網走川と比較して環境要素の規模は小さい。自然裸地は確認されておらず、それ以外の環境要素については、近年明らかな増減傾向は見られない。

注) 網走川と同年代の航空写真や社整備データがないため、河川水辺の国勢調査のみ整理

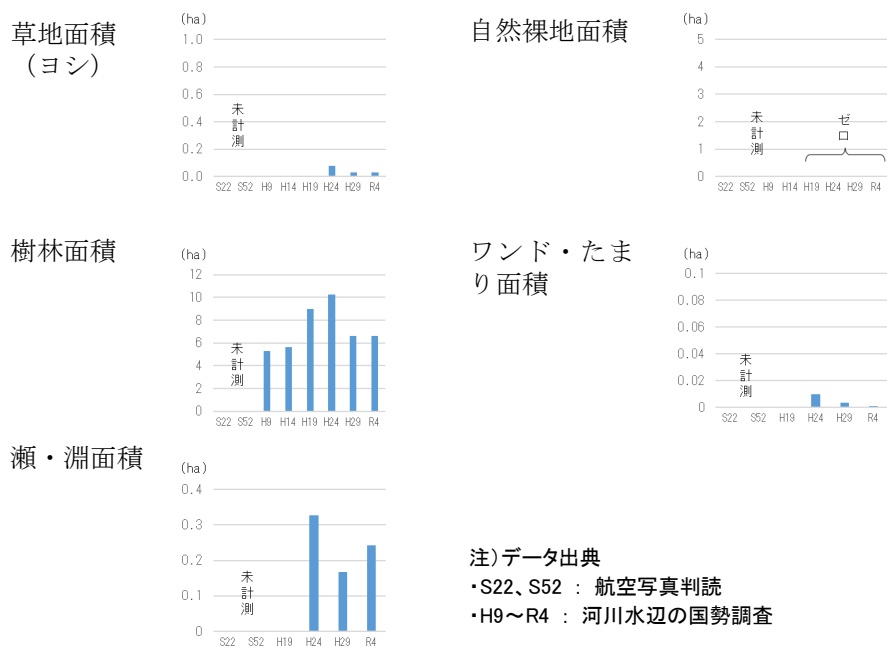


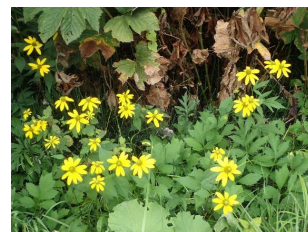
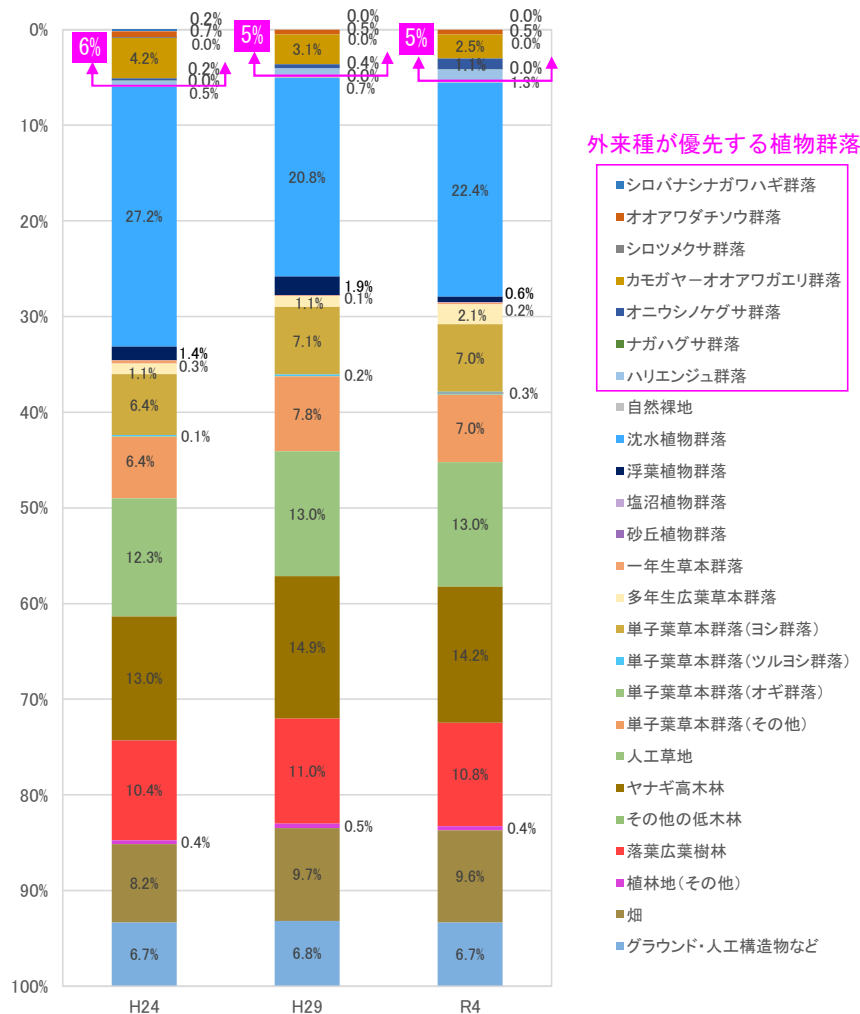
図 2.12 物理環境の変遷

(4) 外来種の確認状況

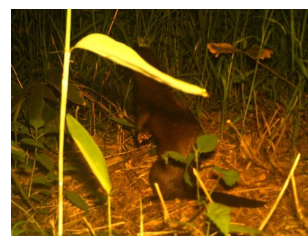
網走川では、特定外来生物に指定されている植物のオオハンゴンソウ、哺乳類のアライグマ、ミンク、陸上昆虫類のセイヨウオオマルハナバチ、底生動物のウチダザリガニが確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念される。特にオオハンゴンソウ、セイヨウオオマルハナバチは、平成19年（2007年）以降、経年的に確認されている。

また外来種が優先する植物群落の面積割合は横ばい傾向で推移している。

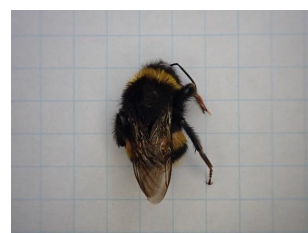
なお高水敷に侵入したハリエンジュの樹林化防止の取組を積極的に行っている。



オオハンゴンソウ



ミンク



セイヨウオオマルハナバチ



ウチダザリガニ

図 2.13 植物群落における外来種の分布状況

写真 2.13 特定外来生物

表 2.3 特定外来生物の経年確認状況

No.	分類	種和名	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1	植物	オオハンゴンソウ																												
2	哺乳類	アライグマ																												
3		ミンク																												
4	昆虫	セイヨウオオマルハナバチ																												
5	底生動物	ウチダザリガニ																												

調査年 ● 確認年

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 景観・景勝地

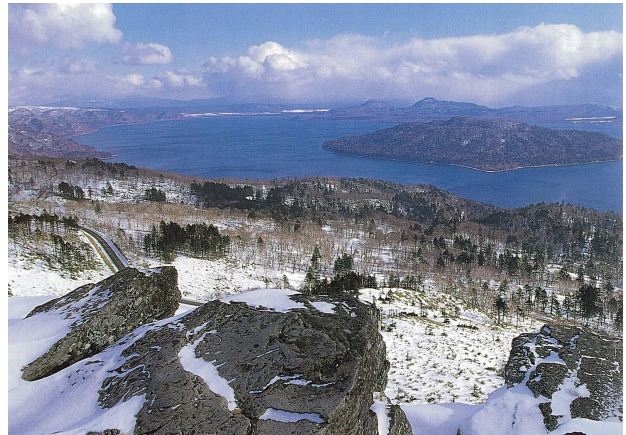
網走川流域は、網走湖及びチミケップ湖の湖沼景観を始めとした自然景観に恵まれている。湖の周囲ではキャンプ場や公園等の自然とふれあう場を提供しており、網走湖周辺には温泉地が点在している。

美幌町から弟子屈町間には主要観光ルート的美幌峠があり、展望台からは屈斜路湖や摩周岳、斜里岳までが一望でき、津別峠と並び主要観光地となっている。

また、流域内市町では四季を通じて多彩なイベント等を開催し、住民が一带となって観光を盛り上げている。



網走湖



美幌峠からの展望

写真 2.14 特徴的な景観

表 2.4 主な観光対象

項目	町村名	名 称	概 要
自然	網走市	流水	1月下旬から2月上旬にオホーツク沿岸へ流水が接岸しオホーツク海を一面真っ白に埋め尽くす。
	網走市・大空町	網走湖	網走市と大空町にまたがる緑の樹林に覆われた静かな湖。夏はキャンプ、カヌー、カヤック、冬はワカサギ釣りなどが楽しめる。呼人半島では春にミズバショウの群落を見ることができる。また女満別湖畔は「北海道景観百選」に選定されている。
	網走市	天都山	山頂には無料展望台が設置され、網走湖や能取湖、オホーツク海、知床半島等の知床連山までパノラマのように360度見渡すことができる。
	津別町	チミケツ湖	エゾマツ、トドマツを中心とする原生林が生い茂り、天然記念物のクマゲラをはじめとする野鳥、キツネやキタリスなどの野生生物が生息。湖を取り囲む北側半分一帯の原始林は「野鳥公園」となっており、キャンプ場と2つの散策路がある。
温泉	大空町	女満別温泉	網走湖畔南端に湧く4つの源泉の総称。女満別駅からは徒歩圏内、女満別空港からも近い便利なロケーションに温泉施設がある。
	網走市	網走湖畔温泉	網走湖を一望する高台にある温泉で、大型ホテルが数軒立ち並んでいる。近くにはミズバショウ群生地や探鳥遊歩道があり、豊かな自然を満喫できる。
観光拠点	網走市	オホーツク流水館	流水とオホーツク海の生き物をテーマとした観光施設。本物の流水を展示するほかに、光と音の演出で幻想的な空間を演出し、流水の訪れた網走の1日のうつろいを体験できる。
	網走市	道の駅 流水街道網走	漁船が行きかう網走川河口に位置し、オホーツク海や知床半島を一望できる。観光情報を始めとした地域の多様な情報発信や、地元の農水産加工品の販売などを行っている。冬期間は網走流水観光砕氷船の発着場として流水観光の拠点にもなる。
	大空町	道の駅 メルヘンの丘めまんべつ	メルヘン公園のメインとなる施設。農畜産物の加工実習や地場特産品の製造・販売のほか、農業情報の受信機能も有する。近傍には緩やかな丘陵地である「メルヘンの丘」がビューポイントとして位置する。
	津別町	道の駅 あいおい	原料にこだわった10割そば、昔ながらの手作り豆腐、地元農家が丹精こめて育てた新鮮野菜、ここでしか味わえない相生名物「元祖クマヤキ」などのグルメが多数。
歴史・文化	網走市	博物館 網走監獄	「北海道開拓と監獄受刑者」をテーマとした野外歴史博物館。平成28年2月には倉庫及び中央見張り所、庁舎、教誨堂、網走刑務所二見ヶ岡刑務支所の2件8棟が国の重要文化財に指定された。
	網走市	北海道立北方民族博物館	日本で唯一の北方民族の文化を専門に紹介する博物館。厳しい寒さに耐えて生きてきた北方民族の知恵や技術を学べる。
	網走市	網走市立美術館	網走出身の画家・居串圭一や高橋道雄をはじめ、地域の美術家の作品を収集・展示。独自の文化形態をもつモロロ貝塚から発掘された品や、江戸時代・文化年間に漁場が開設されてからの郷土資料、その他網走地方の自然や産業を展示した「郷土を語る博物館」。
	網走市	網走市立郷土博物館	テーマは「河川と人」。郷土資料館として動植物、地形・地質、民俗、考古や開拓資料等が実物や複製、写真やパネルを用いて展示されている。臨場感溢れるジオラマは圧巻。
レクリエーション	美幌町	美幌博物館	網走の街を見下ろす天都山山頂近くの網走レークビュースキー場にある美しい花園。満開時には3.5haの面積に約3万5千株の花々が咲き乱れる。
	網走市	フラワーガーデン「はな・てんと」	網走市立大曲湖畔園地ひまわり畑
	網走市	網走市大曲湖畔園地ひまわり畑	網走市呼人地区の丘陵地約10haに約15万株のフロックスが咲き乱れる公園。網走湖や大空町方面の平野が一望できる展望ポイントがあり、花と眺望を楽しむことができる。
	網走市	フロックス公園	網走湖畔にある餌やりができるシマリス公園。たくさんのシマリスと触れ合うことができる。
恒例イベント	網走市	オホーツクシマリス公園	網走湖から斜里岳や知床連山まで360度の大パノラマを眺望できる絶景スポット。展望台に登れば、オホーツクの爽やかな風を感じることができる。
	大空町	朝日ヶ丘公園	網走川の河川敷にあるパラグライダーなどのスカイスポーツができる公園。
	美幌町	美幌航空公園	世界ではじめて観光を目的とした砕氷船「おーら」でのクルージングは迫力満点。航海のうまい1つの目的はアザラシやオオワシ等のオホーツクの仲間との出逢い。北の海から大自然を感じられる。
	網走市	流水観光砕氷船「おーら」運航	人力のみで海(カヤック)から里(自転車)、そして山頂(登山)へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえのない自然について考えようという環境スポーツイベント。
恒例イベント	網走市	オホーツク SEA TO SUMMIT	例年9月に行われる網走刑務所の正門を起点とするフルマラソン。網走川、オホーツク海、能取湖、網走湖等を眺めながら走るコースとなっている。体力に合わせた5km、3kmコースも選択できる。
	網走市	オホーツク網走マラソン	平成25年にスタートした例年5月に行われる漁の解禁祝いや繁盛祈願を兼ねたモガニを味わうイベント。道の駅流水街道網走の駐車場で開催され、カニを餅まきの様に撒く「カニまき」がメインイベント。
	網走市	春カニ合戦in網走	例年1月、呼人地区で行われるワカサギ釣り大会。3人1組のチーム制で2日間に釣った総重量で競い合う。
	網走市	日本一網走湖ワカサギ釣り選手権大会	厳寒の網走港をステージに開催される、オホーツクを代表する冬の祭典。市民による雪雪像、歌謡ステージ、流水みこしなどが開催。
恒例イベント	網走市	あばしりオホーツク流氷まつり	オホーツクの短い夏を楽しむ市民参加のお祭り。市内や近隣市町村の学生プラスバンド部による「音楽行進」、網走で古くから親しまれている「流氷おどり」、オホーツク海の夜を彩る「花火大会」が開催。
	網走市	あばしりオホーツク夏まつり	神と通じ合うことのできる特能者(シャーマン)が登場し、伝統に沿って繰り上げられる厳粛なお祭り。北方系民族の儀式や風俗を取り入れた網走だけのユニークな行事。
	網走市	七福神まつり	その昔の網走の風物詩であった七福神めぐりと、網走地方の代表的な地域産物の実りを喜ぶ祭り。網走湖畔の水上花火大会をはじめ、SUP体験や北海道ドラゴンボート競技会など水辺に親しむイベントを多数実施。
	大空町	めまんべつ観光夏まつり	9月中旬に行なわれる網走湖の初秋の味覚を楽しむお祭り。白魚は、網走湖で採れる透明なサケ科の魚。
恒例イベント	大空町	白魚まつり	地元野菜の販売、キッチンカー等による飲食販売、よさこい演舞、ダンス披露、各種ゲームなどが行なわれる。
	大空町	収穫感謝まつり	厳冬の美幌をホットにするイベント。美幌峠太鼓演奏をはじめとするステージイベントのほか、露店やスノーバスケット大会を開催。
	美幌町	びほろ冬まつり	美幌峠を訪れる観光客の交通安全と、絶景美幌峠の景勝環境を保護することにより、美幌峠観光がますます発展することを願ったまつり。アイヌ有志による神事「カムイノミ」や民族舞踊、勇壮な美幌峠太鼓演奏で美幌の春の訪れを祝う。
	美幌町	美幌峠まつり	間近で見られる「納涼花火大会」のほか、盆踊りや美幌グルメ屋台村など、イベントが盛りだくさんなお祭り。
恒例イベント	美幌町	美幌ふるさとまつり	美幌神社秋季例大祭にあわせて町民手作り祭りとして開催。多数の手作り屋台が並ぶほか、カラオケや吹奏楽演奏などステージも多彩。
	美幌町	美幌ふるさとまつり	美幌の大自然を感じながら自転車とマラソンで走破する大会。
	美幌町	ピホロ100kmデュアスロン大会	網走川河畔公園で焼肉パーティー、ステージアトラクション、子供向け野外広場などのイベントを楽しむ和牛まつり。
	美幌町	美幌観光和牛まつり	つべつ川のぼり大会、千人踊り、花火大会等イベント盛り沢山。
恒例イベント	津別町	つべつ夏まつり	ふるさと情緒たつぷりの盆踊り。大会最終日には毎年趣向を凝らした仮装をして、大人も子供もやぐらを囲んで踊る豊穣の秋を折るイベント。
	津別町	つべつ納涼盆踊り大会	町民手づくりのお祭りとして開催され、ステージショー、屋台村、懐かしい遊びを楽しめる縁日コーナーなど多数出展。
	津別町	つべつ七夕まつり	津別神社前の町道を中心に町内の事業所や団体による露店が立ち並ぶ。同時開催の津別神社例大祭では神輿渡御と子どもみこし、駒踊りが町を練り歩く。
	津別町	つべつふるさとまつり	町民手作りのアイスキャンデルが主役。雪で作られた滑り台や屋台が並び、楽しく温かな気持ちになれるイベント。
恒例イベント	津別町	つべつアイスクャンデルまつり	津別の大自然の中で色づきはじめた山々のコントラストを眺めながら自分のペースで走るマラソン大会。
	津別町	つべつ紅葉マラソン大会	

※出典：流域市町（網走市・大空町・美幌町・津別町）の公式ウェブサイト及び観光協会ウェブサイト

(2) 文化財・史跡

網走川流域には歴史的に重要な文化財、史跡は表 2.5に示すとおり国指定で 15 件、道指定が 3 件（内 2 件は北海道遺産）、市指定が 2 件、町指定が 5 件である。

表 2.5 指定文化財

種類	名称	所在地・指定年月日	概要
国	【重要文化財】 旧網走監獄	網走市呼人 1 番地 H28. 2. 9	舎房及び中央見張所は、明治期の木造の放射状舎房が完全な形で残る唯一のもので、当時の標準的な獄舎の特徴を備えている。
国	【重要文化財】 旧網走刑務所二見ヶ岡刑務支所（二見ヶ岡農場）	網走市呼人 3 番地 H28. 2. 9	全国でも珍しい農園を持つ刑務所の建築群で、当初に遡る主要建築物をよく残し、特に舎房は明治中期に遡る獄舎建築として歴史的価値が高い。また構外泊込作業場から段階的処遇制度の先駆的施設への発展過程をよく示しており、行刑史上高い価値が認められる。
国	【史跡】 桂ヶ岡砦跡	網走市桂町 S10. 12. 24	台地には大小 2 つの隆起した地帯があり、先住民はそれぞれに立ち談判したという。
国	【史跡】 最寄貝塚	網走市北 1 条東 2 丁目 S11. 12. 16	純海岸性の貝塚で、モヨロ貝塚人として著名である。オホーツク式文化の宝庫。
国	【名勝】 天都山	網走市字天都山 242 番地 S13. 12. 14	知床半島、網走湖、能取湖、濤沸湖、雄阿寒、雌阿寒岳などの壮大な眺望が得られる。
国	【天然記念物】 女満別湿生植物群落	大空町女満別 S47. 6. 14	ヤチダモ及びヤチハンノキを主とする落葉広葉樹の自然林。林床には、ミズバショウの広大な群落がある。
国	【登録有形文化財】 順誓寺本堂	津別町字新町 16 番地 H19. 3. 31	昭和 10 年（1935 年）10 月 17 日に竣工したという記録を有し、津別町市街の中心部に位置している。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄煉瓦造独居房	網走市呼人 1 番地 1 H24. 8. 13	煉瓦造平屋建、切妻造棧瓦葺、桁行 3.7m、梁間 2.8m、壁は厚さ 0.4m のイギリス積で、正背面に出入口を設ける。正面側に前室を配して室境に鉄格子を嵌め、奥に板張りの独居房を設置。現存例が希な明治期の行刑施設。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄鏡橋入口哨舎	網走市呼人 1 番地 1 H24. 8. 13	もとは刑務所手前の網走川に架けられた鏡橋南岸に設置され、外部からの来訪者や受刑者を監視した看守所。木造、鉄板葺、建築面積 3 m ² で、平面は六角形を呈する。西側の一面に片開き戸を設け、他の五面を引き違い窓とし、全方向への監視を可能にしている。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄鏡橋出口哨舎	網走市呼人 2 番地 2 H24. 8. 13	もとは入口哨舎と対向して鏡橋北岸に配置され、外部からの来訪者や受刑者を監視した。六角形平面で建築面積 3 m ² 。各面にガラス窓を配し、全方向への監視を可能とする。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄西門哨舎	網走市呼人 2 番地 2 H24. 8. 13	もと網走監獄西門で、業者の出入り等を点検した。六角形平面の木造、鉄板葺、建築面積 3 m ² で、一面に片開き戸を設け、他五面に引き違い窓を配し、腰は下見板を張る。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄裏門	網走市呼人 1 番地 1 H24. 8. 13	もとは煉瓦壁で囲まれた獄舎と作業場との間に設けられていた門。間口 3.2m の櫛形アーチの出入口を開き、左右に高さ 4.6m のイギリス積煉瓦壁をのぼし、延長 12.7m を測る。
国	【登録有形文化財】 博物館網走監獄裏門哨舎	網走市呼人 1 番地 1 H24. 8. 13	もと網走監獄の裏門で、外部からの来訪者や受刑者を監視した。建築面積 2 m ² 、六角形の平面を呈する。各面をガラス窓や出入り口とし、全方向への監視を可能とする。

種類	名称	所在地・指定年月日	概要
国	【登録有形文化財】 網走市立郷土博物館本館	網走市桂町 1 丁目 1 R1. 12. 5	フランク・ロイド・ライトの弟子で、建築家田上義也(たのうえよしや)の設計。昭和 11 年(1936 年)建築の道内最初期の郷土博物館。木造 2 階建て、左右対称平面の中央を南北に張り出し、正面に円弧状のアーチをみせる、独創的な意匠の文化施設。
国	【登録有形文化財】 網走市立郷土博物館新館	網走市桂町 1 丁目 1 R1. 12. 5	昭和 36 年(1961 年)に田上義也の設計で本館の東側に増築。木造 2 階建て、矩形(くけい)平面で屋根は片流れ。立面は本館との連続性を考慮しつつ、壁面の切り込みなどの彫塑的表現に、田上の戦後の作風を見せる。
北海道遺産	オホーツク沿岸の古代遺跡群	網走地域 H16. 10. 22	オホーツク沿岸地域では縄文、続縄文、擦文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布し、遠軽町(旧白滝村)など内陸部では旧石器時代の遺跡が多く見られる。オホーツク沿岸の遺跡は樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係が強く認められ、竪穴住居が連綿と残る常呂遺跡、オホーツク文化遺跡として著名なモヨロ貝塚、縄文後期の朱円周提墓などが代表格。
北海道遺産	北海道の集治監(樺戸、空知、釧路、網走、十勝)	網走市 H30. 11. 1	北海道は北方にある地理性から、集治監(国立刑務所)の設置が集中した。建設は樺戸(現月形町、1881 年)、空知(三笠市、1882 年)、釧路(標茶町、1885 年)、網走(1891 年)、十勝(帯広市、1893 年)の順であった。目的は初期の西南戦争政治犯収容、後期に重大犯罪人隔離で、北辺防衛と北海道開拓用の北見と上川道路・鉄道建設(樺戸、空知、網走)、幌内炭鉱開発(空知)、硫黄鉱山開発(釧路)、農地開発(帯広)等で、北海道の初期インフラ整備と地方文化形成をになった。
道	【有形文化財】 女満別石刃鎌遺跡出土の遺物	大空町女満別西 3 条 3 丁目 1 S43. 1. 18	女満別町豊里遺跡から出土し、主に旧石器時代のものと同様の石刃が主体をなしている。(石刃等 760 個)
市	【有形文化財】 永専寺山門	網走市南 6 条東 2 丁目 S54. 2. 10	旧網走刑務所正門の遺構で、擬洋風建築の流れを継ぐ和様混交の独特の造り。明治末期の創建。
市	【民俗文化財】 網走神社絵馬	網走市桂町 S54. 9. 10	場所請負人藤野が航海の安全と大願成就を感謝して奉納。文政 4 年から明治 6 年。
町	【有形文化財】 中央地区掩体壕	網走郡大空町内 H27. 12. 10	女満別空港が現在の姿へ発展する歴史の中で、戦争遺産として残る数少ない遺構であり、後世に遺すことが必要である
町	【記念物】 美幌小学校のかしわ	網走郡美幌町字西 2 条北 3 丁目 1 (美幌小学校) H11. 10. 12	明治 33 年に美幌に簡易教育所が開所して以来、学校のシンボルとして親しまれているかしの巨木。
町	【民俗文化財】 瑞治足柄奴	網走郡美幌町字瑞治 H11. 10. 12	昭和 2 年(1927 年)に美幌町瑞治等の青年によって美幌神社に奉仕されたのが始まりの伝統芸能。
町	【記念物】 ベニバナヤマシャクヤク 自生地	網走郡美幌町字野崎(柏ヶ丘公園樹木園内) H11. 10. 12	国指定の絶滅危急種であるベニバナヤマシャクヤクの貴重な自生地。
町	【有形文化財】 絵模様付碟	網走郡美幌町字美禽 253-4 (美幌博物館) H11. 10. 12	縄文時代中期頃の石製品。隅丸三角形の扁平な碟に黒色の顔料で絵模様を描いたもの。

(3) 河川環境をとりまく背景

網走川河口に位置する網走市は、両岸に宅地が分布していることもあり、網走川は市民生活の中心となっており、網走川河畔には道の駅「流水街道網走」やオホーツク・文化交流センター、散策路のある網走川河畔公園等が整備され、地域住民や観光客の憩いの場として多目的に利用されている。また、市民や地域の NPO 等と河川管理者が連携しながら、河川愛護月間に合わせた網走川流域一斉清掃事業の一環である市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育が積極的に行われている。こうした中、かわとまちが一体となる観光振興や親水空間創出の具体化に向け、「網走かわまちづくり計画（令和 2 年（2020 年）3 月）」や「網走湖呼人地区かわまちづくり計画（令和 7 年（2025 年）8 月）」に基づき、市民や河川管理者が協働して地域の活性化に取り組んでいる。

また網走湖では、キャンプ場や多目的スポーツ施設が整備されており、春季から秋季にかけてはカヌー、ボート遊び、SUP、スポーツ、散策といったアウトドア活動のほか、地域産業に重要なシジミやワカサギ等の内水面漁業が行われている。湖が一面氷に覆われる冬季はスノーモービルのほかワカサギ釣り等のレクリエーションを楽しむことができ「日本一網走湖ワカサギ釣り選手権大会」等のイベントや祭りが行われ、四季を通じて広く利用されている。さらに、網走湖畔や網走及び美幌市街地付近の河畔公園では様々なお祭り等の河川空間を利用したイベント等も行われている。

このように網走川流域では、各地域の特色を活かしまちづくりと一体となった整備や河川利用がなされ、環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、網走川の魅力や川を軸とした歴史・文化の発信に関する新たな取組も積極的に行われている。



オホーツク・文化交流センター



網走湖畔キャンプ場



網走湖のワカサギ釣り



河川清掃

写真 2.15 河川環境を取り巻く背景

2-4 自然公園の指定状況

網走川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護・保全管理が図られている。網走川水系における自然公園等の法令指定状況は以下の通りである。

(1) 鳥獣保護区

5ヶ所で鳥獣保護区が指定されている。また、銃猟禁止区域は1ヶ所で指定されている。

表 2.6 各種保護地域指定一覧

(鳥獣保護区等区域)					
整理番号	市町村	鳥獣保護区名	区域	存続期間	備考
216	網走市	呼人	網走市に所在する国有林網走南部森林管理署126及び127林班並びに網走湖河川敷地のうちそれらの林班に隣接する区域	R5. 10. 1 ～R25. 9. 30	森林鳥獣生息地 151ha
224	大空町	女満別	網走郡大空町に所在する国有林網走南部森林管理署128林班、同林班の北東端から南西端までの網走湖岸に隣接する河川敷地、同町女満別湖南364番2、3、372番3から6まで、382番3、4、391番3、394番5、同町女満別昭和231番2、240番2、250番、251番、並びに同町女満別湖南257番の北東端とJR北海道石北本線鉄道敷地及び国有林網走南部森林管理署128林班界との交点を起点とし、この点から同林班界を10mの幅をとって西に進み同町女満別湖南255番4の地番界との交点に至り、この点から同林班界を10mの幅をとって南に進み同町女満別湖南394番5の地番界との交点に至る区域 [特保]道指定女満別鳥獣保護区のうち、国有林野網走南部森林管理署128林班及び同林班の北東端から南西端までの湖岸に隣接する河川敷地の区域	R2. 10. 1 ～R12. 9. 30	集団繁殖地 94ha [特保] 88ha
221	美幌町	藻琴山	網走郡美幌町に所在する国有林網走南部森林管理署18林班に、イからハまでの各小班及び網走郡大空町に所在する国有林網走南部森林管理署254林班ろ小班、255林班に、ぬ、わ、か、た、れ及びイの各小班、256林班へ小班、257林班は、ほ、と、り、ぬ、イ、ハからトまでの各小班、258林班る、ハの各小班、259林班に、と、ぬ、れ、そ、つ、む、う、く、や、口、ハ、へからヌまで、カ、タの各小班、260林班ろ、は、ほ、り、ぬ、口からチまでの各小班、261林班はからほまで、ち、イからハまで、ホ、ト、リの各小班、265林班は、イの各小班及び斜里郡清水町に所在する国有林網走南部森林管理署335林班たからねまで、ハの各小班、336林班はからるまで、わ、か、よ、お、イからヌまでの各小班、346林班ほ、へ、ち、ハの各小班、351林班いからるまで、わ、か、よ、イからチまでの各小班、353林班ろからにまで、へからりまで、イ、口の各小班的区域	H18. 10. 1 ～H38. 9. 30	森林鳥獣生息地 1, 112ha
218	津別町	チミケツブ湖	網走郡津別町に所在する道有林網走東部管理区153林班から156林班まで、159林班、160林班、チミケツブ湖の区域	R3. 10. 1 ～R23. 9. 30	森林鳥獣生息地 1, 427ha
219	津別町	木禽岳	網走郡津別町に所在する国有林網走南部森林管理署2098林班ろからにの各小班、2099林班ろからにの各小班、2102林班ろ小班、2125 林班は、に、るの各小班、2126林班は、に、た、その各小班的区域	R4. 10. 1 ～R24. 9. 30	森林鳥獣生息地 500ha
(特定猟具使用禁止区域)					
整理番号	市町村	銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考
67	網走市	大曲呼人	網走市字大曲に所在する網走川右岸と道道網走常呂自転車道線との交点を起点とし、この点から網走川右岸を南西に進み網走湖口との交点に至り、この点から同湖畔を南西に進み呼人半島先端に至り、この点から網走湖口と網走川左岸との交点に直線で至り、この点から同川左岸を北東に進み、道道網走常呂自動車道線との交点に至り、この点から同自転車線を北東に進み起点に至る線に囲まれた区域	H26. 10. 1 ～H36. 9. 30	139ha

※出典：令和5年度 鳥獣保護区等位置図 別冊編（北海道）

(2) 国指定天然記念物

網走国定公園内において、女満別湿生植物群落が昭和47年（1972年）6月14日に指定されている。

網走湖南部東岸、ヤチダモ及びヤチハンノキを主とする落葉広葉樹の自然林であり、林床には、ミズバショウの広大な群落が延長約2kmにわたって我が国北部の低湿地林のひとつとして、ミズバショウの代表的な群生地として学術上価値が高い。

(3) 国立公園・国定公園

1) 阿寒摩周国立公園

阿寒摩周国立公園の区域は、釧路市、美幌町、津別町、大空町、清里町、小清水町、足寄町、標茶町、弟子屈町、白糠町、中標津町の1市10町にまたがっており、その面積は91,413ha（令和6年（2024年）末現在）となっている。

雌阿寒岳をはじめ火山が連なり、深い森に囲まれている。また、マリモが生育する阿寒湖、世界有数の透明度を誇る摩周湖、周囲に強酸性の温泉が点在する屈斜路湖等の湖を有している。

表 2.7 阿寒摩周国立公園の概要

阿寒摩周国立公園 昭和9年（1934年）12月4日に「阿寒国立公園」として指定 平成29年（2017年）8月8日に一部拡張とともに「阿寒摩周国立公園」に名称変更	市町名	面積 (ha)
	釧路市	25,598
	美幌町	1,281
	津別町	1,283
	大空町	500
	清里町	1,371
	小清水町	930
	足寄町	4,355
	標茶町	4,256
	弟子屈町	50,740
	白糠町	562
	中標津町	537
	合計	91,413

2) 網走国定公園

網走国定公園は、オホーツク海に面し、網走市を中心にしてその両側に広がる海浜公園である。面積は37,261haあり、サロマ湖をはじめとして、網走湖、能取湖等大小7つの湖沼を有している。

表 2.8 網走国定公園の概要

単位：ha

市町名	特別地域					普通地域 （陸域）	合計 （陸域）
	特別保護	第1種	第2種	第3種	小計		
北見市	0	590	5,379	36	6,005	52	6,057
網走市	0	170	9,878	5,012	15,060	12	15,072
斜里町	28	0	463	0	491	0	491
小清水町	38	107	996	0	1,141	0	1,141
佐呂間町	0	0	6,081	535	6,616	62	6,678
湧別町	0	29	5,466	549	6,044	140	6,184
大空町	0	93	1,474	71	1,638	0	1,638
合計	66	989	29,737	6,203	36,995	266	37,261

3. 流域の社会状況

網走川流域は、北海道の東部に位置し、網走市、大空町、美幌町、津別町の1市3町からなり、約4万8千人の人々が暮らしている。流域内の土地利用は、森林・河川等が約77%、農地が約22%、宅地等の市街地が約1%となっている。

3-1 土地利用

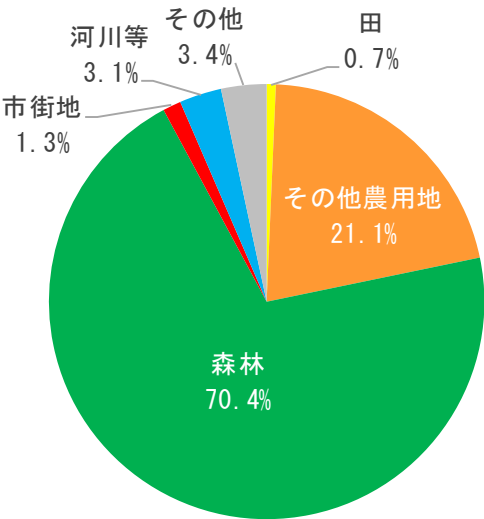
農用地のうち、水田の比率は小さく大半が畑作地である。昭和30年代と令和3年を比較すると、森林・河川等が減少し、農地や宅地が増加している。

表 3.1 地目別土地利用の割合

	田	その他農用地	市街地	森林	河川等	その他
昭和30年	18.7%		0.4%	81.0%		
昭和51年	2.3%	20.1%	0.5%	71.5%	3.1%	2.5%
平成9年	1.0%	22.1%	1.3%	69.1%	3.1%	3.4%
令和3年	0.7%	21.1%	1.3%	70.4%	3.1%	3.4%

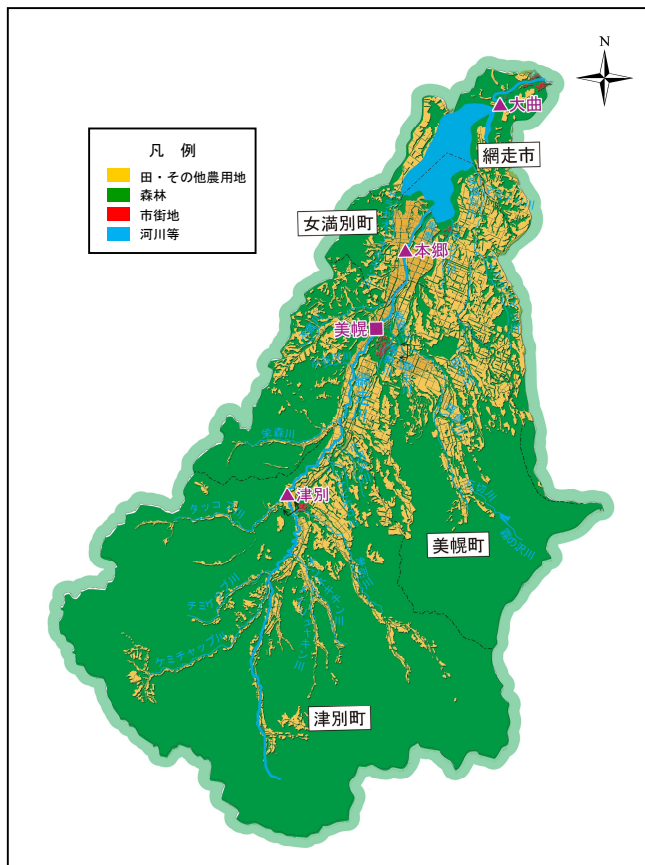
出典：昭和29～30年の5万分の1地形図の地目より作成(S30)

国土数値情報土地利用細分メッシュ(S51、H9、R3)

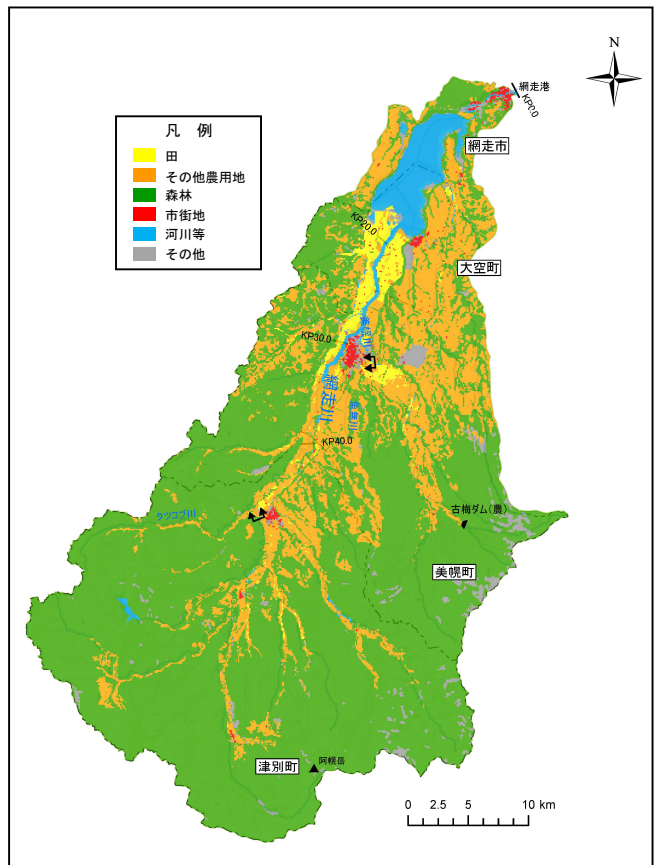


出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ(R3)

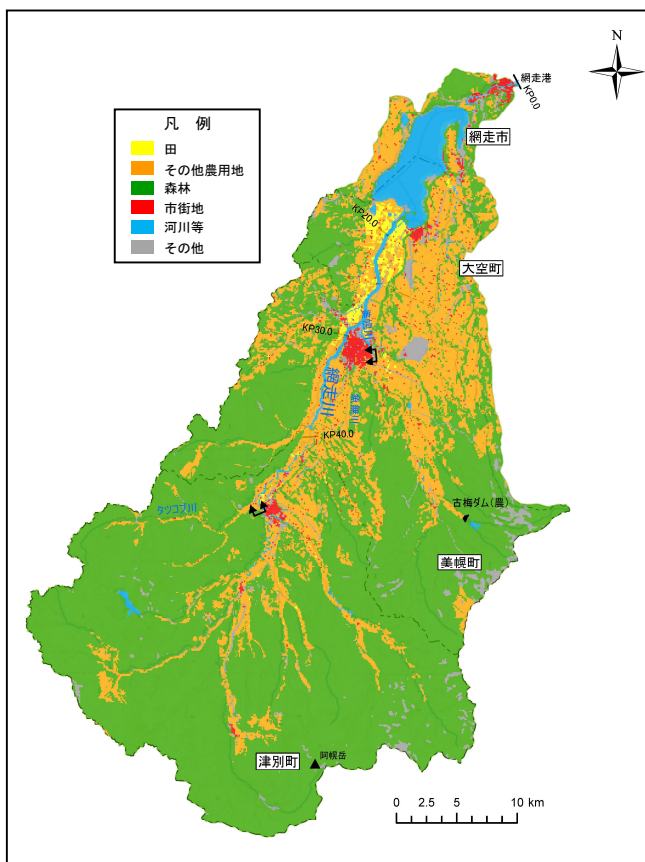
図 3.1 地目別土地利用の割合



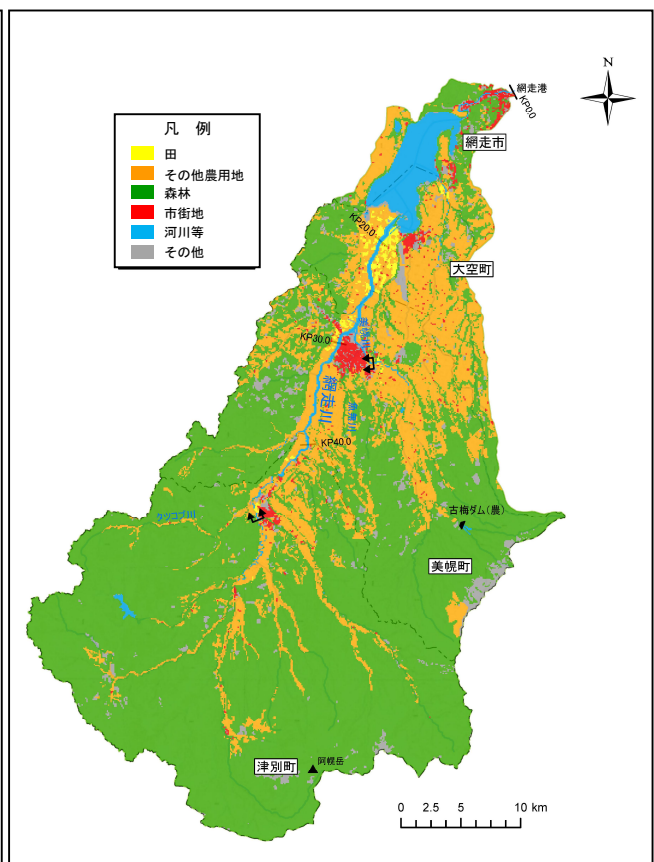
[昭和30年(1955年)]



[昭和51年(1976年)]



[平成9年(1997年)]



[令和3年(2021年)]

※出典：昭和29～30年の5万分の1地形図の地目より作成(S30)
国土数値情報土地利用細分メッシュ(S51、H9、R3)

図 3.2 土地利用の変遷

3-2 人口

網走川の流域関係市町の総人口は令和2年（2020年）で65,604人と、最も多かった昭和35年（1960年）から約35%減少し、高齢化率は4%から34%へと大幅な上昇となっている。

表 3.2 流域関係市町人口等

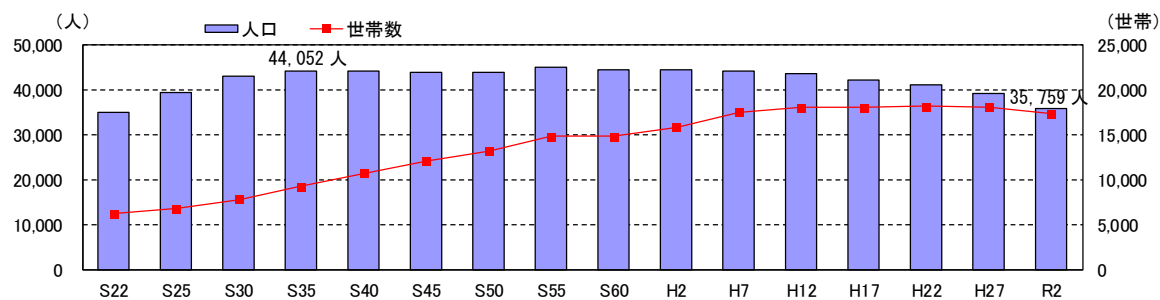
区 分	網走市	大空町	美幌町	津別町	1市3町合計	流域内
面積 (km ²)	471.00	343.66	438.41	716.80	1,969.87	1,380.0
総人口 (人)	35,759	6,775	18,697	4,373	65,604	47,996
世帯数 (世帯)	17,253	2,750	8,309	2,043	30,355	20,349
人口密度 (人/km ²)	75.9	19.7	42.6	6.1	33.3	34.8

※流域内の集計は第10回河川現況調査(H27年(2015年))による

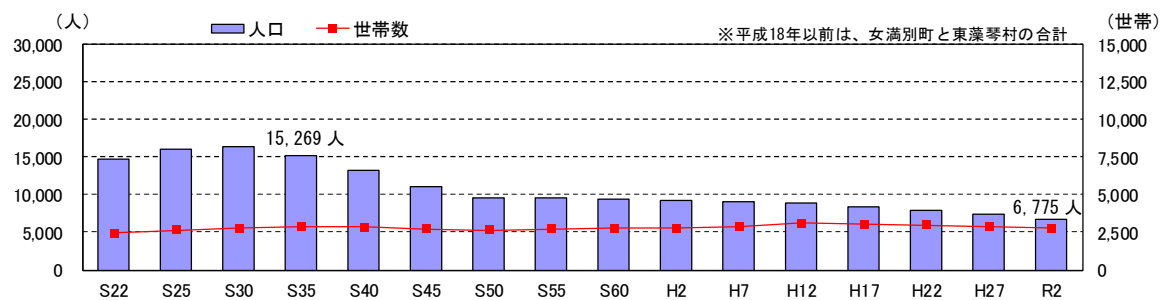
※各市町の集計は北海道統計書(R5年(2023年))による、人口はR2年度(2020年度)国勢調査人口を採用

※H18年(2006年)3月31日、女満別町と東藻琴村が合併し「大空町」が発足

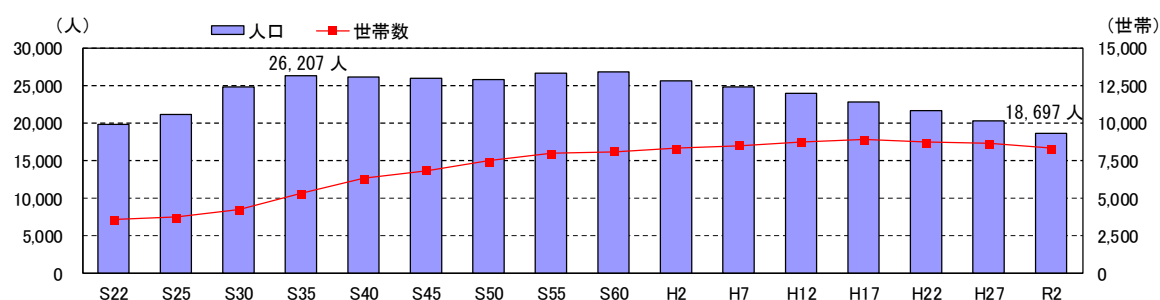
<網走市>



<大空町>



<美幌町>



<津別町>

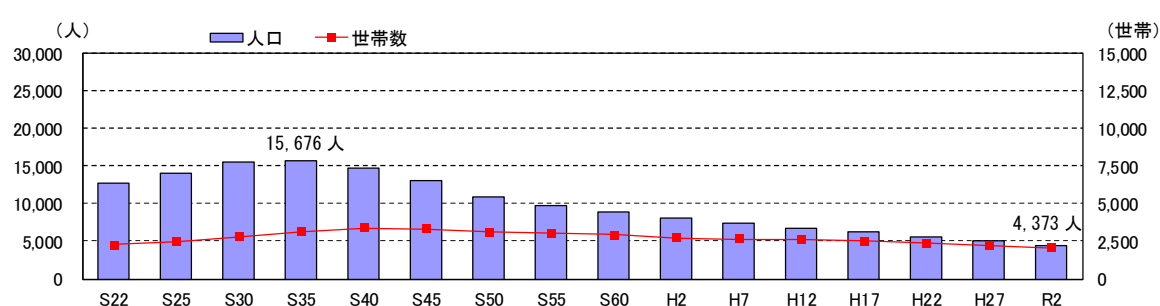
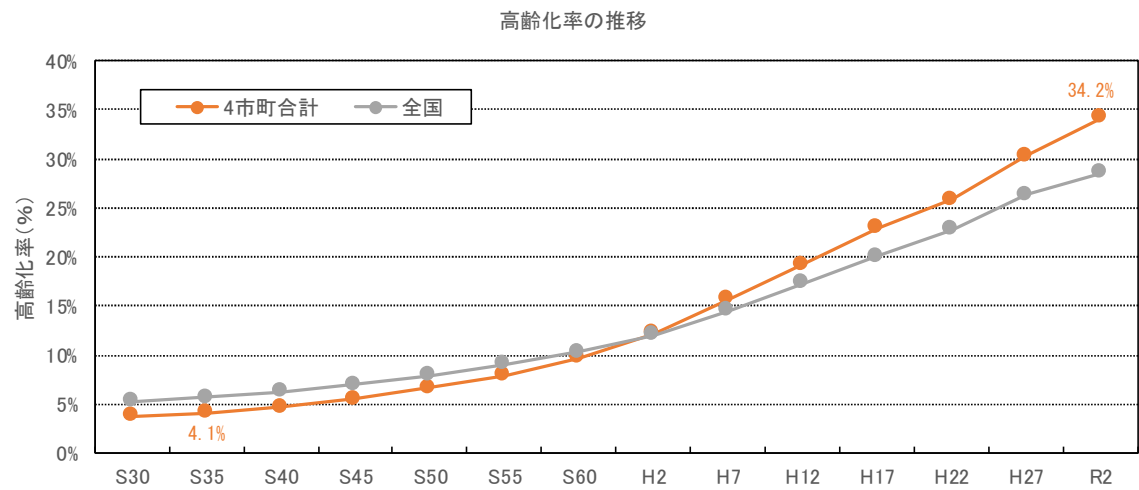


図 3.3 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査



出典：国勢調査

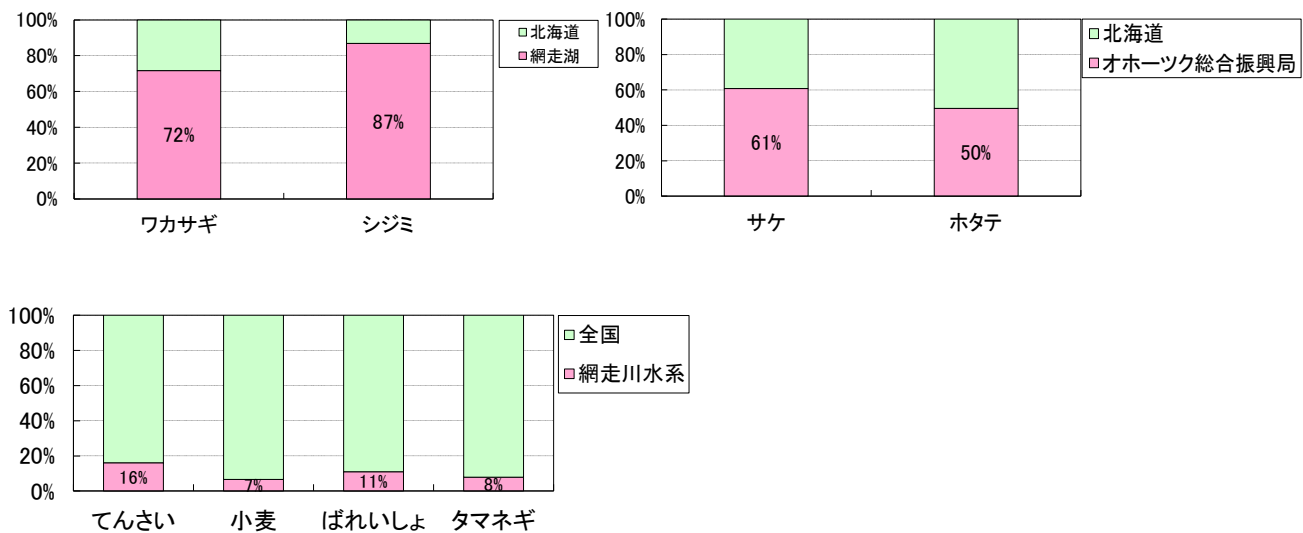
図 3.4 高齢化率の推移

3-3 産業・経済

流域自治体内の産業別就業人口の推移を見ると、流域の産業は農林業を主体とし、河口の網走市では漁業も盛んであったが、近年の第一次産業の衰退により、第一次産業人口が昭和 40 年（1965 年）の 29%に比べ令和 2 年（2020 年）は 14%に減少、第二次産業も 23%から 16%に減少しているが、第三次産業は、48%から 71%に増加している。

第一次産業就業人口を市町別で見ると、大空町、津別町で比較的高く約 25%から約 39%となっているが、第二次産業就業人口は各市町とも約 10%から約 22%程度となっており、第三次産業就業人口は網走市、美幌町で比較的高く、約 65%から約 71%程度となっている。その他の町でも約 51%から 53%と高い比率を占めている。

流域の産業としては、全道でも高い漁獲量を誇るシジミやワカサギ、シラウオ等を対象とした内水面漁業が網走湖を中心に行われ、海域ではサケやホタテ等を対象とした沿岸漁業が行われ全国有数の漁獲量を誇っている。また、畑作を主体とする農業が盛んであり、下流域では農地として明治初期から開拓され、てんさいやタマネギの全国有数の産地となっている。



出典：令和 5 年度作物統計（オホーツク総合振興局、農林水産省）

図 3.5 漁獲量・収穫量の全道・全国シェア

表 3.3 産業別就業人口と構成比 (単位:人)

	第1次産業人口	第2次産業人口	第3次産業人口	総数
網走市	2,195	2,555	11,448	16,198
	13.6%	15.8%	70.7%	100.0%
大空町	1,361	358	1,747	3,466
	39.3%	10.3%	50.4%	100.0%
美幌町	1,510	1,839	6,212	9,561
	15.8%	19.2%	65.0%	100.0%
津別町	501	443	1,078	2,022
	24.8%	21.9%	53.3%	100.0%
1市3町合計	5,567	5,195	20,485	31,247
	17.8%	16.6%	65.6%	100.0%
全道	156,298	387,947	1,738,586	2,282,831
	6.8%	17.0%	76.2%	100.0%

注1：下段は構成比率(%)

出典：第 131 回北海道統計書(R6)による (R2 国勢調査人口)

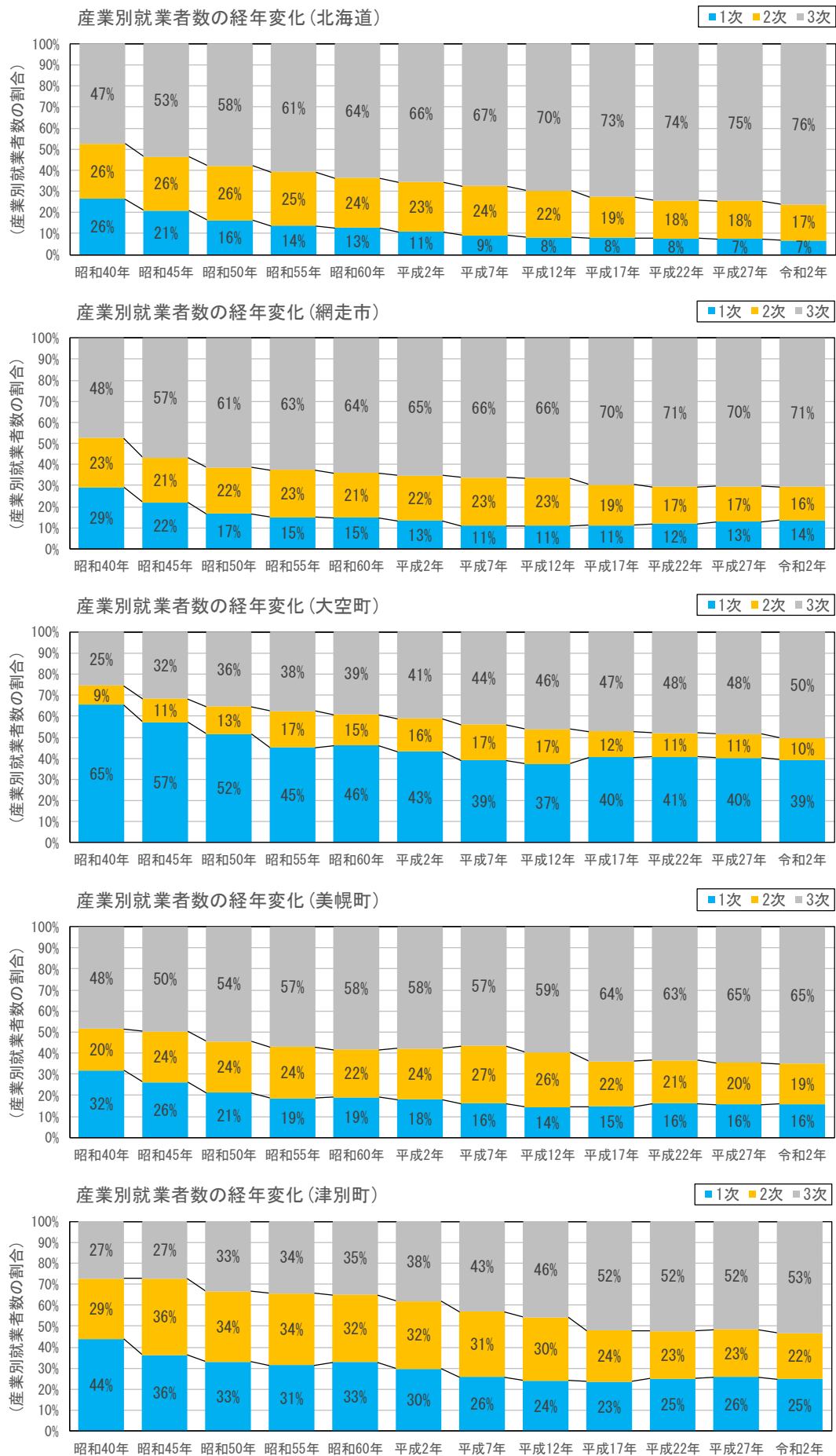


図 3.6 産業別就業者数の経年変化(昭和40年度(1965年度)～令和2年度(2020年度)国勢調査)

3-4 交通

産業の基盤となる幹線交通系統のうち陸上交通網は、網走市からオホーツク海沿いを通り、斜里町を経て根室市に至る国道 244 号、旭川市から北見市、美幌町、大空町を経て、網走市に至る道央とオホーツク圏域を結ぶ国道 39 号、網走市からオホーツク海沿いを北上し、紋別市を経由して稚内市に至る国道 238 号、羅臼町を起点とし美幌町に至る国道 334 号、網走市から大空町、美幌町を通り、美幌峠を経て根室市に至る国道 243 号、網走市から大空町、美幌町、津別町を経て釧路市に至る国道 240 号があり、オホーツク海沿岸の各都市間と道内各地を結ぶ交通体系に貢献している。

公共交通網は、昭和 60 年（1985 年）3 月に相生線（美幌～北見相生）、昭和 62 年（1987 年）3 月に湧網線（網走～中湧別）が廃止されたため、現在は道央圏とオホーツク地方を結ぶ JR 石北本線（新旭川～網走）とオホーツク地方と釧路地方を結ぶ JR 釧網本線（網走～東釧路）の 2 路線があり、オホーツク地方の物資輸送や観光旅客輸送に大きな役割を果たしている。特に流氷接岸期には、イベント列車等の運行がなされている。

航空交通網は、昭和 10 年（1935 年）に気象観測用飛行場として設置され、昭和 38 年（1963 年）4 月から第三種空港として供用開始された女満別空港が存在し、昭和 60 年（1985 年）4 月には現在の位置に移転し 2000m 滑走路が共用され（平成 12 年（2000 年）2 月に 2500m 化）ジェット機が就航され道内路線並びに東京、名古屋、大阪、関西間の定期運行がなされており、令和 4 年度（2022 年度）の輸送実績は乗降客 73 万人、貨物数 991t となっている。

海上交通網は、網走港が昭和 53 年（1978 年）に重要港湾に指定され、網走市、北見市を中心とするオホーツク地域東部を背後圏とし、この地域で営まれる消費、生活等の諸活動や生活に関わる物流を支える港湾として、また、沖合、沿岸漁業の基地として重要な役割を果たしている。

3-5 関係ある法令の指定状況

(1) 第9期北海道総合開発計画

第9期北海道総合開発計画では、2050年の北海道の将来像として、高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーといった他で代替できない価値を最大化し、現下の課題解決を先導するとともに、デジタル技術の活用や交通ネットワークの形成等により、これら北海道の価値を生み出す地方部の定住環境の維持にも取り組む必要がある。

このため、2050年までを見据えた北海道開発の展開の方向を示した上で「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」、「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」を目標としている。

第9期北海道総合開発計画の構成



前文 第9期北海道総合開発計画の策定に当たって	
第1章 計画策定の意義 第1節 北海道開発の経緯 1. 北海道開発の歴史 2. 第8期北海道総合開発計画の経緯 第2節 第9期北海道総合開発計画の意義	第3章 計画推進の基本方針 第1節 計画の期間 この計画の期間は、2024年度からおおむね10年間とする 第2節 計画の主要施策 第3節 計画の進め方 1. リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成 2. 計画の実効性を高めるための方策 (1) 官民の垣根を越えた「共創」 (2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進 (3) フロンティア精神の再発揮 (4) 戦略的・計画的な社会資本整備 3. 計画のマネジメント
第2章 計画の目標 第1節 我が国を取り巻く状況 1. 人口減少・少子高齢化と人口動態の変化 2. 気候変動と自然災害の激甚化・頻発化 3. 社会を変えるデジタル技術 4. 国際情勢の変化 第2節 北海道の資源・特性 1. 広大な大地 2. 食料供給力 3. エネルギー・資源 4. 自然環境・文化 5. 地理的特性・寒冷地技術 第3節 2050年の北海道の将来像 1. 国の課題解決のために果たすべき役割 2. 将来像 3. 将来像を支える社会基盤 4. 将来像を実現するために進むべき方向性 第4節 第9期北海道総合開発計画の目標 目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」 目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」	第4章 計画の主要施策 第1節「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」に係る主要施策 1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展 2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり 3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現 4. 地域の強みを活かした成長産業の形成 5. 自然共生社会・循環型社会の形成 6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興 7. アイヌ文化の振興等 第2節「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」に係る主要施策 1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展 2. 多様で豊かな地域社会の形成 3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成 4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

1

図 3.8(1) 第9期北海道総合開発計画の概要

第9期北海道総合開発計画 主要施策1

「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導

食料安全保障

全国約24%の食料生産（カロリーベース）
生産量全国一の農畜産物・水産物
小麦、ばれいしょ、たまねぎ、生乳等
ホタテ、タラ、サケ・マス、ホッケ等

観光立国の再興

感染症拡大前の直近5年間で
来道外国人旅行者数 164万人増
（平成26年137万人⇒令和元年301万人）
都道府県魅力度 15年連続全国一

2050カーボンニュートラル

全国一の再生可能エネルギー賦存量
洋上風力、陸上風力、太陽光、
森林吸収、バイオマス、
ブルーカーボン、中小水力

北海道のポテンシャルを活かし、我が国の豊かな暮らしを支える
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～

主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

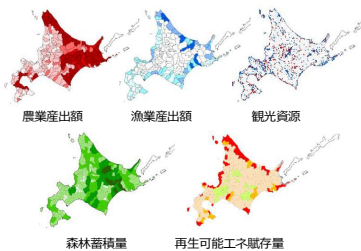


図 3.8(2) 第9期北海道総合開発計画の概要

第9期北海道総合開発計画 主要施策2

北海道の価値を生み出す生産空間の定住環境を維持

北海道の価値を生む「生産空間」の分布



北海道の生産空間の構造的課題【定住環境の厳しさ＝二重の疎】



+ 積雪寒冷の厳しい気候、千島海溝地震の切迫

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

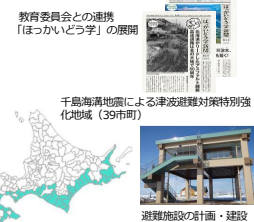
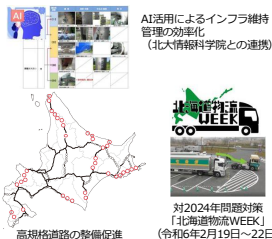


図 3.8(3) 第9期北海道総合開発計画の概要

(2) 都市計画

網走市街は、網走川沿川を中心に、オホーツク海、網走湖、山林、農地に囲まれた低地と丘陵地に形成されており、網走湖東部に位置する呼人地区を含めて、約 3,600ha が都市計画区域に指定されている。用途地域は、大曲地区から網走港に至る網走川沿川の国道 39 号に沿って、工業系、商業系の土地利用が配置され、網走川より南北に向かって住居系の土地利用が配置されている。また、市街南部地区にはオホーツク公園や網走運動公園等の公園・緑地が分布している。都市施設としては、都市計画道路が 19 路線、都市計画公園が 31 箇所、その他下水道施設等となっている。

大空町市街は、網走湖南端の国道 39 号に沿って形成されており、市街地周辺区域を含めて、網走川豊郷橋付近から網走川及び網走湖沿いに女満別川に至る約 3,900ha が都市計画区域に指定されている。用途地域は、JR 女満別駅周辺に商業系の土地利用が配置され、それを取り囲む形で住居系、工業系の土地利用が配置されている。網走川及び網走湖沿川は、JR 女満別駅周辺を除いて白地地域となっており、農地保全地区となっている。都市施設としては、都市計画道路が 8 路線、都市計画公園が 4 箇所、その他下水道施設等となっている。

美幌町市街は、網走川と美幌川の合流部に形成されており、市街地周辺地域を含めて、約 2,400ha が都市計画区域に指定されている。用途地域は、国道 240 号、国道 243 号沿いに商業地域が配置されており、その周辺部に住居系の土地利用、さらに、国道 240 号沿いと住居系の外縁部に工業系の土地利用が配置されている。都市計画区域内の網走川河川数は、大部分が網走川河畔公園として整備されており、都市公園に位置付けられている。都市施設としては、都市計画道路が 14 路線、都市計画公園が 18 箇所、その他下水道施設等となっている。

津別町市街は、網走川と津別川の合流点に形成されており、本岐、相生地区が国道 240 号に沿って形成されているが、津別町では都市計画区域は指定されていない。

立地適正化計画については、令和 7 年 3 月時点では網走市・美幌町で策定されている。

4. 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

網走川流域の年平均降水量は約 850mm と全国で最も少ない地域である。

網走川の主要な洪水は、大正 11 年（1922 年）8 月洪水、昭和 10 年（1935 年）8 月洪水、昭和 23 年（1948 年）8 月洪水、昭和 54 年（1979 年）10 月洪水、平成 4 年（1992 年）9 月洪水、平成 10 年（1998 年）8 月洪水、平成 13 年（2001 年）9 月洪水、平成 18 年（2006 年）10 月洪水、平成 27 年（2015 年）10 月洪水、平成 28 年（2016 年）8 月洪水等であり、そのうち大正 11 年（1922 年）洪水は、網走川流域における治水対策を行う契機となった洪水である。

表 4.1 既往の主要洪水の概要

洪水発生年月	気象要因	美幌地点 流域平均雨量 (mm/24h)	美幌地点 観測流量 (m ³ /s)	被害状況 ^{注 1), 注 2)}
大正 11 年 8 月	台風	161	1,200 ^{注 3)}	被害家屋(戸) 381 田畑浸水(ha) 2,500
昭和 10 年 8 月	台風	89	—	被害家屋(戸) 176 田畑浸水(ha) 1,233
昭和 23 年 8 月	前線	69	—	被害家屋(戸) 102 田畑浸水(ha) 676
昭和 50 年 5 月	低気圧	80	290	被害家屋(戸) 63 氾濫面積(ha) 4
昭和 54 年 10 月	台風第 20 号	96	310	被害家屋(戸) 89 氾濫面積(ha) 795
平成 4 年 9 月	台風第 17 号	130	870	被害家屋(戸) 322 氾濫面積(ha) 9,585
平成 10 年 8 月	前線	117	430	被害家屋(戸) 15 氾濫面積(ha) —
平成 13 年 9 月	台風第 15 号	135	640	被害家屋(戸) 1 氾濫面積(ha) 1,124
平成 15 年 8 月	台風第 10 号	130	420	被害家屋(戸) — 氾濫面積(ha) 263
平成 18 年 10 月	低気圧	139	600	被害家屋(戸) 10 氾濫面積(ha) 246
平成 27 年 10 月	台風第 23 号	106	280	被害家屋(戸) 46 氾濫面積(ha) 429
平成 28 年 8 月	台風第 9 号	111	570	氾濫面積(ha) 761

注 1) 被害状況は、北海道災害記録、水害統計、市町史による。

注 2) 被害状況は集計上、支川、内水被害を含む。網走市の被害は流域外も含む。

注 3) 大正 11 年 8 月の美幌地点流量は、当時の痕跡水位等から推定された値。

4-2 治水事業の沿革

網走川の基本計画調査は、大正 2 年（1913 年）から大正 7 年（1918 年）までに河口から津別間 40.3km の測量調査を、また、大正 3 年（1914 年）から大正 11 年（1922 年）までに同区間 40.0km の設計調査を実施し、水位観測所は、大正 2 年（1913 年）から大正 8 年（1919 年）までに、河口、大曲、木禽、美幌、活汲、本岐の 6 ヶ所が設置され治水工事計画の基本調査は着々と進められていき、大正 8 年（1919 年）に至り網走湖より上流美幌 36 線に至る延長 26km の区間に対し、治水工事計画を立案した。しかしながら拓殖費財源の関係上着工の機運に至らなかった。

本格的な網走川水系の治水事業は、昭和 9 年（1934 年）から北海道第 2 期拓殖計画の一環として、大正 11 年（1922 年）8 月洪水に鑑み、本郷地点における計画高水流量を 5 万立方尺（約 1,400m³/s）、美幌地点の計画高水流量を 4 万立方尺（約 1,100m³/s）として美幌町市街部から網走湖流入地点までの区間について捷水路の開削、築堤等を実施した。

その後、昭和 32 年（1957 年）に計画を見直し、美幌における計画高水流量を約 1,100m³/s から 1,200m³/s にし、美幌から住吉までの区間において築堤、掘削等を実施した。昭和 43 年（1968 年）には住吉から網走市街部までの区間及び津別から美幌までの区間を加え、津別から河口までの計画を決定した。

網走川は昭和 44 年（1969 年）に一級河川に指定され、昭和 45 年（1970 年）には昭和 43 年（1968 年）の総体計画を踏襲した工事実施基本計画を策定し、美幌基準点における基本高水のピーク流量を 1,200m³/s として、河道に配分することとした。

昭和 50 年（1975 年）洪水を契機に、昭和 53 年（1978 年）より下流部の特殊堤に着手した。その際、網走川の恵まれた河川環境を活用し、都市景観の中に調和させるために、河川緑地計画を策定し、環境に配慮した特殊堤を実施した。また、平成 4 年（1992 年）洪水を契機に、上流無堤区間の流下能力不足区間の解消を図るため、改修を実施中である。また、平成 13 年（2001 年）9 月洪水を契機に網走湖の湖岸堤において堤防強化対策が進められている。



写真 4.1 景観に考慮した護岸（下流部）

平成 9 年（1997 年）の河川法の改正に伴い、平成 18 年（2006 年）4 月に「網走川水系河川整備基本方針」を策定した。基準地点美幌における基本高水のピーク流量は、雨量、流量、既往洪水からの検討を行い、 $1,200\text{m}^3/\text{s}$ とした。計画高水流量については、河道改修や洪水調節施設の可能性など各種検討の結果を踏まえ、基本高水のピーク流量の全量を河道で負担するものとし、基準地点美幌の計画高水流量を $1,200\text{m}^3/\text{s}$ とした。

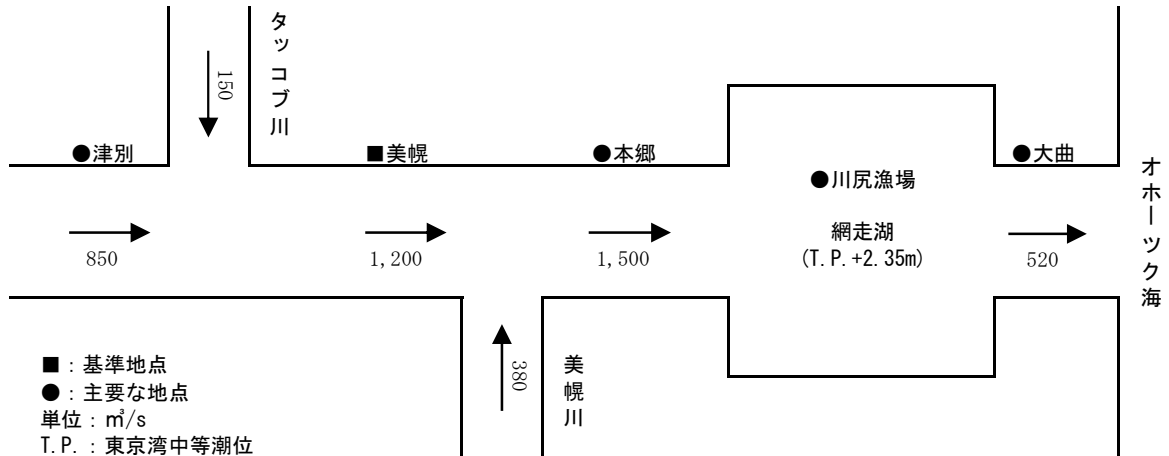


図 4.1 網走川水系河川整備基本方針の計画高水流量図（平成 18 年）

平成 27 年（2015 年）9 月には基準地点美幌で戦後最大流量を生起した平成 4 年（1992 年）9 月洪水相当を整備目標とし、目標流量を基準地点美幌で $950\text{m}^3/\text{s}$ とした網走川水系河川整備計画（国管理区間）を策定した。

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨（2015 年）を受けて、平成 27 年（2015 年）12 月に策定された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、平成 28 年（2016 年）4 月に「網走川減災対協議会」を設置した。その後、同年 8 月に北海道と東北を相次いで台風が襲い、各地で甚大な被害をもたらしたことから、「大規模氾濫減災協議会制度」を新たに盛り込んだ改正水防法が平成 29 年（2017 年）6 月に施行された。これに伴い、本部会を水防法第 15 条の 9 に基づく法定協議会に改組し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国、道、町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

また、河川管理者、ダム管理者及び関係利水者により、令和 2 年（2020 年）5 月に網走川水系治水協定が締結され、流域内にある既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用し、下流域の浸水被害の軽減を図る取組を進めている。

さらに、気候変動の影響による水害の頻発化・激甚化を踏まえ治水対策を抜本的に強化するため、網走川流域治水協議会を設置し、令和 3 年（2021 年）3 月に「網走川流域治水プロジェクト」を策定・公表し、河川整備に加え、あらゆる関係者が協働し、浸水リスクが高いエリアにおける土地利用・住まい方の工夫、水田等の貯留機能有効活用に向けた調整等、水害リスク情報の提供及び迅速かつ的確な避難と被害最小化を図る取組等を組み合わせ、浸水被害の軽減を図る治水対策を推進している。

加えて、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、令和 6 年（2024 年）3 月に気候変動の影響を考慮した河川及び流域での対策方針を反映した「網走川流域治水プロジェクト 2.0」への更新を行った。

また、被害軽減のためのハザードマップ、マイ・タイムラインの作成による水害リスクの周知等の取組により、流域における浸水被害の軽減を図ることとしている。

表 4.2 治水事業年譜

西暦	年号	主な事業内容
1900年	明治33年	網走川32線に官設渡船場設置
1901年	明治34年	北海道10年計画策定
1913年	大正 2年	網走川河川調査着手
1919年	大正 8年	網走川治水計画樹立
1927年	昭和 2年	網走川、常呂川、湧別川などの治水工事費計上
1934年	昭和 9年	網走川第1期治水工事着手(昭和11年迄) 網走湖より上流本川河道切替掘削 網走川女満別治水工場設立
1937年	昭和12年	網走川第2期治水工事着手(昭和21年迄)、美幌治水工場設立(女満別治水工場を廃止)
1939年	昭和14年	美幌治水工場を網走川河川改修事業所と改称
1947年	昭和22年	治水工事再開
1948年	昭和23年	美幌川下流部(網走橋付近) 浚渫工事着手
1950年	昭和25年	北海道開発法の制定
1951年	昭和26年	改修計画再検討のための調査開始
1952年	昭和27年	網走川、湖上本流本郷右岸盛土
1953年	昭和28年	網走新橋架替工事完成、昭和28年度以降改修総体計画策定
1957年	昭和32年	網走川改修全体計画策定
1960年	昭和35年	大正橋竣工
1963年	昭和38年	昭和38年度以降改修総体計画策定
1964年	昭和39年	治水橋、永久橋完成、水路(サラカオーマキン川) 掘削
1966年	昭和41年	新水路通水
1968年	昭和43年	昭和43年度以降改修総体計画策定、美幌町周辺より網走湖にいたる築堤を概成、美和築堤に着手
1969年	昭和44年	網走川1級河川に昇格工事実施基本計画策定
1972年	昭和47年	水質汚濁防止法による網走川の水質規制実施
1973年	昭和48年	北見河川事務所発足(美幌改修事業所廃止)
1974年	昭和49年	昭和47年度以降直轄河川改修計画承認
1975年	昭和50年	網走川下流部浚渫着手
1976年	昭和51年	網走川河畔公園完成東幹線頭首工の完成
1977年	昭和52年	網走川東幹線頭首工改築完成、網走市街地区築堤促進、湖岸堤完成、美幌地区及び美和築堤を概成
1982年	昭和57年	網走川西幹線頭首工改築完了住吉地区の掘削に着手 下流部特殊堤が新橋まで概成、美幌地区護岸を促進
1985年	昭和60年	呼人浦護岸着手(昭和61年完了)
1987年	昭和62年	鏡橋下流右岸の修景護岸着手(昭和62年完了)
1988年	昭和63年	新橋下流右岸の親水護岸着手(昭和63年完了)
1989年	平成元年	網走川水系河川環境管理基本計画樹立、昭和62年度以降直轄河川改修計画策定
1990年	平成 2年	網走川、常呂川連合水防演習 鏡橋下流左岸、中央橋上流左岸の親水護岸着手本郷地区の掘削に着手
1991年	平成 3年	網走湖水質保全対策検討委員会発足、美幌右岸AGS工事着手(平成10年完了)
1992年	平成 4年	下流部特殊堤が網走橋まで概成、津別町地区で既往最大洪水である9月洪水の災害復旧
1993年	平成 5年	網走湖・網走川浄化対策事業着手 網走市において桜づつみモデル事業認定(平成6年完了) 岩富築堤着手 直轄河川環境整備事業として網走湖浄化事業が認められる
1994年	平成 6年	網走湖浄化事業として排泥地造成工事着手
1995年	平成 7年	網走川上流部岩富地区の河道掘削に着手、網走湖の女満別湾で試験浚渫に着手
1996年	平成 8年	活汲橋架替工事着手(平成11年完了)
1997年	平成 9年	河川法改正
1998年	平成10年	中央橋下流左岸築堤・掘削着手、網走湖の呼人浦で浚渫に着手
1999年	平成11年	網走川中央橋下流左岸が水辺プラザ事業に認定
2002年	平成14年	本郷・住吉地区で平成13年9月洪水の災害復旧工事(漏水対策)
2003年	平成15年	本郷・住吉地区で本格的な漏水対策に着手、美幌地区で光ファイバー整備に着手
2006年	平成18年	網走川水系河川整備基本方針策定
2015年	平成27年	網走川水系河川整備計画(国管理区間) 策定
2016年	平成28年	網走川減災対策協議会設置
2020年	令和 2年	網走川水系治水協定締結
2024年	令和 6年	網走川流域治水プロジェクト2.0更新

4-3 流域治水対策の取組

(1) 流域治水プロジェクトに基づく流域治水の推進

1) 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

① 治山・森林整備の取組

植栽・間伐等の森林整備、治山施設整備を行い、保水機能の維持を通じて、土砂や流木等の流出抑制を図っている。

網走川流域の土地利用は、山地が約7割となっており、各機関が計画的に森林整備を進めている。



写真 4.2 森林整備・治山整備の事例

② 治水安全度の確保

網走川等の治水安全度の維持・向上を図るため、河道掘削や湖等の浚渫を実施している。



写真 4.3 治水安全度向上のための掘削等の事例

2) 被害対象を減少させるための対策

網走市の立地適正化計画において、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める「防災指針」を策定している。網走市立地適正化計画で策定された防災指針は、洪水災害及び土砂災害による災害リスクを分析し、課題を抽出することで、居住誘導区域内における取組方針を定めている。



図 4.2 立地適正化計画における防災指針（網走市立地適正化計画より）

3) 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策

① ソフト対策

各自治体から災害時におけるプッシュ型情報配信を実施や SNS を活用した情報発信等により、河川の水位レベルや氾濫発生等の防災情報の周知に取り組んでいる。

また、地域住民の防災意識向上に向け、防災訓練の実施、1 日防災学校、出前講座等を実施している。



写真 4.4 ソフト対策実施状況

(2) 流域治水プロジェクト 2.0

近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進するため、国や県の関係部署並びに流域の市町等で組織された「網走川ほか流域治水協議会」において、令和3年（2021年）3月に網走川流域で行う流域治水の全体像をとりまとめた「網走川水系流域治水プロジェクト」を策定した。また、気候変動の影響による降水量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため、流域のあらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図り、「網走川水系流域治水プロジェクト 2.0」を令和6年（2024年）3月に策定した。



図 4.3 網走川水系流域治水プロジェクト 2.0

5. 水利用の現状

5-1 水利用の現状

網走川水系における利水の現況は、許可水利権として 73 件あり、河川水の利用は、農業用水、発電用水、工業用水、その他雑用水など多岐にわたっている。

農業用水は、開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は、約 6,500ha に及ぶ農地のかんがいに利用されている。水力発電としては、津別発電所、下津別発電所の 2 ケ所により総最大出力 1,010kW の電力供給が行なわれている。

また、製糖工場等の工業用水やサケ、カラフトマス、ワカサギのふ化養魚用水に利用されている。

表 5.1 網走川水系の水利用現況

目 的	件 数	取水量 (m ³ /s)
かんがい用水	63	8.8
発電用水	2	4.7
水道用水	0	0
工業用水	2	0.4
その他	6	0.2
計	73	14.1

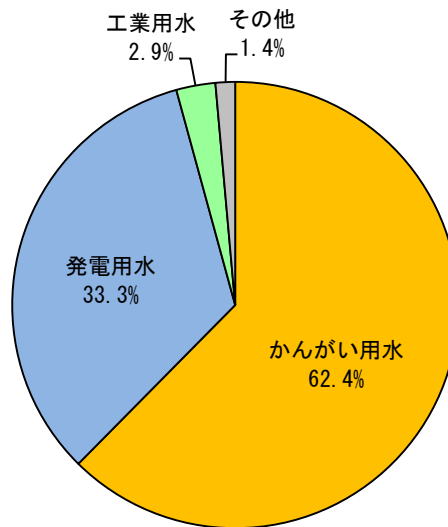


図 5.1 網走川水系の目的別水利用割合図

5-2 渇水被害及び渇水調整

網走川水系において、過去に大きな渇水被害はない。また、過去に渇水調整は行っていない。

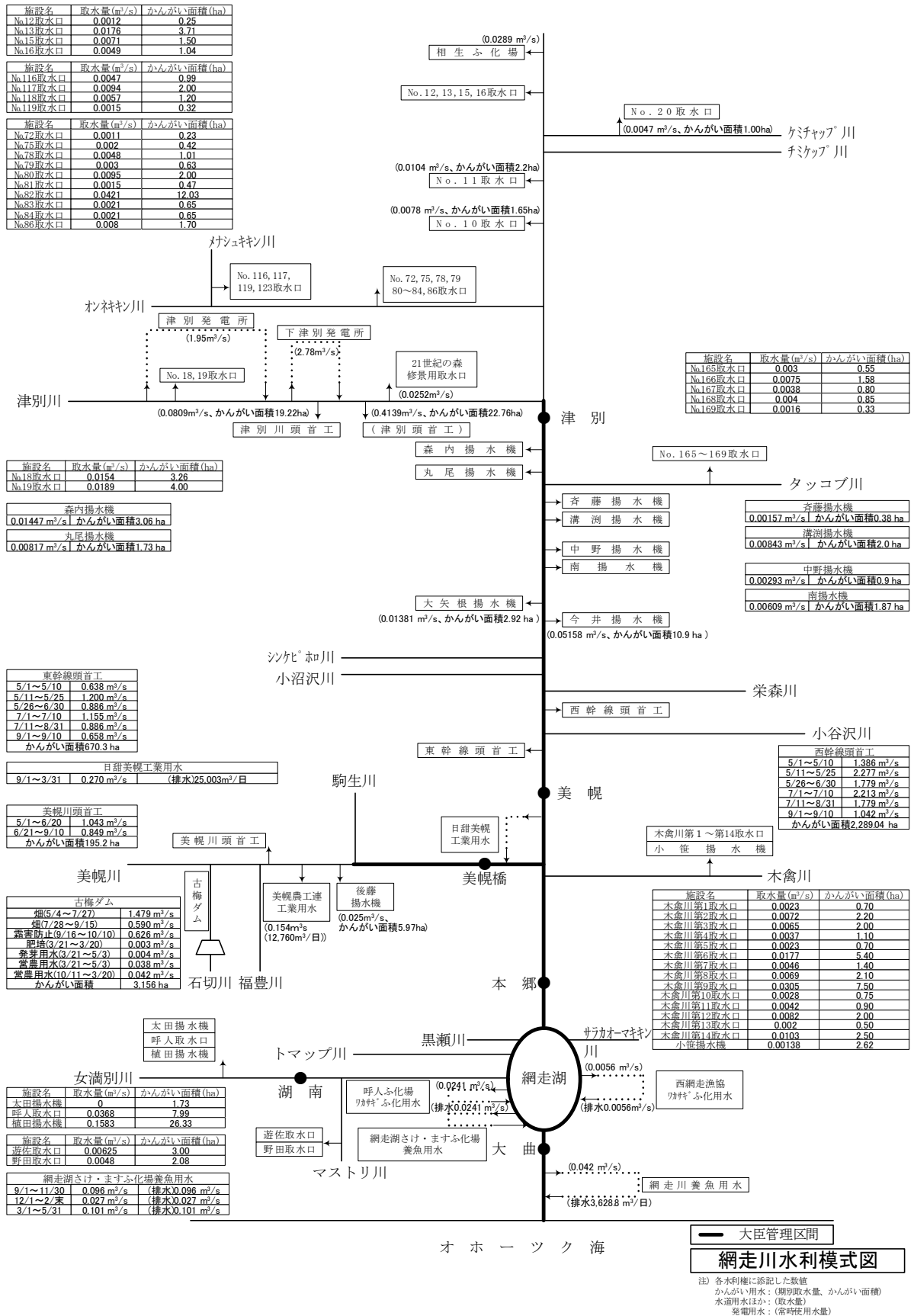


図 5.2 網走川水系水利権模式図

6. 河川流況及び水質

6-1 河川流況

網走川の美幌地点における流況は表 6.1のとおり、昭和 45 年（1970 年）から令和 5 年（2023 年）までの過去 54 年間の平均で、低水流量約 6.5m³/s、渇水流量約 3.9m³/s となっている。

表 6.1 美幌地点における流況表

年	データ数	欠測数	流量 (m ³ /s)						
			最大	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均
昭和45年	365	—	173.87	9.06	6.46	5.60	2.77	2.27	12.95
46	365	—	99.44	15.60	8.98	5.63	2.82	2.31	14.30
47	366	—	127.75	14.61	9.97	6.92	5.40	5.12	15.25
48	365	—	106.07	20.84	12.91	8.37	4.76	1.79	17.88
49	365	—	153.65	18.48	12.11	8.16	1.99	0.45	16.88
50	365	—	215.46	28.37	14.76	8.90	6.86	5.48	27.73
51	366	—	71.20	12.36	7.81	4.72	1.63	0.71	10.60
52	365	—	57.79	8.86	5.61	4.86	1.13	0.94	9.13
53	365	—	125.21	10.23	6.90	5.45	1.99	1.19	10.31
54	365	—	141.08	14.57	6.93	5.30	2.80	2.42	13.35
55	366	—	39.53	8.33	6.35	4.71	1.33	0.93	8.48
56	365	—	107.70	16.40	8.94	5.78	3.64	1.97	14.12
57	365	—	36.14	8.37	6.34	5.09	2.69	2.13	8.91
58	365	—	92.22	8.87	7.07	5.51	3.78	3.27	9.17
59	366	—	75.03	6.33	5.35	4.68	1.65	0.80	8.77
60	365	—	52.36	9.60	6.01	3.83	0.57	0.14	8.70
61	365	—	68.54	7.44	5.92	4.90	1.57	0.67	9.51
62	365	—	40.72	7.58	5.14	4.16	1.67	1.17	7.08
63	366	—	157.22	9.29	5.93	5.08	0.40	0.09	8.91
平成 1年	365	—	61.42	10.82	7.69	6.00	2.68	2.16	10.71
2	365	—	70.60	17.54	10.68	6.06	4.15	2.27	15.07
3	365	—	53.05	9.67	6.28	5.19	2.42	1.66	9.42
4	366	—	533.92	13.77	8.50	5.29	1.88	1.44	14.00
5	365	—	59.92	14.86	8.28	7.49	3.73	3.36	13.83
6	365	—	131.00	12.12	8.22	6.85	2.89	2.15	13.23
7	365	—	67.31	18.50	10.29	7.65	5.40	4.72	14.73
8	366	—	85.39	13.65	8.54	7.40	6.53	5.69	13.62
9	365	—	70.58	15.18	8.63	6.19	3.63	2.83	12.47
10	365	—	309.89	15.15	11.07	7.19	4.20	3.21	16.73
11	365	—	70.68	9.58	7.54	5.93	3.35	2.67	10.27
12	366	—	152.78	12.50	7.25	5.58	4.47	3.40	13.96
13	365	—	570.62	13.19	7.77	5.57	3.99	2.91	15.48
14	365	—	101.40	13.65	10.12	7.38	6.01	5.69	14.33
15	365	—	229.85	10.11	8.84	6.36	4.04	3.57	12.31
16	366	—	102.91	11.40	8.34	7.39	6.03	5.48	14.37
17	365	—	51.29	8.99	7.23	5.59	3.72	3.37	9.77
18	365	—	501.14	16.76	10.33	6.57	4.59	4.14	19.40
19	365	—	64.88	13.05	8.93	7.83	6.44	5.99	13.87
20	359	7	38.63	9.57	6.90	6.24	5.26	4.62	9.38
21	365	—	114.83	17.17	10.52	6.87	3.74	3.21	14.98
22	365	—	95.00	18.61	12.56	9.19	5.52	4.50	15.60
23	362	3	89.41	15.02	9.94	7.06	4.79	4.13	14.38
24	366	—	112.69	19.71	10.24	8.31	4.49	4.49	17.11
25	365	—	180.34	24.95	13.95	8.91	6.08	5.51	20.44
26	365	—	94.37	11.53	8.86	7.50	6.07	5.04	14.40
27	365	—	179.75	16.09	11.33	7.65	5.71	5.20	17.92
28	366	—	400.98	22.77	13.49	9.96	6.92	6.06	24.26
29	365	—	65.42	16.31	10.82	7.34	5.26	4.01	13.77
30	359	6	153.60	20.24	11.82	7.74	4.88	3.69	17.06
令和1年	365	—	68.05	11.57	8.69	6.58	4.93	4.71	10.80
2	366	—	78.71	11.17	7.13	5.68	3.78	3.31	10.62
3	365	—	126.27	15.44	8.70	5.33	3.07	2.59	13.04
4	364	1	85.90	13.50	10.18	6.83	4.63	4.07	13.15
5	365	—	74.30	15.02	9.07	6.57	5.12	4.56	13.12
最大値			570.62	28.37	14.76	9.96	6.92	6.06	27.73
平均値			133.11	13.78	8.86	6.46	3.89	3.15	13.51
最小値			36.14	6.33	5.14	3.83	0.40	0.09	7.08
近年54年間 (S45～R5) 第5位			51.29	8.37	5.93	4.72	1.57	0.71	8.91
近年50年間 (S49～R5) 第5位			51.29	8.37	5.93	4.72	1.57	0.71	8.91
近年40年間 (S59～R5) 第4位			52.36	8.99	5.93	4.90	1.65	0.80	8.91
近年30年間 (H6～R5) 第3位			64.88	9.58	7.23	5.58	3.35	2.67	10.27
近年20年間 (H16～R5) 第2位			51.29	9.57	7.13	5.59	3.72	3.21	9.77
近年10年間 (H26～R5) 第1位			65.42	11.17	7.13	5.33	3.07	2.59	10.62

注1) 流域面積：824.0km²

※出典：国土交通省 水文水質データベース

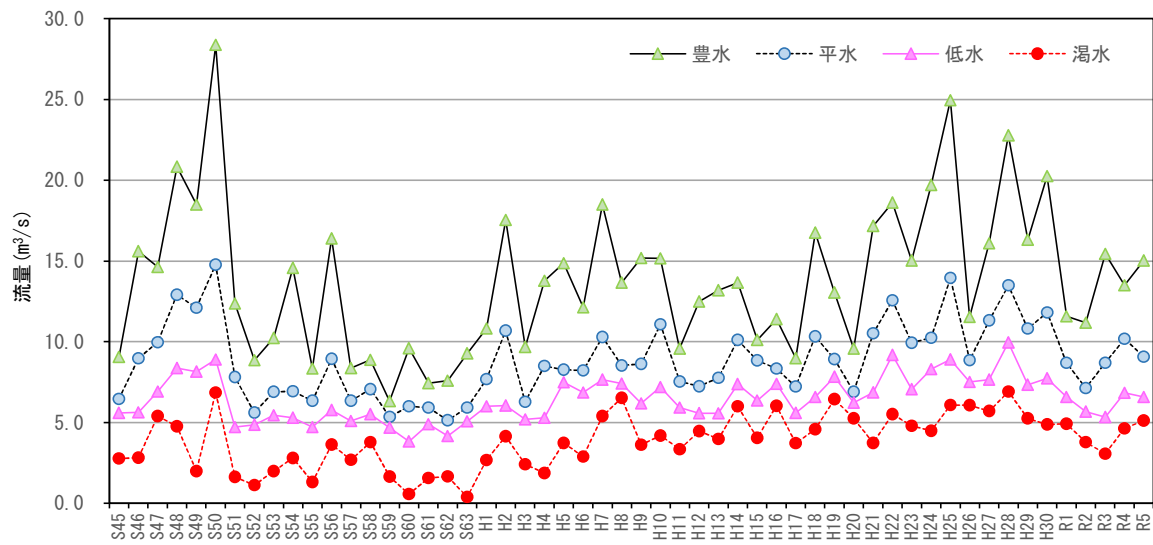


图 6.1 美幌地点流況経年变化图

6-2 河川水質

網走川水系における水質汚濁にかかわる環境基準の類型指定は表 6.2、表 6.3、図 6.2に示すとおりであり、大正橋より上流と美幌川の都橋より上流は河川 A 類型、大正橋から網走湖と網走湖より下流、美幌川の都橋より下流は河川 B 類型に指定されている。また、網走湖は水質環境基準の湖沼 A 類型（全窒素、全りんについては湖沼 IV 類型）に指定されている。

現況水質については図 6.3～図 6.8に示すように、河川では BOD75%値について指定されている環境基準値を概ね満足している。一方、網走湖では COD75%値、全窒素、全りんが環境基準を超過しており、アオコの他、青潮が頻発に発生し、漁業資源などに悪影響を与えている。

そのため、湖内での浄化対策や下水道整備など流域から供給される汚濁負荷を減らす努力が行われている。

表 6.2 水質環境基準の類型指定状況（網走川及び美幌川）

水系名	水域名	該当 類型	達成 期間	環境基準地点 名	備考
網 走 川	網走川上流（大正橋より上流）	A	イ	大正橋	S46.5.25 指定 （閣議決定）
	網走川中流（大正橋から網走湖まで）	B	ロ	治水橋（本郷）	
	網走川下流（網走湖より下流）	B	ロ	網走橋	
	美幌川上流（都橋より上流）	A	イ	都橋	
	美幌川下流（都橋より下流）	B	ロ	美幌橋	

注) 達成期間の「イ」は直ちに達成、「ロ」は 5 年以内で可及的速やかに達成を意味する。

表 6.3 水質環境基準の類型指定状況（網走湖）

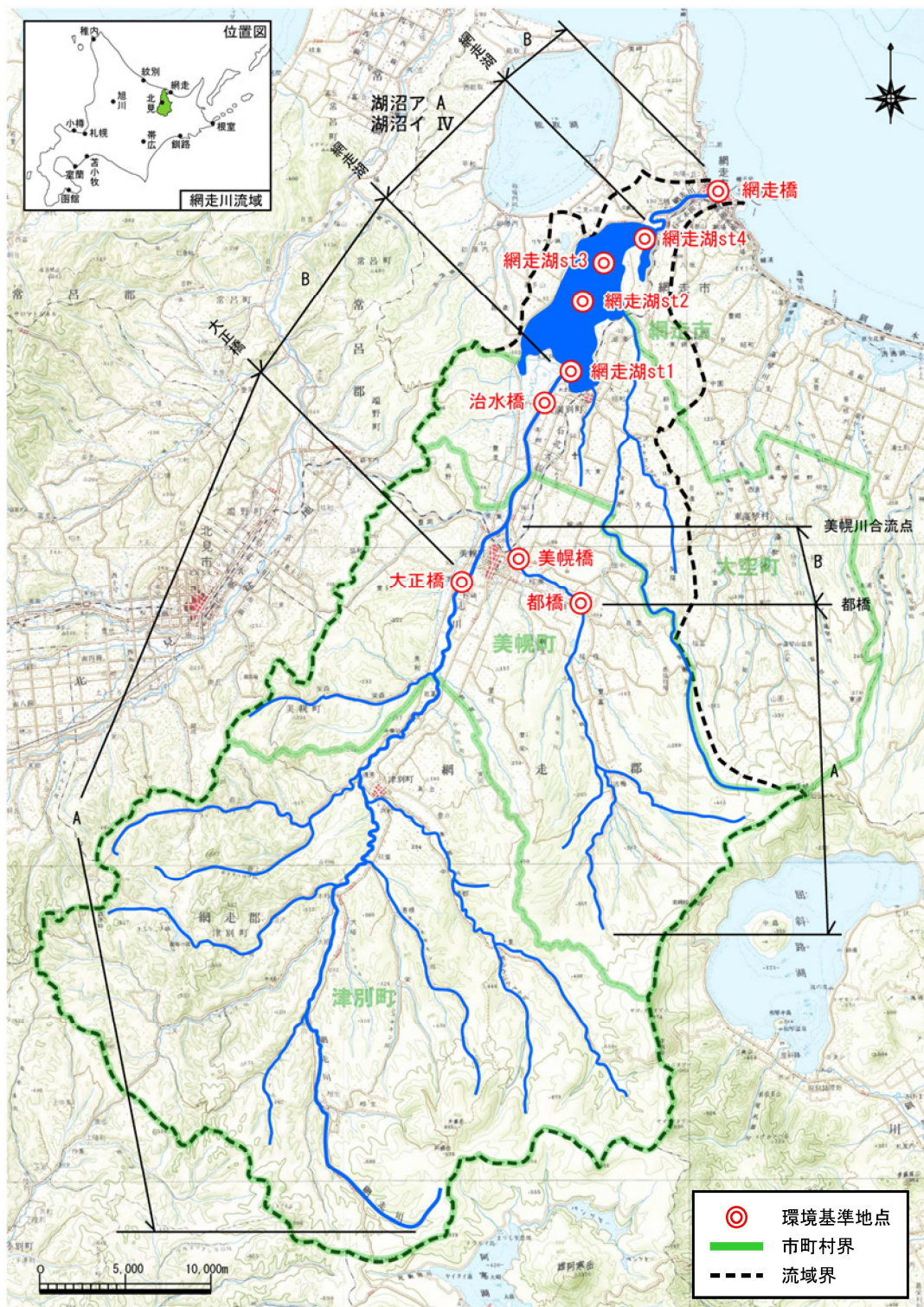
水域名	該当類型	達成 期間	備 考	指 定 年 月 日
網 走 湖 （全域）	湖沼			
	ア A	イ		S46.5.25 閣議決定
	イ IV	イ		S61.1.13 道告示第 44 号

注) 1. 『該当類型』の湖沼、ア、イ

ア：pH、COD、SS、D₀、大腸菌群の環境基準

イ：全窒素、全りんの環境基準

2. 達成期間の「イ」は直ちに達成、「ロ」は 5 年以内で可及的速やかに達成を意味する。



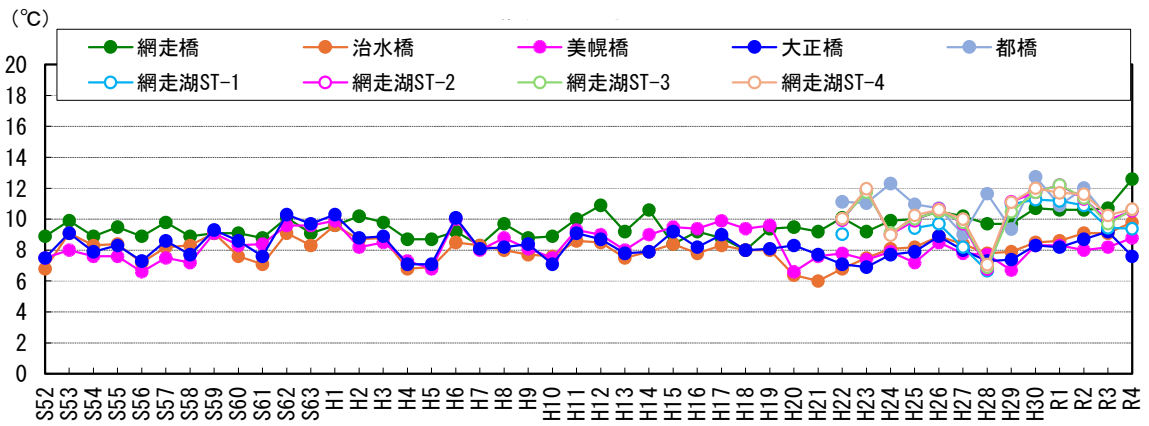


図 6.3 網走川における水質(水温)の経年変化

※出典：都橋は北海道 公共用水域の水質測定結果、それ以外は水文水質データベース

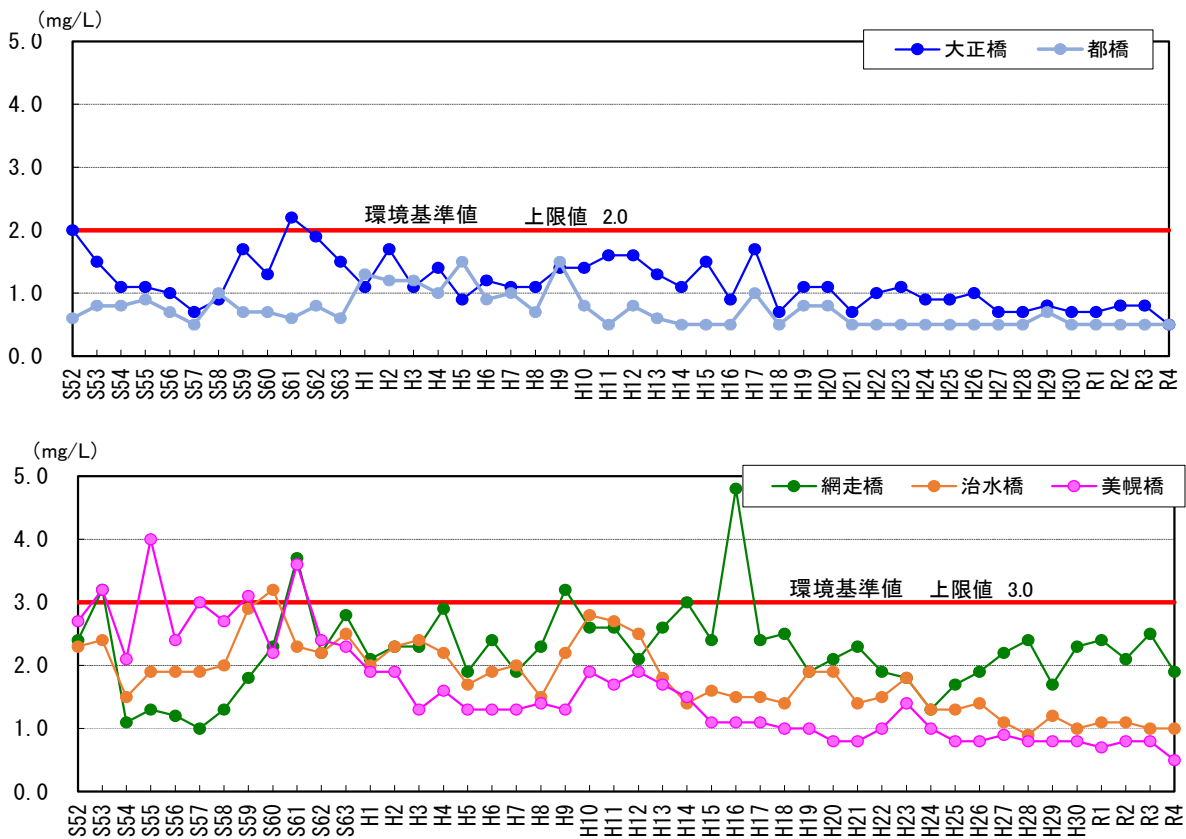


図 6.4 網走川における水質(BOD75%値)の経年変化

※出典：北海道 公共用水域の水質測定結果

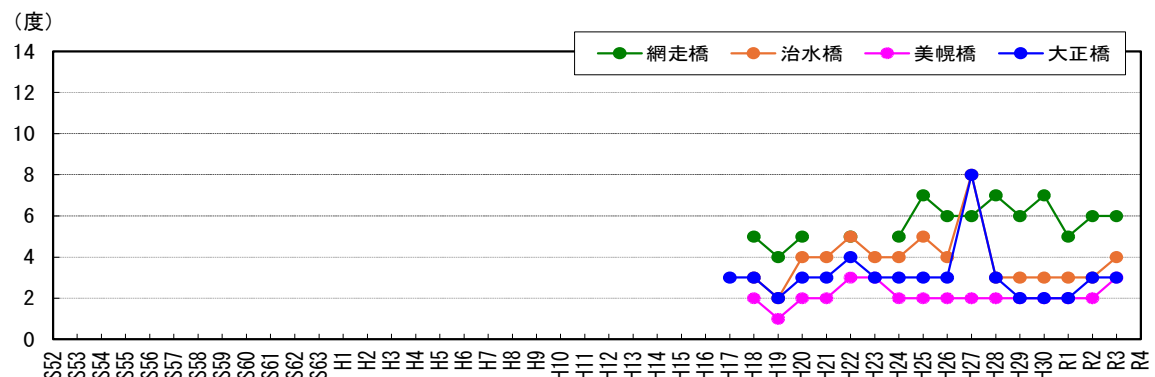


図 6.5 網走川における水質(濁度)の経年変化

※出典：水文水質データベース（都橋は測定結果なし）

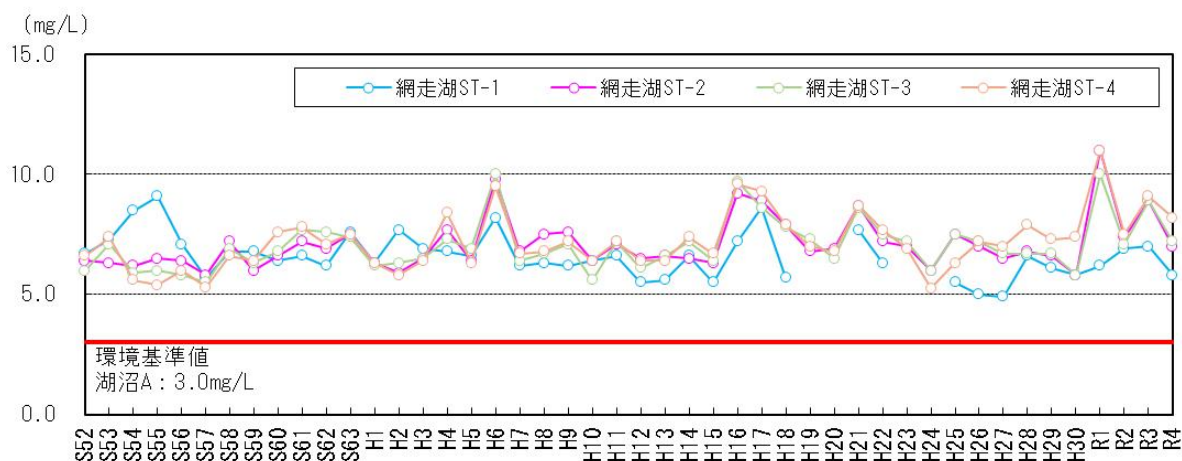


図 6.6 網走湖における水質(COD75%値)の経年変化

※出典：北海道 公共用水域の水質測定結果

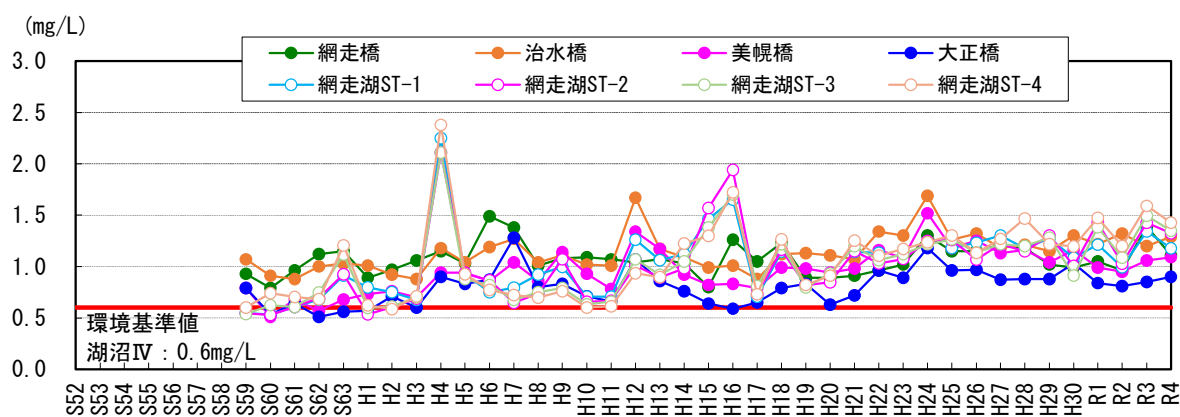


図 6.7 網走川及び網走湖における水質(全窒素)の経年変化

※出典：北海道 公共用水域の水質測定結果

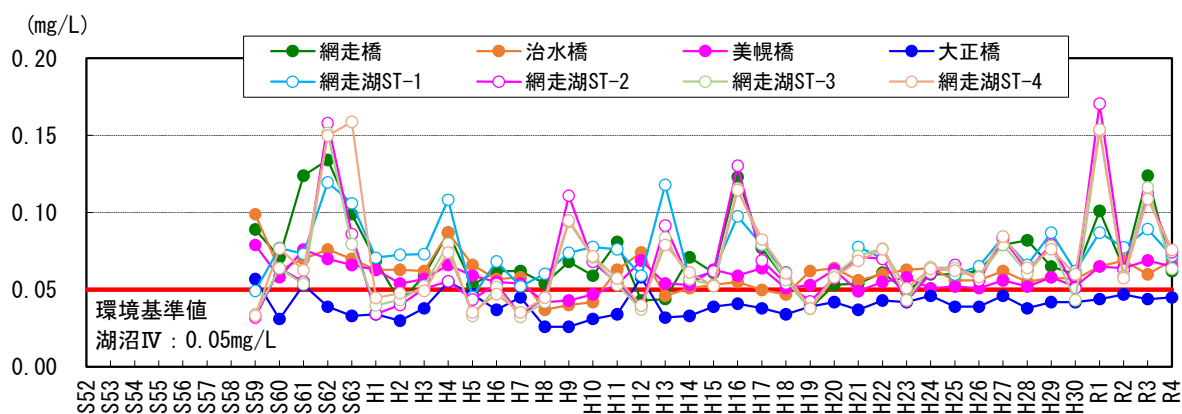


図 6.8 網走川及び網走湖における水質(全リン)の経年変化

※出典：北海道 公共用水域の水質測定結果

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川敷等の利用状況

(1) 河川敷地の利用状況

網走川の河川空間利用者総数(推定)を以下に示す。

令和6年度(2024年度)の利用者数の推計は約12.9万人で、令和元年度(2019年度)調査から約5.5万人減少している。

利用形態別では、散策等が約68%で最も多く、次いで釣り約12%、水遊び約11%、スポーツ約9%であった。

利用場所別では、高水敷が約69%と最も多く、次いで水際が約14%、水面が約10%、堤防が約8%であった。

表 7.1 網走川の河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合		
		H26	R1	R6	平成26年度	令和元年度	令和6年度
利用形態別	スポーツ	59	59	11			
	釣り	27	20	16			
	水遊び	7	72	15			
	散策等	22	33	88			
	合計	116	184	129			
利用場所別	水面	27	75	13			
	水際	7	18	18			
	高水敷	69	83	89			
	堤防	12	8	10			
	合計	116	184	129			

※河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)による。

7-2 高水敷の利用状況

網走川は広大な河川空間を有しており、特に河川敷地は水面及び背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。

オープンスペースの少ない都市部では、河川空間の存在は貴重であり、河川敷地の緑地化、公園化を推進し、積極的に開放、利用を図っている。

網走川での河川敷地としての利用状況は表 7.2のとおりである。

表 7.2 河川敷地の占用状況(大臣管理区間)

単位: ha、下段(): %

河川名	公園・緑地		畑		水田		採草地		その他		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
網走川	18	38.5 (14)	34	19.5 (7)	12	9.9 (4)	41	159.4 (59)	567	42.2 (16)	672	269.5 (100)

注) 令和6年5月14日調製

※出典：北海道開発局資料



オホーツク文化交流センター周辺



美幌町市街地周辺

写真 7.1 高水敷の利用状況

7-3 河川の利用状況

網走川は、網走湖を含み広大な河川空間を有しており、特に河川敷地は水面及び背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。

網走川感潮域では特殊堤のため高水敷はなく、網走湖岸は水面を利用した公園、広場、キャンプ場があり、中流部は広い高水敷を有し、採草地として利用されている。美幌市街の都市地域では自然のうらおいとやすらぎを得られる重要なオープンスペースとして、広場、公園緑地等多目的に利用され、また、各種イベントも実施されている。

河川の利用については、網走湖畔にキャンプ場や多目的スポーツ施設が整備されており、春季から秋季にかけては、カヌーやボート遊び、スポーツ、散策等に、湖が一面氷に覆われる冬季はワカサギ釣りやスノーモービル等四季を通じて広く利用されている。さらに、網走湖畔や網走及び美幌市街地付近の河畔公園では様々なお祭り等の河川空間を利用したイベント等も行われている。また、網走市では、「網走かわまちづくり」が平成28年（2016年）3月、「網走湖呼人地区かわまちづくり」が令和7年（2025年）8月に登録され、かわとまちとが一体となった観光振興や親水空間の創出を通じて網走観光の魅力を高め、網走川沿いの賑わいによる地域の活性化を目指している。



オホーツク SEA TO SUMMIT（網走市）



日本一網走湖ワカサギ釣り選手権大会（網走市）

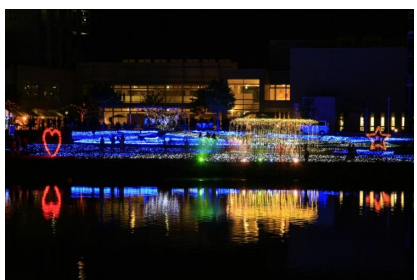


めまんべつ観光夏まつり（大空町）



美幌観光和牛まつり（美幌町）

写真 7.2 河川の利用状況



水辺でのイベント



自然環境体験講座

写真 7.3 かわまちづくりに関連したイベント開催状況

7-4 内水面漁業

網走川及び網走湖における内水面漁業は、網走漁業協同組合（昭和24年（1949年）8月1日設立）と西網走漁業協同組合（昭和24年（1949年）7月20日設立）により行われている。漁業対象は、シジミガイ、ワカサギ、コイ、エビ、シラウオである。

○漁業権の概要

ア. 共同漁業権

漁 協：網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合

漁場番号：網内共第3号（網走川）、網内共第4号（網走湖）

設定区間：基点第1号（北海道開発局大曲水位観測所下流端）と基点第2号（基点第1号から300度の線と対岸との交点）を結んだ線から下流、鏡橋下流端の線から下流650mの点までの網走川本流の区域（網内共第3号）
豊郷橋上流端の線から下流基準点第1号（北海道開発局大曲水位観測所下流端）と基点第2号（基点第1号から300度の線と対岸との交点）を結んだ線までの網走川本流及び網走湖の区域並びに温泉橋上流端の線から下流の女満別川本流の区域（網内共第4号）

漁業権	魚 種	漁業許可期間
第1種共同漁業権	シジミガイ	1月1日～12月31日
第5種共同漁業権	ワカサギ（曳網）	1月1日～12月31日
	コイ（曳網）	1月1日～12月31日
	コイ（刺網）	1月1日～12月31日
	エビ（ふくべ網）	1月1日～12月31日
	シラウオ（曳網）	1月1日～12月31日

出典：「内水面共同・区画漁業権に関する告示・公告（令和5年5月31日付告示）」

イ. 北海道特別採捕許可

漁 協 等：一般社団法人 北見管内さけ・ます増殖事業協会

漁場番号：北海道の特別採捕許可

設定区間：網走川と交差する道道北見美幌線大正橋下端から下流の網走川本支流及び網走湖一円の区域

魚 種	漁業許可期間
サケ	7月15日～翌年1月31日（毎年更新）
カラフトマス	7月15日～翌年1月31日（毎年更新）

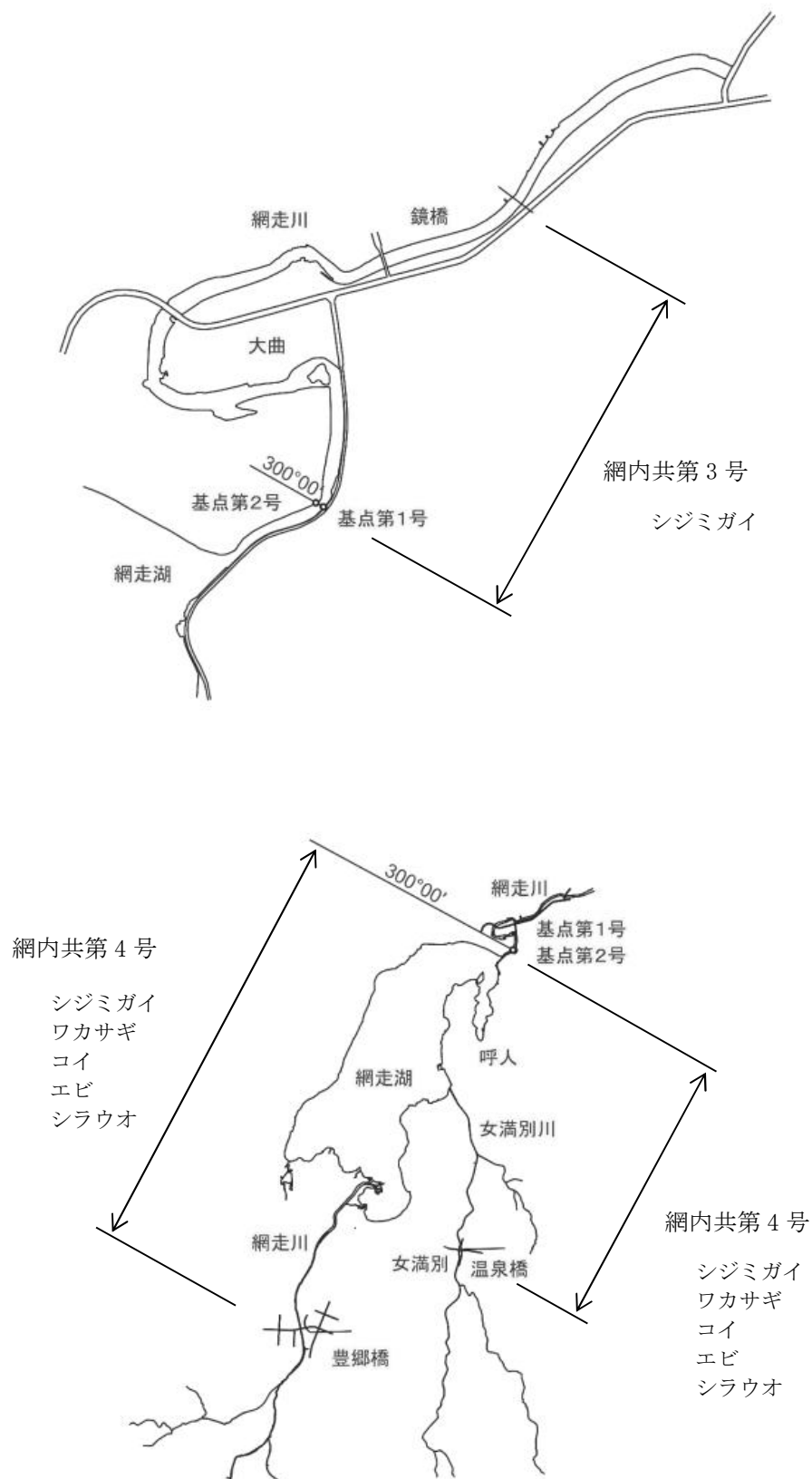


図 7.1 共同漁業権免許漁場図

出典：「内水面共同・区画漁業権に関する告示・公告（令和5年5月31日付告示）」に加筆

8. 河道特性

8-1 河床高の縦断的变化

昭和43年（1968年）から最新の測量年である令和4年（2022年）の平均河床高の変動量を整理した。網走川の大臣管理区間では、今まで砂利採取目的の掘削は行われていないが、全川の洗掘の傾向が見られていた。

網走湖上流では、近年まで全川において、低水路掘削等が実施されており、改修直後は一時的に大きな洗掘や堆積が見られ、それ以降、縦断的に洗掘傾向となっていたが、近年は変動高が小さい。

網走川における低水路平均河床高の経年変化縦断図を図4.1に示す。

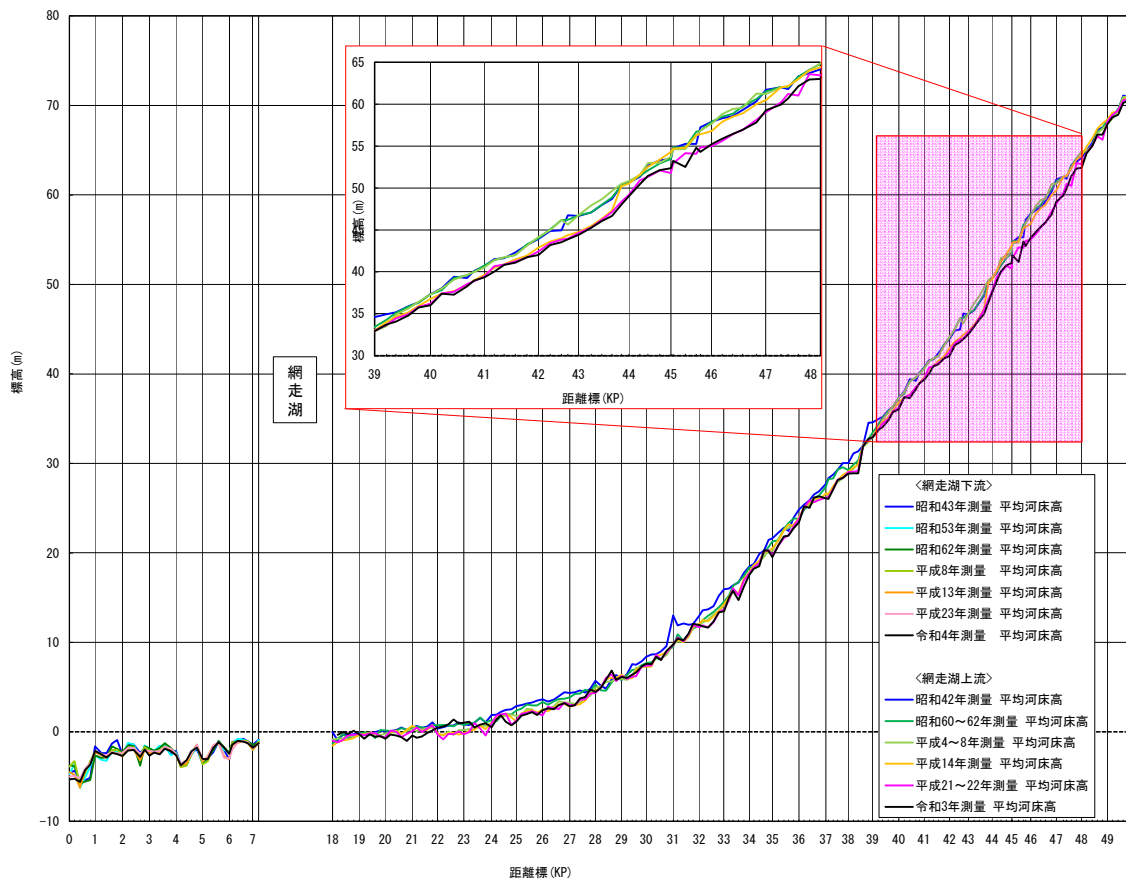


図 8.1 低水路平均河床高の経年変化縦断図

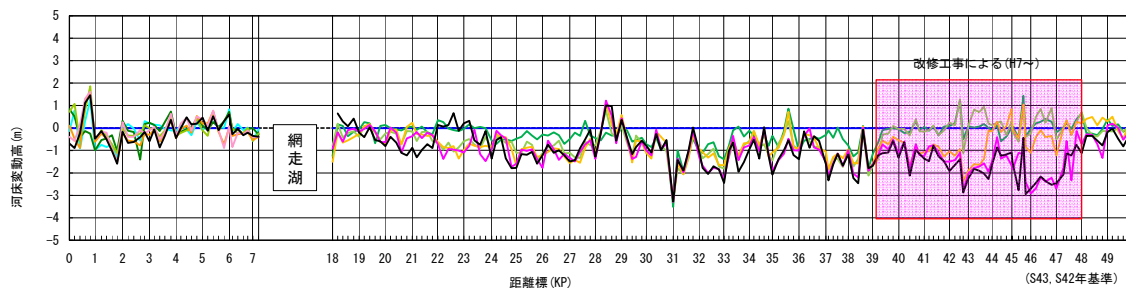


図 8.2 低水路平均河床変動量の経年変化縦断図(昭和43年～令和4年)

8-2 河床変動の経年変化

網走湖下流は、昭和 43 年（1968 年）～昭和 53 年（1978 年）に 1.0k～3.0k の区間で河道改修を実施して以降、河道掘削等は行われていない。

河口～1.0k の区間は、港湾管理区間となっており、1.0k より上流と比べ、河床が 2～3m 程度低くなっている。このため、平成 13 年（2001 年）までは 1m 以上の堆積や洗掘が生じていたが、近年は変動高が小さくなっている。

長期間で見た場合においても、変動は小さい。

網走湖上流の河床高変動量は、低水路掘削や頭首工整備等により、改修直後に河床高が 1～3m 程度低下している。東幹線頭首工及び西幹線頭首工は両頭首工とも可動堰であり、頭首工の整備と併せて河道改修を実施している。

特に東幹線頭首工の整備箇所では、河道法線も変更しており、3m 程度の掘削が行われている。頭首工整備後、1m 程度の洗掘や堆積が発生しているが、平成 8 年（1996 年）以降は河床変動量が小さくなっている。

平成 22 年（2010 年）～令和 3 年（2021 年）の変動量では、18k～23k 付近で堆積傾向が見られる。この区間は、平成 22 年（2010 年）に低水路拡幅の改修工事を実施しているが、その後、改修箇所です再堆積が生じている。それ以外の箇所では全体的に洗掘傾向となっている。

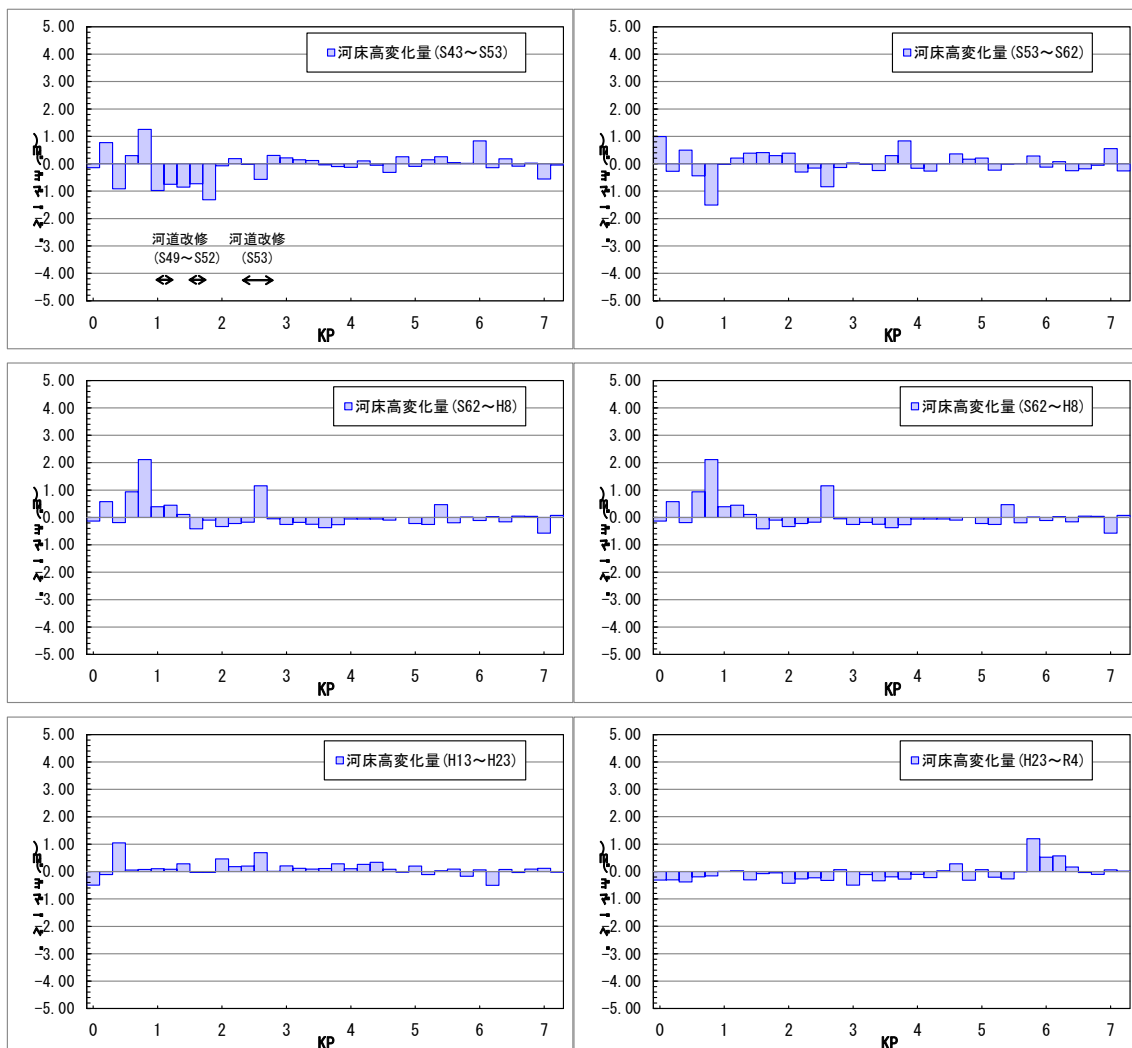


図 8.3 網走湖下流 平均河床高変動量の経年変化

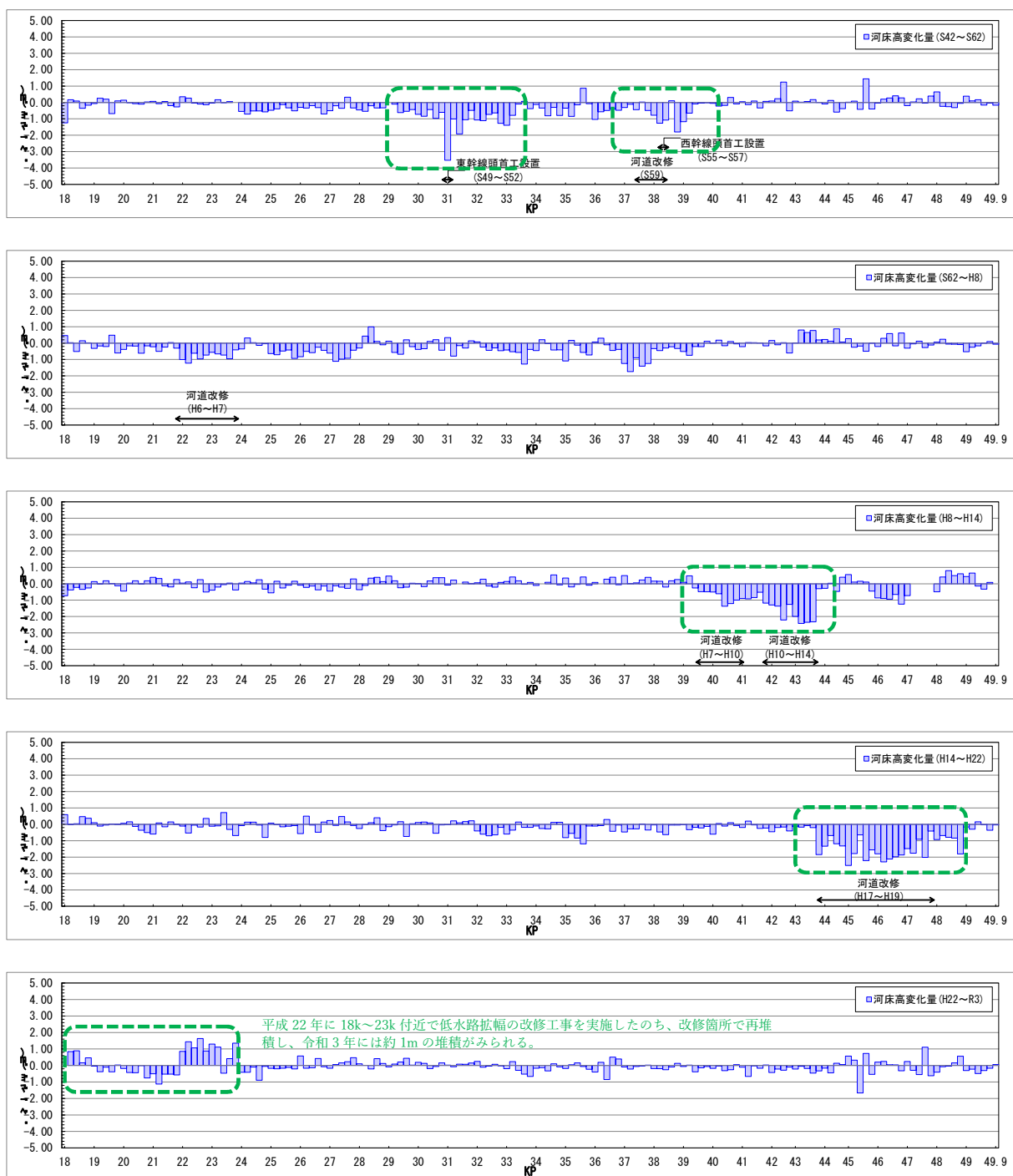


図 8.4 網走湖上流 平均河床高変動量の経年変化

9-1 河川管理区間

表 9.1 網走川水系の大臣管理区間

河川名	区間		
	上流端(目標物)	下流端	延長 (km)
網走川	北海道網走郡津別町字緑町 269 番地先	海	62. 2
美幌川	左岸 北海道網走郡美幌町字稲美 266 番地先 右岸 同町字報徳 12 番の 2 地先	網走川への合流点	3. 5

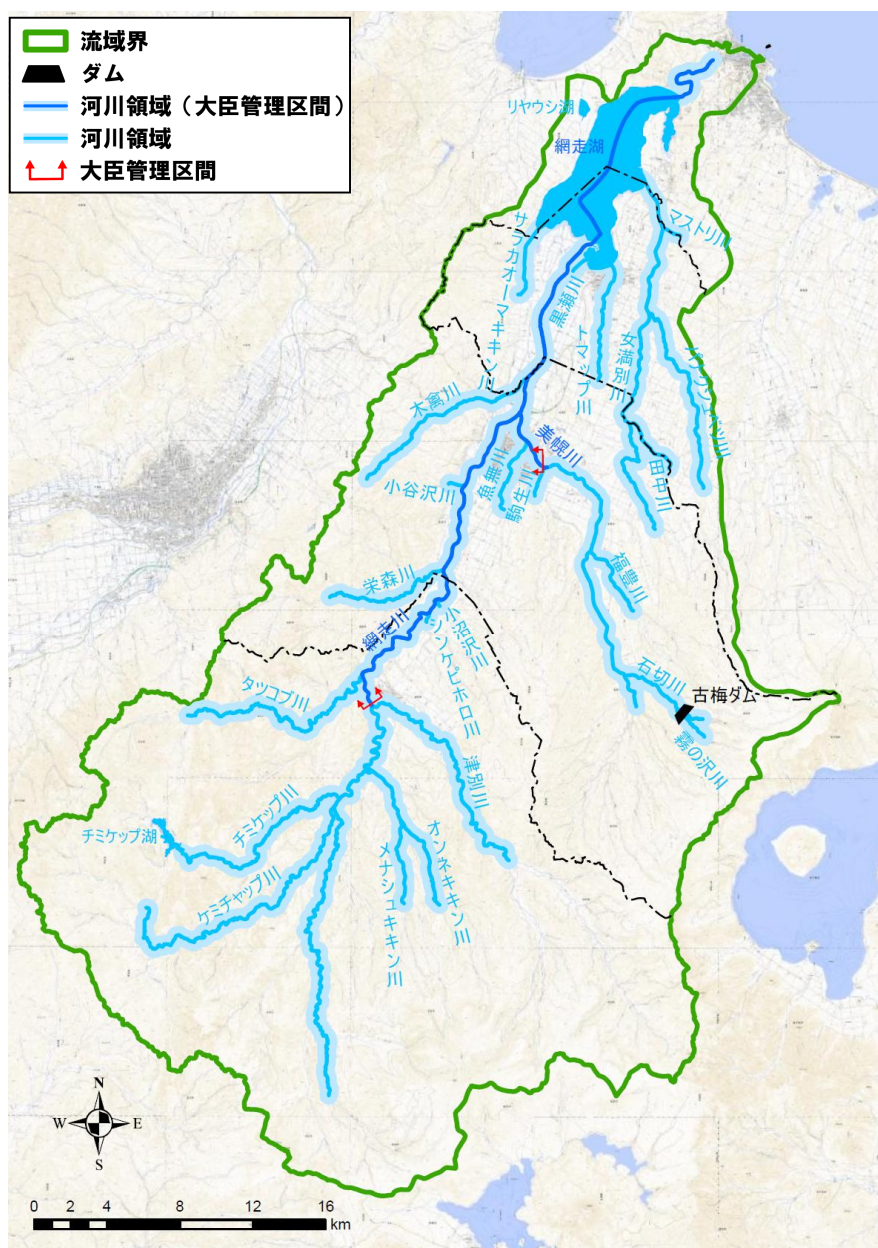


図 9.1 網走川水系の大臣管理区間

9-2 河川管理施設

網走川は、堤防の整備率が約 8 割となっており、引き続き堤防の整備を進めていく。

また、樋門等の河川管理施設は老朽化の進んだ施設が多いため、堤防も含めた河川管理施設に対して、定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕、応急対策等の維持管理を行っている。

整備の現況（令和 6 年（2024 年）3 月末時点）は以下のとおりである。

表 9.2 堤防整備の現状

大臣管理 区間延長 (km)	堤防延長 (km)			
	堤防必要区間	計画断面 堤防区間	暫定断面 堤防区間	無堤防区間
65.7	61.2	48.7	9.4	3.1

※延長は大臣管理区間の左右岸の計である。

表 9.3 主要な河川管理施設整備状況

堰	水門	床止	排水機場	樋門樋管等
1	—	—	—	42

9-3 許可工作物

網走川の直轄管理区間の河川工作物については、管理者において操作体制の確立や点検、整備を行い確実な操作を実施することとしている。

(1) 河川情報の概要

また、常に河川の状況等を把握するための CCTV カメラを設置し、ホームページ等で閲覧可能としている。

(2) 洪水予報

凡例

- 流域界
- - - 市町村界
- 気象台雨量観測所
- 開発局雨量観測所
- ▲ 開発局水位観測所
- ↕ 大臣管理区間

The map displays the Sagami River basin with its watershed boundary (solid green line) and municipal boundaries (dashed black line). Key locations include Sagami Lake (網走湖), Sagami City (網走市), Oboe Sea (オホーツク海), and various towns like Ootaki (大空町) and Misaki (美幌町). Monitoring stations are marked with red dots (weather rainfall), pink circles (development rainfall), and purple triangles (development water level). Flood control zones are indicated by red arrows and labels: '洪水予報指定河川' (River designated for flood forecast) and '水防警報指定河川' (River designated for flood warning). A scale bar at the bottom right shows distances from 0 to 10 km, and a north arrow is located in the top right corner.

図 9.2 洪水予測区間及び雨量・水位観測所

(3) 水防警報

網走川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、各水位観測所の水位をもとに水防管理者に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速かつ、的確に行われるように水防警報を発令している。

9-5 危機管理の取組

(1) 水防連絡協議会等との連携

洪水・高潮等による被害発生の防止又は軽減を行うため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難、水防活動等を迅速かつ円滑に行うための水防連絡協議会が結成されている。この協議会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握、定期的な水防訓練等を行っている。

平成 28 年（2016 年）4 月に「網走川減災対策協議会」を組織し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国・道・市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

(2) 水質事故対策の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故は、流域内に生息する魚類や生態系のみならず、水利用者にも多大な被害を与えている。水質事故が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、迅速で適切な対応が必要になっている。このため、北海道一級河川環境保全連絡協議会網走地方部会により、連絡体制を強化すると共に、水質事故訓練等の実施や水質事故に備え、常時から資機材の備蓄を行っている。

(3) 洪水危機管理の取組

近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進するため、国や県の関係部署並びに流域の市町等で組織された「網走川ほか流域治水協議会」において、令和 3 年（2021 年）3 月に網走川流域で行う流域治水の全体像をとりまとめた「網走川水系流域治水プロジェクト」を策定した。また、気候変動の影響による降水量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため、流域のあらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図り、「網走川水系流域治水プロジェクト 2.0」を令和 6 年（2024 年）3 月に策定した。

また、想定し得る最大規模の洪水等が発生した場合でも人命を守ることを第一とし、平成 28 年（2016 年）11 月には想定最大規模降雨を対象とした浸水想定区域図を作成・公表している。令和 4 年（2022 年）3 月には、土地利用の住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討等、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表している。



写真 9.1 網走川ほか流域治水協議会の様子

～網走地域の魅力ある観光資源と農林水産業を支える人々の暮らしを守る治水対策の推進～

○気候変動の影響を踏まえ、洪水総経時間の長い網走湖を有している網走川流域においてもより一層事前防災対策を進める必要がある。国河川においては、気候変動後（2℃上昇）においても現行河川整備計画での目標(戦後最大洪水である平成4年9月洪水規模)と同程度の治水安全度を確保し、洪水による災害の発生防止または軽減を図る。

○気候変動の影響に伴う降水量や洪水発生頻度の变化、流域の土地利用の変遷等を踏まえ、河道の安定に配慮した河道断面の増大等、更なる治水対策を推進する。その実施にあたっては、網走湖の汽水環境の保全などグリーンインフラの取組によって引き続き推進し、かわまちづくりをはじめ網走の持つさまざまな魅力を最大限に活かしたまちづくりにも寄与させる。



図 9.3 網走川水系流域治水プロジェクト 2.0

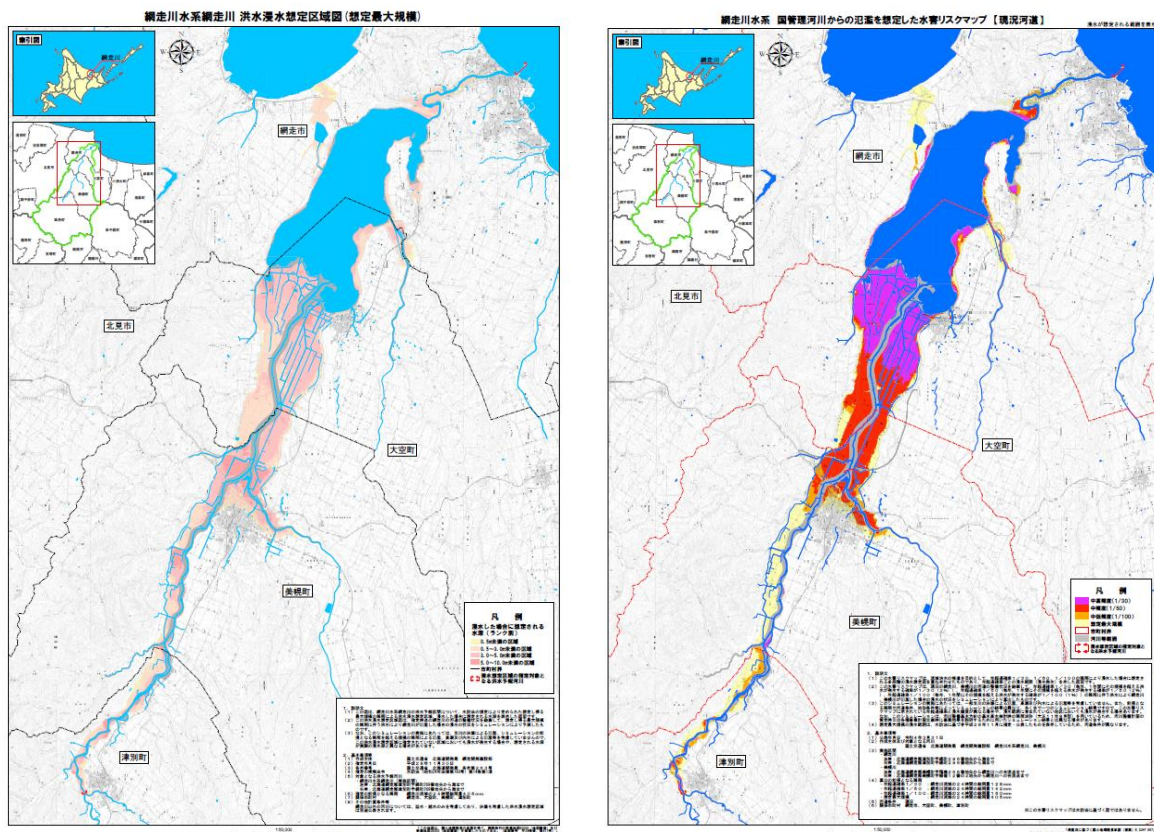


図 9.4 左：網走川洪水浸水想定区域図（想定最大規模） 右：網走川水害リスクマップ

10. 地域との連携

河川清掃活動や河川愛護モニター制度等の活用により、住民参加型の河川管理の構築に努める。網走川では、河川の維持や河川環境の保全の取組みとして、「網走川流域の会」などの団体や地域住民と連携した清掃活動、植樹会、環境学習など様々な市民活動が行われており、今後も市民等の川での社会貢献活動を支援するとともに、地域住民・市民団体・関係機関及び河川管理者が、各々の役割を認識し、連携・協働して、流域に伝わる文化等に配慮しつつ効果的かつきめ細かな河川管理を実施している。

10-1 地域住民、河川協力団体、市民団体等との協働

(1) 実施の基本的な考え方

河川環境の保全や河川利用について、地域住民・河川協力団体・市民団体等との協働により、地域の特性を反映した川の維持管理を実施している。

(2) 実施内容

河川清掃等において、地域住民・河川協力団体・市民団体等と協働する。

(3) 実施に当たっての留意点

地域の取組と連携し、河川整備や住民参加型の河川管理体系の構築に努める。



写真 10.1 河川清掃状況

10-2 関係自治体との連携・調整

(1) 実施の基本的な考え方

市町と連携して、効果的・効率的な河川の維持管理を実施している。

(2) 実施内容

【減災対策協議会等】

市町等と連携・協力して、大規模氾濫に対して減災のための目標を共有し、減災対策の取組を実施している。

【合同巡視】

重要水防箇所や危険箇所等において関係自治体と連携し、出水期前に合同巡視を実施している。また、河川管理施設の安全利用点検を行う。

(3) 実施に当たっての留意点

河川巡視や各種点検の結果、注意すべき箇所については、市町との情報共有を密に行う。



写真 10.2 効率的な水防活動を行うための減災対策協議会、合同巡視